地方公会計標準ソフトウェア

インストール手順書（サーバ／シングル構成編）
日々仕訳の場合の追加セットアップ手順

本手順書は、平成 31 年 4 月 25 日のリリース以降に地方公会計標準ソフトウェアをダウンロードし、初期インストールを行う場合の地方公会計向け前提ミドルウェア及び地方公会計標準ソフトウェアのインストール及び初期セットアップ手順を示す文書です

平成 31 年 4 月 15 日のリリースより前に地方公会計標準ソフトウェアをダウンロードし、すでにインストールを行っている場合は、本手順書ではなく、別冊資料「バージョンアップ手順書」のとおり、地方公会計標準ソフトウェアのバージョンアップ作業を行ってください。

平成31年4月

地方公共団体情報システム機構

D02-01-50

《他社所有名称に関する表示》

Microsoft Excel， Microsoft Internet Explorer は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。本マニュアルではそれぞれ，Excel，Internet Explorer と略称致します。

Microsoft Access Database Engine は米国 Microsoft Corporatrion の登録商標です。

Windows は，米国およびそのほかの国における米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

そのほか，本手順書に掲載したソフトウェア名，プログラム名，システム名などは一般に各社の商標，あるいは登録商標です。

はじめに

本手順書は、仕訳方式が日々仕訳の場合に、別冊資料「インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」に示すインストール、セットアップ手順に加えて必要なセットアップ方法について説明するものです。なお、本手順書は、システム構成パターン C、D を対象としています。システム構成パターンについては、別冊資料「インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の付録 B をご参照ください。

■ マニュアルの構成

本手順書は 3 章から構成されており、その概要は以下の通りです。

1　本手順書に示すセットアップを実施する前に

本手順書に示すセットアップを実施する前に知っておくべき内容について説明しています。

2　サーバのセットアップ（日々仕訳の場合のみ）

サーバの AP セットアップ方法（日々仕訳の場合のみ）について説明しています。

3　 OS 再起動後の確認

OS 再起動後の確認方法について説明しています。

付録

目次

1 本手順書に示すセットアップを実施する前に 1
1.1 本手順書に示すセットアップを実施するための前提 2
1.2 環境構築の流れ 3
2 サーバのセットアップ（日々仕訳の場合のみ） 4
2.1 AP のセットアップ（日々仕訳の場合のみ） 5
3 OS 再起動後の確認 66
3.1 OS 再起動後の確認 67
3.2 地方公会計標準ソフトウェア（日々仕訳部分）の利用開始にあたって 71
付録 72
付録 A 共有フォルダの設定方法 73

1 本手順書に示すセットアップを実施する前に

この章では、本手順書に示すセットアップを実施する前に知っておくべき内容について説明します。

1.1　本手順書に示すセットアップを実施するための前提

1.2　環境構築の流れ

1.1　本手順書に示すセットアップを実施するための前提

ここでは、本手順書に示すセットアップを実施するための前提について説明します。

1) 別冊資料「インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」に示すインストール、セットアップ手順を事前に全て完了しておく必要があります。

2) **本手順に示すインストール作業は、必ず別冊資料「インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」でインストールしたユーザと同じユーザで実施してください。**

3) **本手順書の「C:¥kokaikei」フォルダは、別冊資料「インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた［本手順書内に記載している作業フォルダ］です。推奨値から変更した場合は、適宜読み替えてください。**

1.2　環境構築の流れ

ここでは、環境構築の流れについて説明します。

環境構築の流れ、および参照先を次の図に示します。環境構築は、必ず以下の図に示す構築の流れ通りに実施してください。**構築を順番通りに実施しなかった場合、正常に環境が構築できない場合があります。**

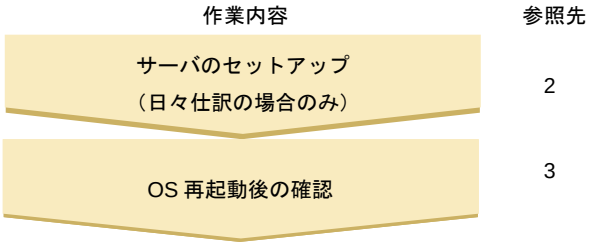


図 1-2　構築の流れと参照先

2 サーバのセットアップ（日々仕訳の場合のみ）

この章では、サーバの AP のセットアップ（日々仕訳の場合のみ）方法について説明します。

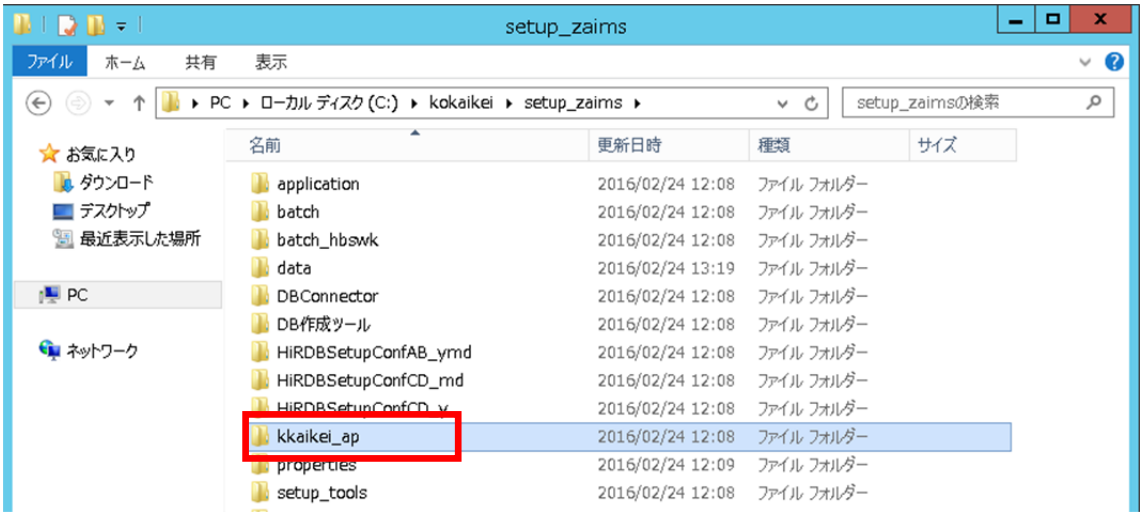
2.1　AP のセットアップ（日々仕訳の場合のみ）

2.1　AP のセットアップ（日々仕訳の場合のみ）

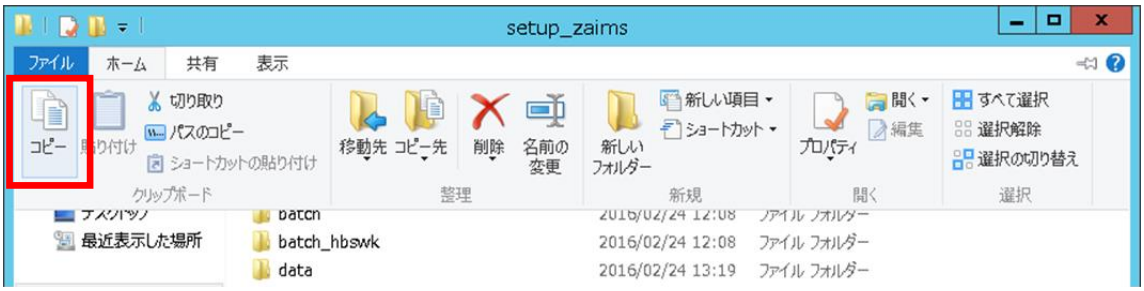
ここでは、日々仕訳の場合のみ必要な AP のセットアップ方法について説明します。AP のセットアップ（日々仕訳の場合のみ）は、サーバで実施してください。

（注）必ず別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」に示す地方公会計標準ソフトウェアのインストール、セットアップ手順を全て完了してから、以下の手順を実施してください。

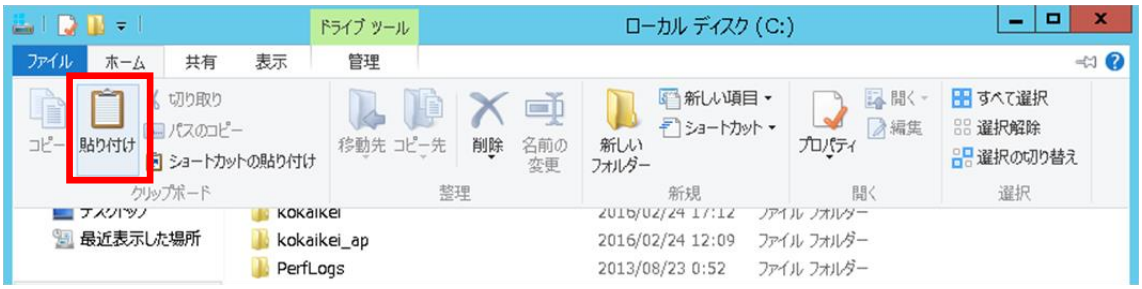
1) ［Ctrl］キーを押しながら、「C:¥kokaikei¥setup_zaims」フォルダ下の「kkaikei_ap」フォルダを選択します。



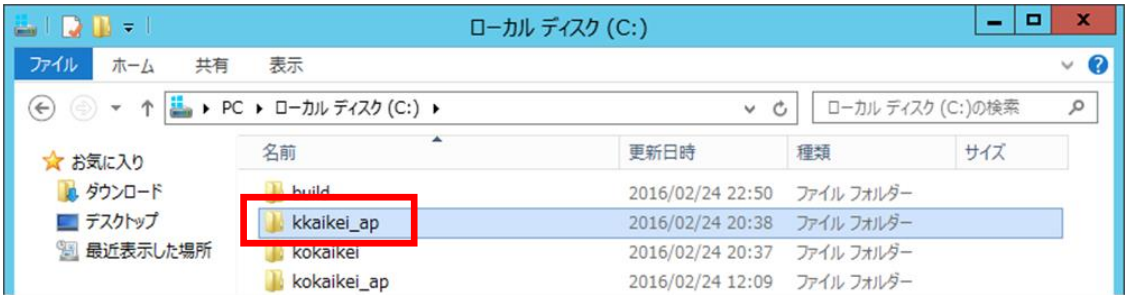
2) 「kkaikei_ap」フォルダを選択した状態で、［ホーム］ - ［コピー］をクリックします。



3) 「C:¥」ドライブ下で、［ホーム］ - ［貼り付け］をクリックします。

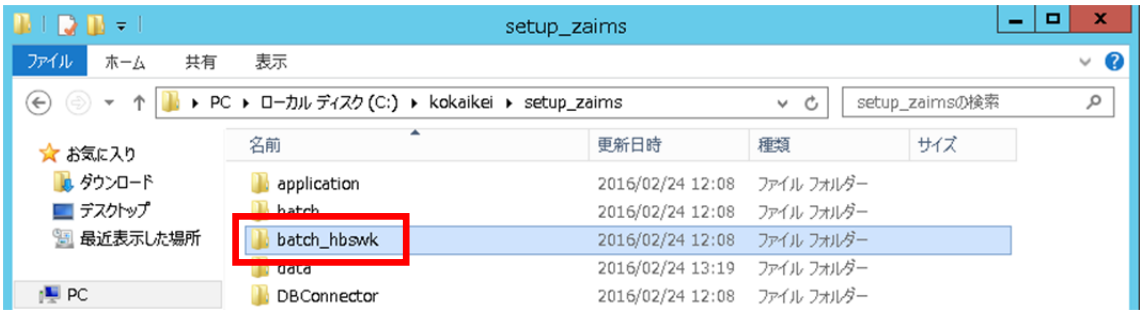


4) 「C:¥」ドライブ下に「kkaikei_ap」フォルダがコピーされたことを確認します。

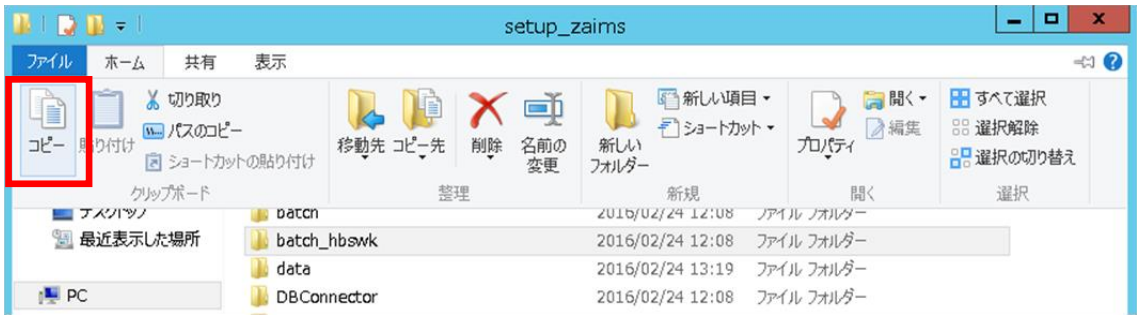


（注）日々仕訳を実施する場合、「kkaikei_ap」は「C:¥」ドライブ直下にコピーする必要があります。既に同名のフォルダーが存在している場合は、そのフォルダーを別名に変更してください。（「kkaikei_ap」はフォルダー名称の変更はできません）

5) ［Ctrl］キーを押しながら、「C:¥kokaikei¥setup_zaims」フォルダ下の「batch_hdswk」フォルダを選択します。

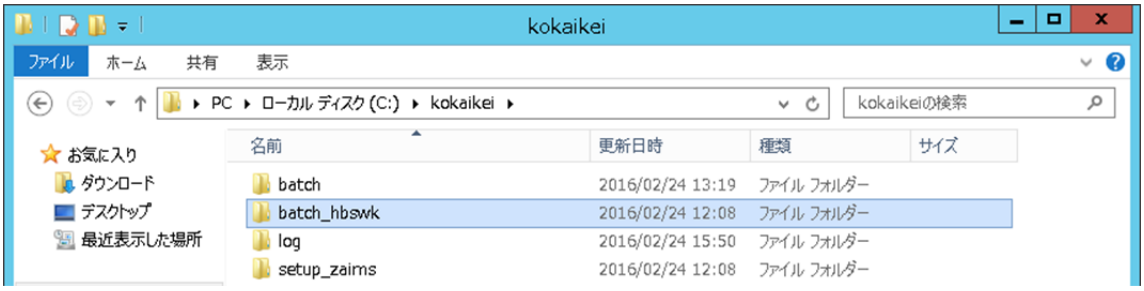


6) 「batch_hdswk」フォルダを選択した状態で、［ホーム］ - ［コピー］をクリックします。

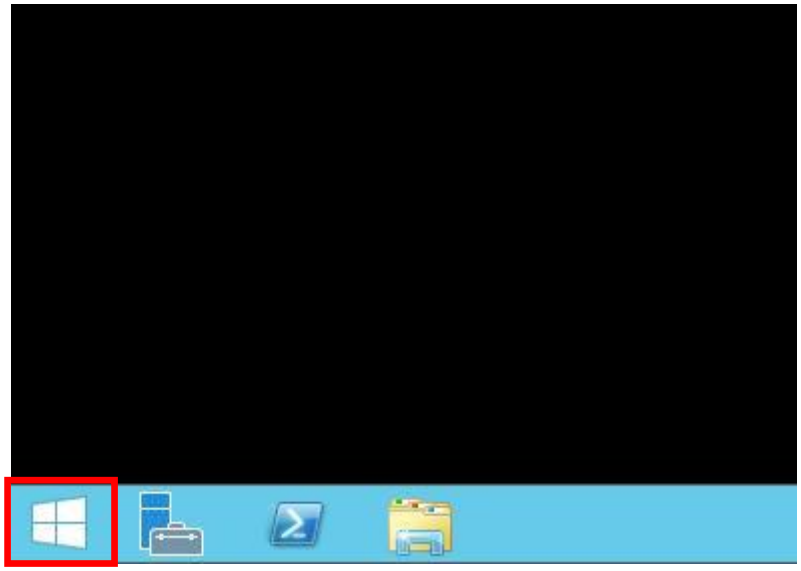


7) 「C:¥kokaikei」フォルダ下で、［ホーム］ - ［貼り付け］をクリックします。

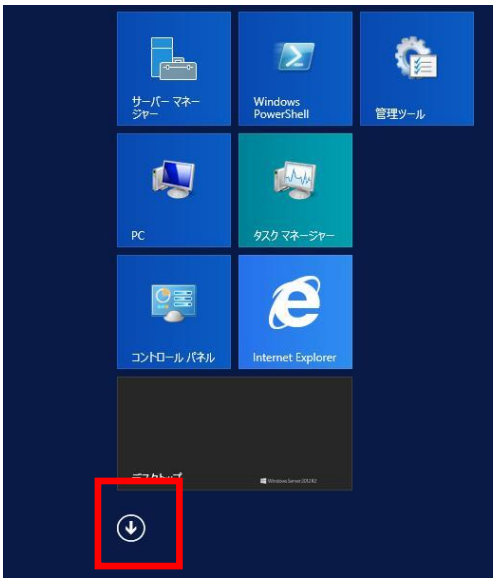
8) 「C:¥kokaikei」フォルダ下に「batch_hdswk」フォルダがコピーされたことを確認します。



9) ［スタート］ボタンをクリックします。



10) ［下矢印］ボタンをクリックします。



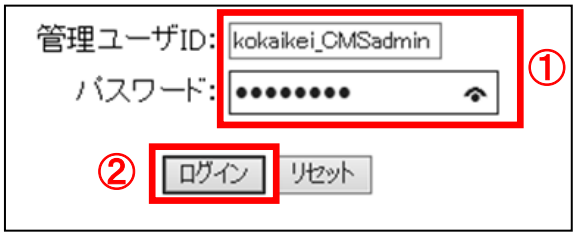
11) ［運用管理ポータル］を選択します。

12) ［運用管理ポータルログイン］画面が起動します。

13) ［運用管理ポータルログイン］画面で、

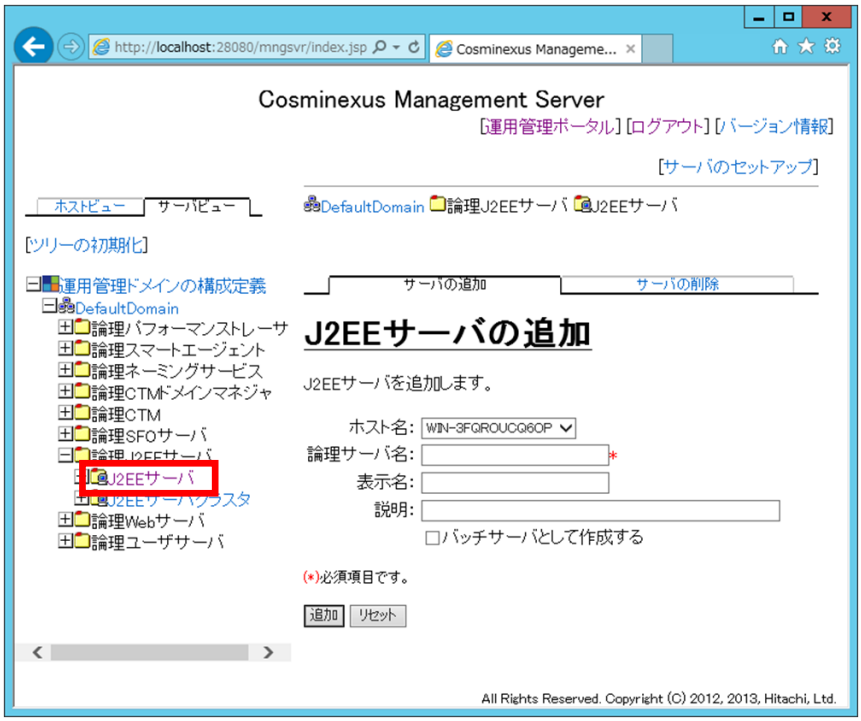
① ［管理ユーザ ID］欄のテキストボックスに別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の 3.1 節の項番 10)で設定した管理ユーザ ID とパスワードを入力します。

② ［ログイン］ボタンをクリックします。



14) ［運用管理ポータル］画面で、「運用管理ドメインの構成定義」をクリックします。

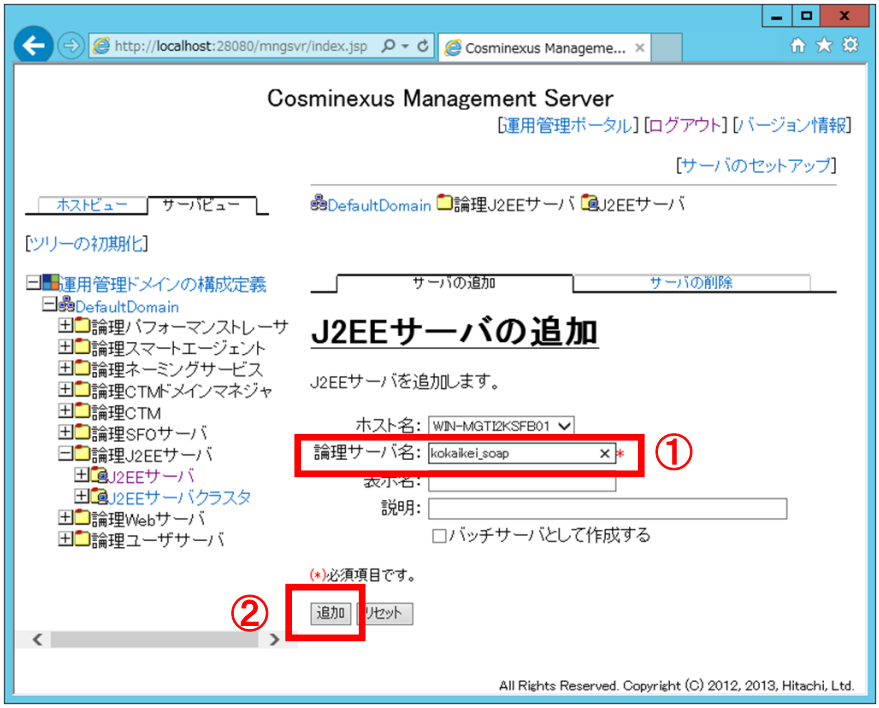
15) ［運用管理ドメインの構成定義］画面で、［サーバビュー］の［運用管理ドメインの構成定義］-［DefaultDomain］-［論理 J2EE サーバ］-［J2EE サーバ］をクリックします。



16) ［J2EE サーバの追加］画面で、

① ［論理サーバ名］欄のテキストボックスに「kokaikei_soap」と入力します。

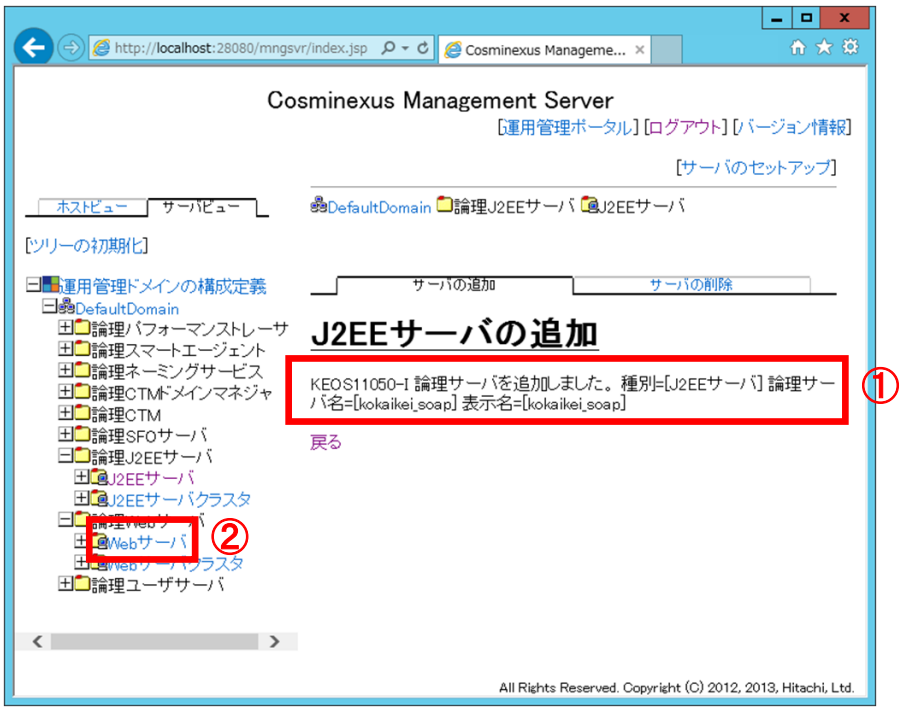
② ［追加］ボタンをクリックします。



17) ［J2EE サーバの追加］画面で、

① 「KEOS11050-I 論理サーバを追加しました。」メッセージを確認します。

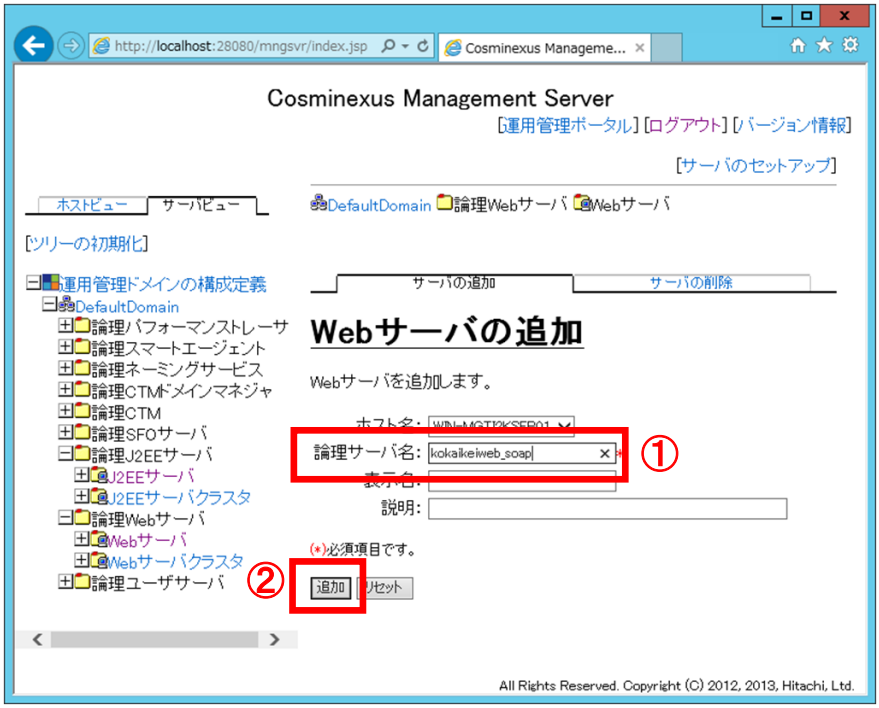
② ［サーバビュー］の［運用管理ドメインの構成定義］-［DefaultDomain］-［論理 Web サーバ］-［Web サーバ］をクリックします。



18) ［Web サーバの追加］画面で、

① ［論理サーバ名］欄のテキストボックスに「kokaikeiweb_soap」と入力します。

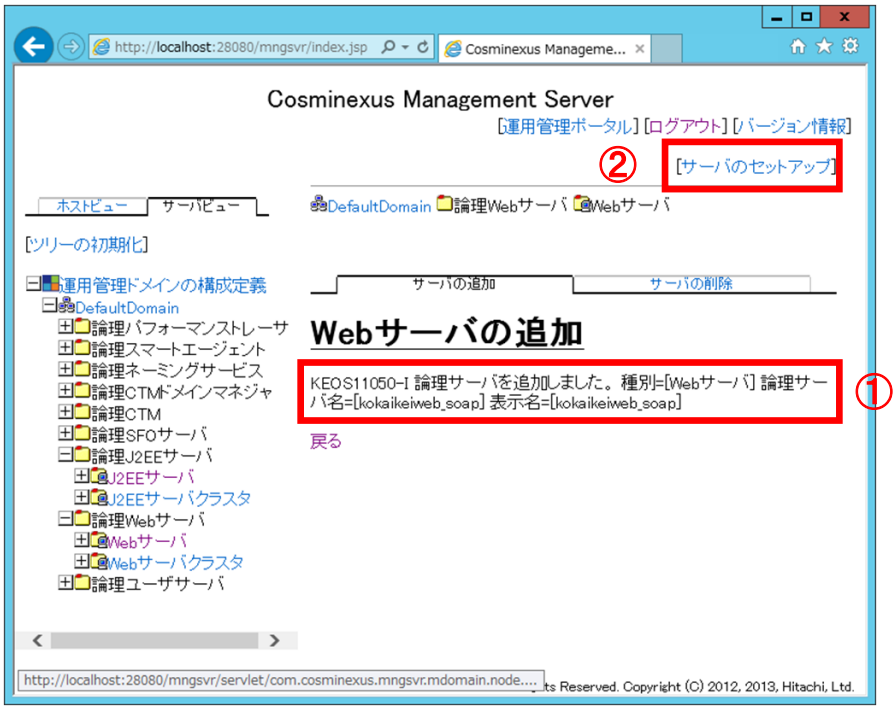
② ［追加］ボタンをクリックします。



19) ［Web サーバの追加］画面で、

① 「KEOS11050-I 論理サーバを追加しました。」メッセージを確認します。

② ［サーバのセットアップ］をクリックします。



20) ［セットアップ］画面で、

① 論理サーバ名「kokaikei_soap」のチェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。

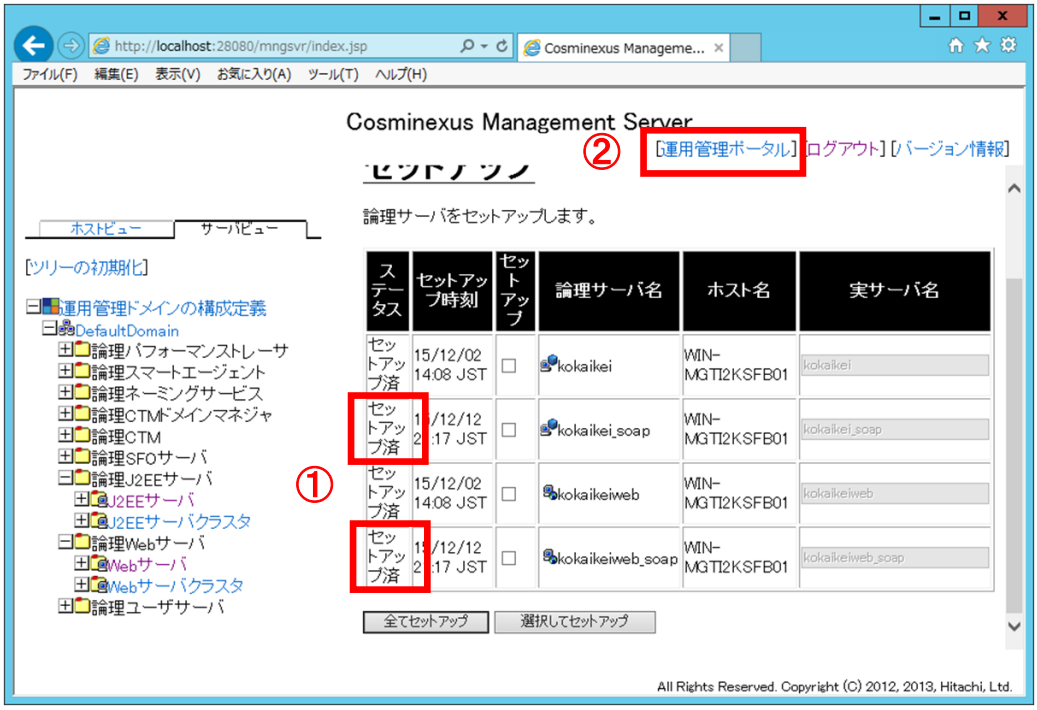
② 論理サーバ名「kokaikeiweb_soap」のチェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。

③ ［選択してセットアップ］ボタンをクリックします。

21) ［セットアップ］画面で、

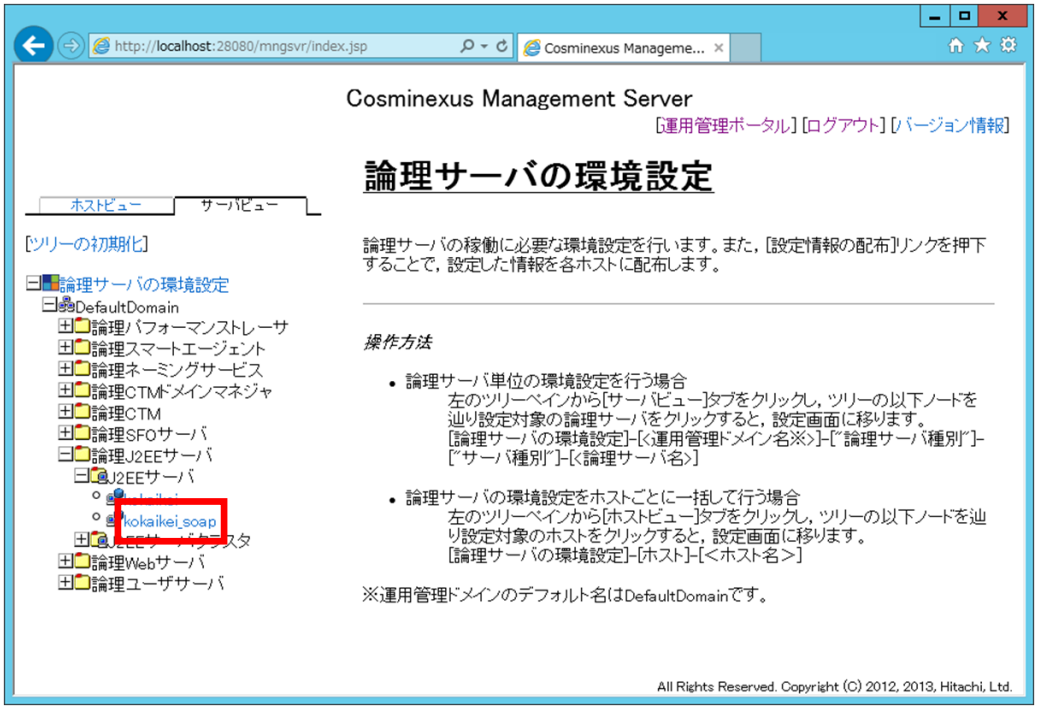
① 論理サーバ名「kokaikei_soap」「kokaikeiweb_soap」のステータスが「セットアップ済」になったことを確認します。

② ［運用管理ポータル］をクリックします。



22) ［運用管理ポータル］画面で、［論理サーバの環境設定］をクリックします。

23) ［論理サーバの環境設定］画面で、［サーバビュー］の［論理サーバの環境設定］-［DefaultDomain］-［論理 J2EE サーバ］-［J2EE サーバ］-［kokaikei_soap］をクリックします。

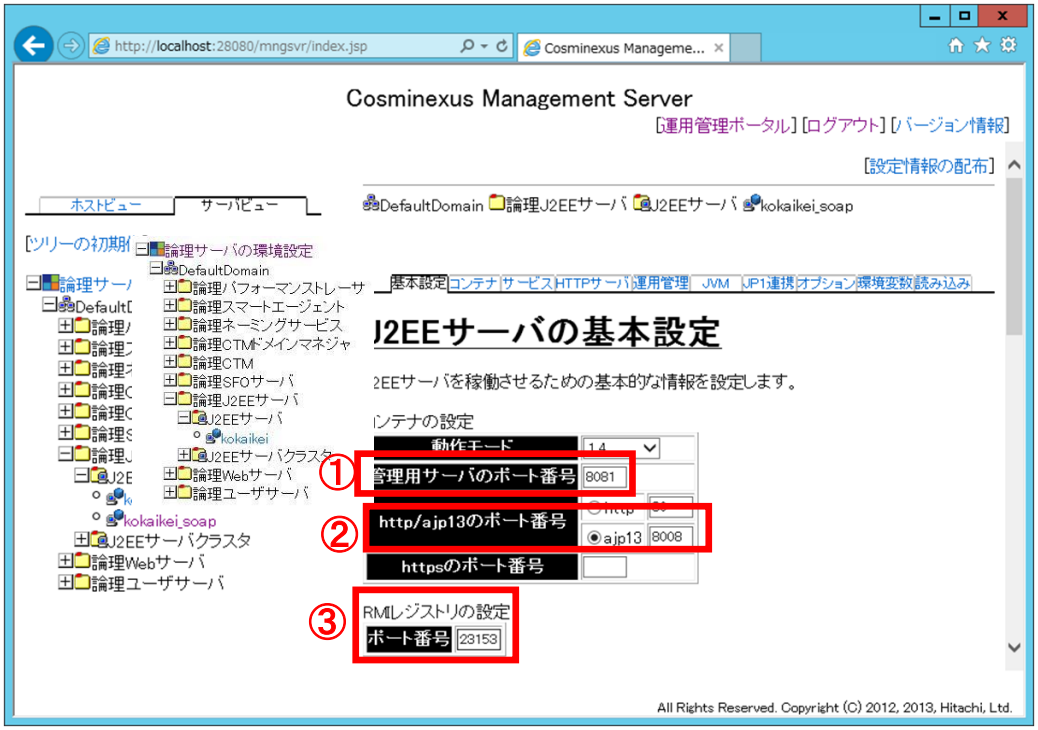


24) ［J2EE サーバの基本設定］画面で、

① ［コンテナの設定］の［管理用サーバのポート番号］欄のテキストボックスに「8081」を入力します。

② ［http/ajp13 のポート番号 ajp13］欄のテキストボックスに「8008」を入力します。

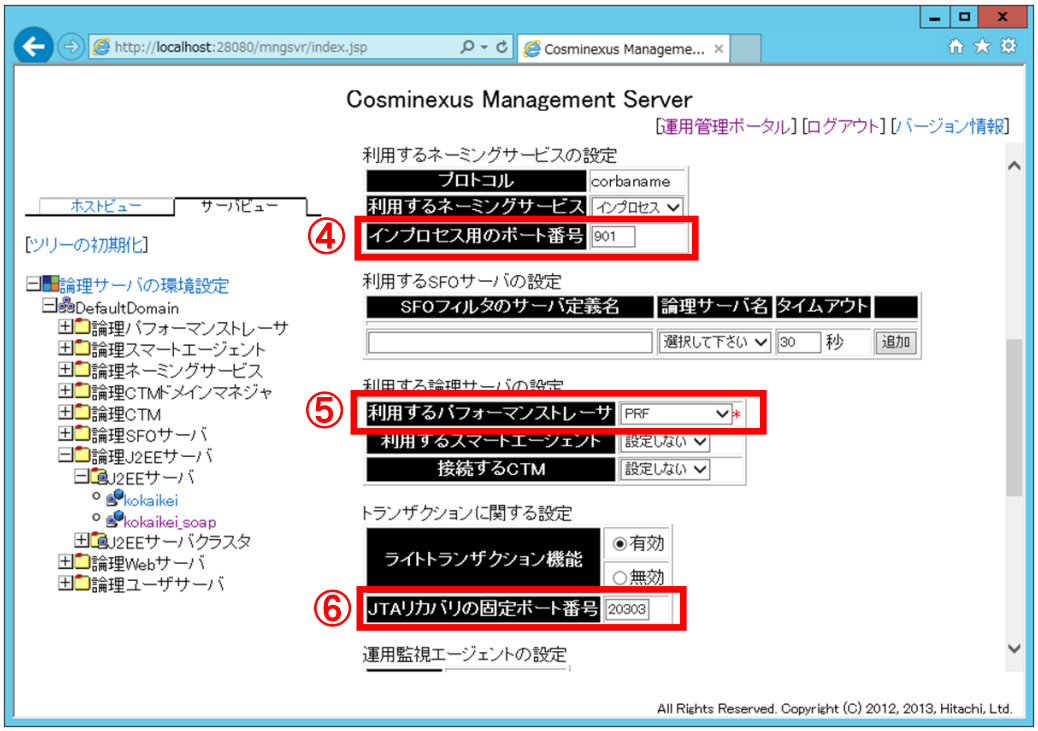
③ ［RMI レジストリの設定］欄のテキストボックスに「23153」を入力します。



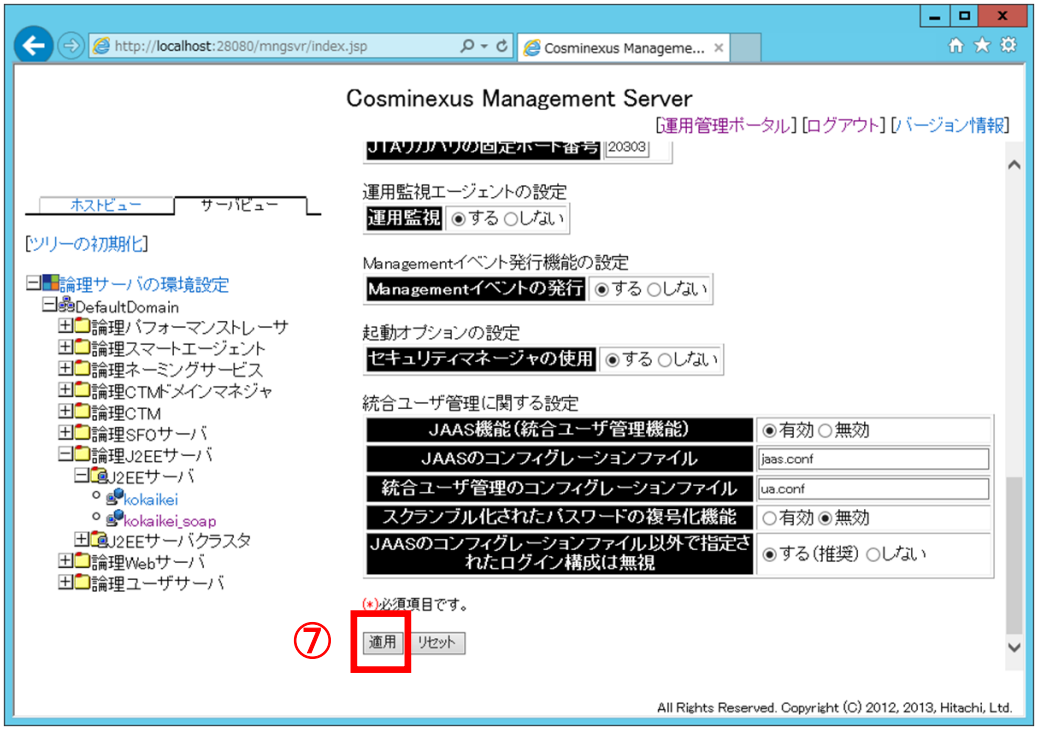
④ 画面をスクロールして［利用するネーミングサービスの設定］を表示させ、［インプロセス用のポート番号］欄のテキストボックスに「901」を入力します。

⑤ ［利用する論理サーバの設定］の［利用するパフォーマンストレーサ］欄のドロップダウンリストから「PRF」を選択します。

⑥ ［JTA リカバリの固定ポート番号］欄のテキストボックスに「20303」を入力します。



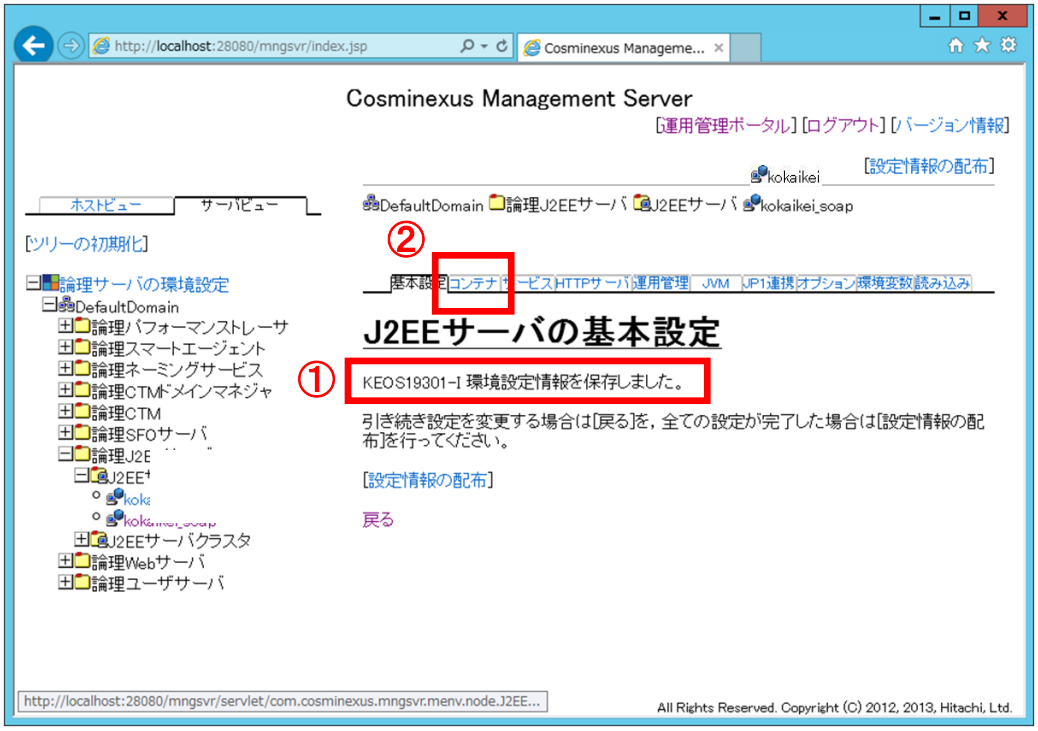
⑦ 画面を一番下までスクロールして［適用］ボタンをクリックします。



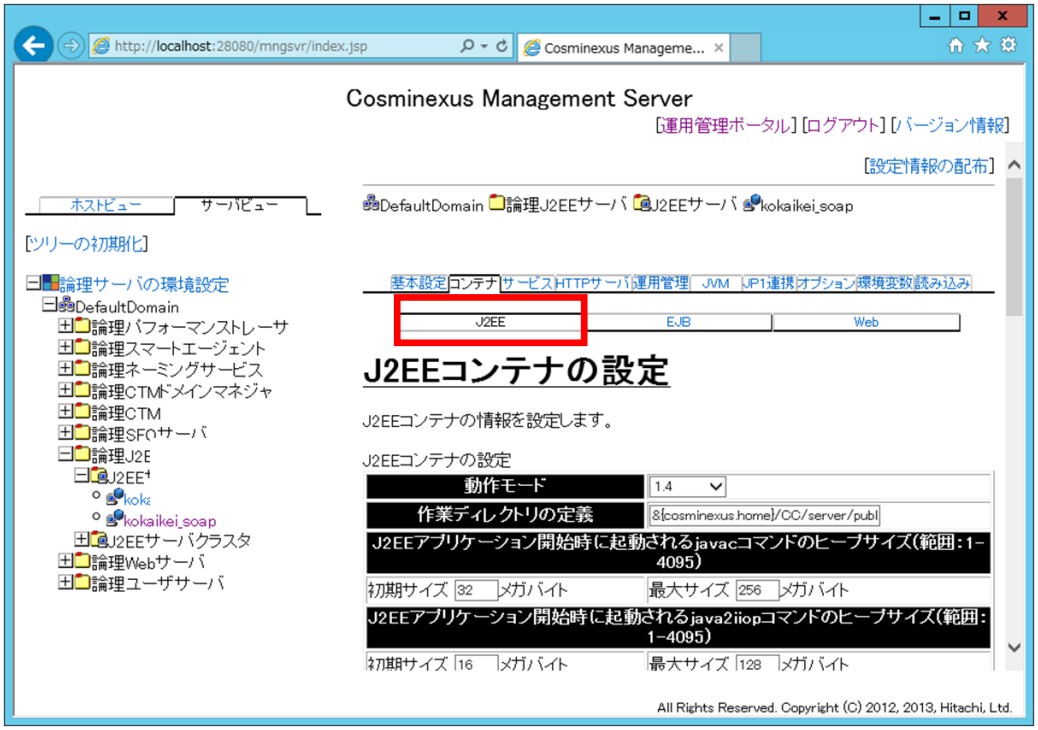
25) ［J2EE サーバの基本設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

② ［コンテナ］をクリックします。



26) ［J2EE コンテナの設定］画面で、［J2EE］が選択されていることを確認します。



27) 画面を一番下までスクロールして［拡張パラメタ］を表示します。

①　［拡張パラメタ］の一番下の［有効］欄のチェックボックスをオンにします。

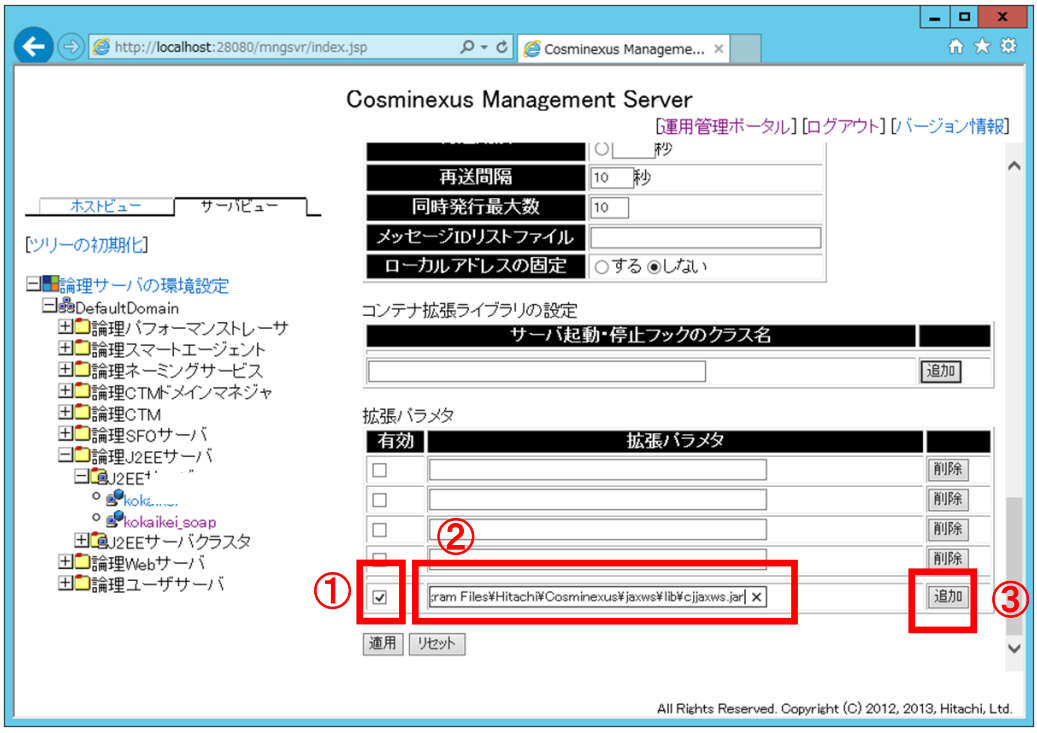
②　［拡張パラメタ］欄のテキストボックスに次に示すファイルを設定します。

- 拡張パラメタ

「add.class.path=C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥jaxws¥lib¥cjjaxws.jar」

（注）別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で［uCosminexus Application Server のインストールディレクトリ］を推奨値（C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus）以外のディレクトリに設定した場合は、上記拡張パラメタの該当部分を設定したディレクトリに変更してください。

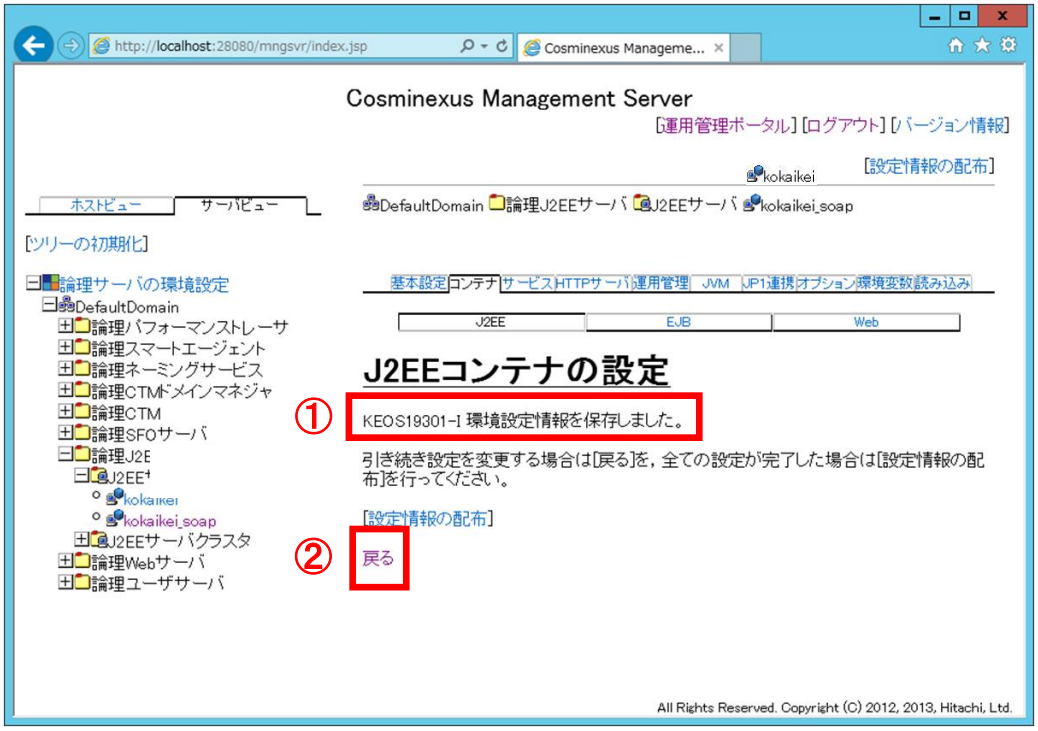
③　［追加］ボタンをクリックします。



28) ［J2EE コンテナの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

② ［戻る］をクリックします。



29) ［J2EE コンテナの設定］画面に戻るので、画面を一番下までスクロールして［拡張パラメタ］を表示します。項番 27)、28)の手順同様に次に示すファイルを［拡張パラメタ］に設定していきます。

- 拡張パラメタ

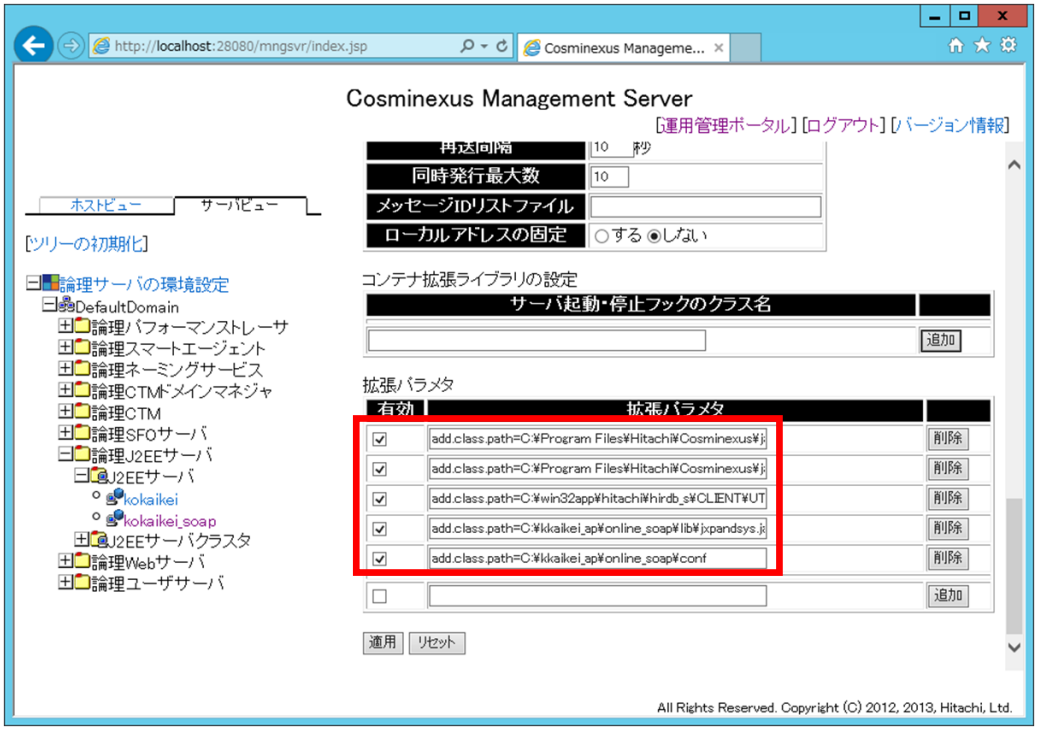
「add.class.path=C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥jaxrs¥lib¥cjjaxrs.jar」

「add.class.path=C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s¥CLIENT¥UTL¥pdjdbc2.jar」

「add.class.path=C:¥kkaikei_ap¥online_soap¥lib¥jxpandsys.jar」

「add.class.path=C:¥kkaikei_ap¥online_soap¥conf」

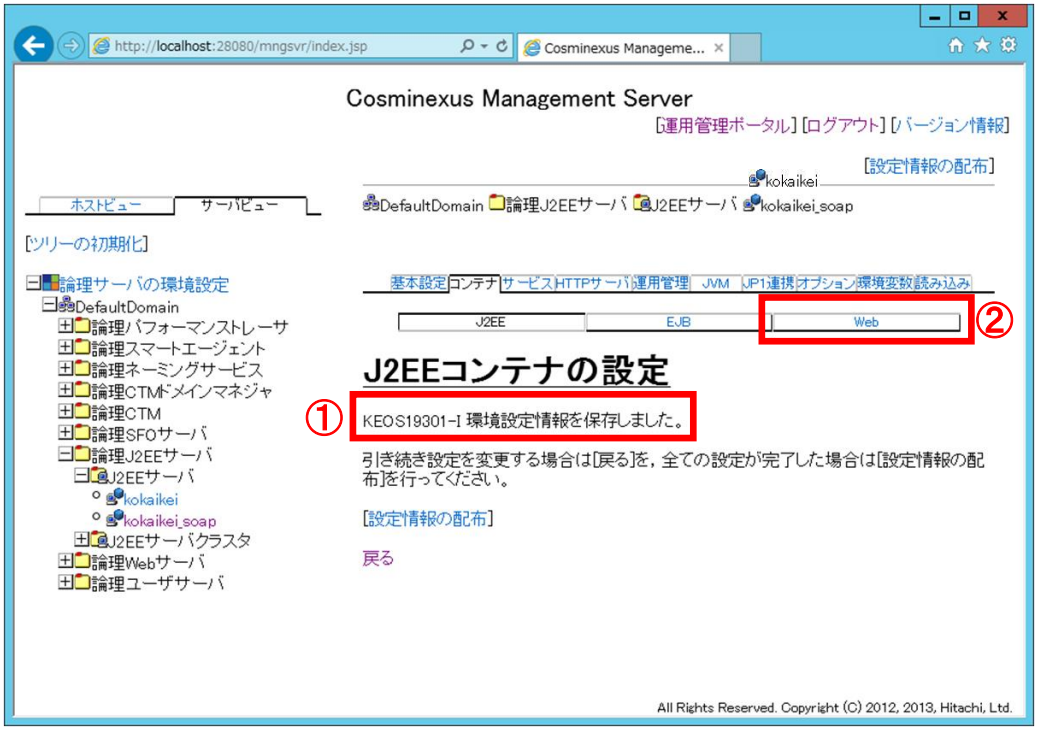
（注）別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で［uCosminexus Application Server のインストールディレクトリ］を推奨値（C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus）以外のディレクトリに設定した場合は、上記拡張パラメタの該当部分を設定したディレクトリに変更してください。また、［HiRDB のインストール先］を推奨値（C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s）以外のディレクトリに設定した場合は、上記拡張パラメタの該当部分を設定したディレクトリに変更してください。



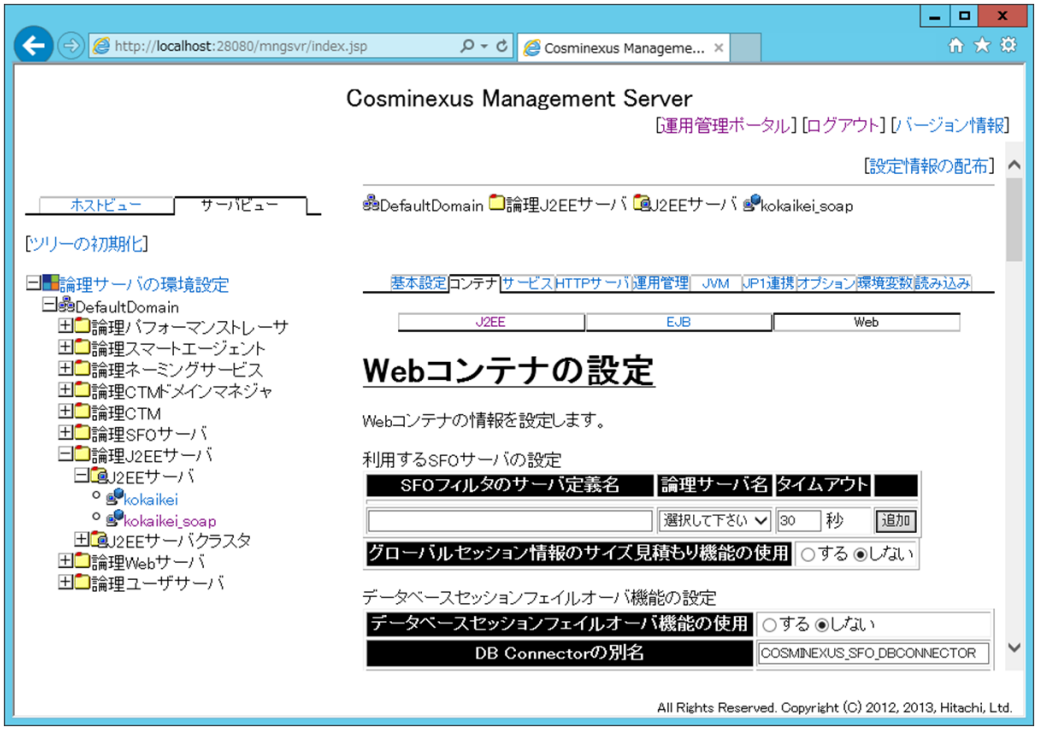
30) 最後のファイルを設定したら［J2EE コンテナの設定］画面で、

①　「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

②　［Web］をクリックします。



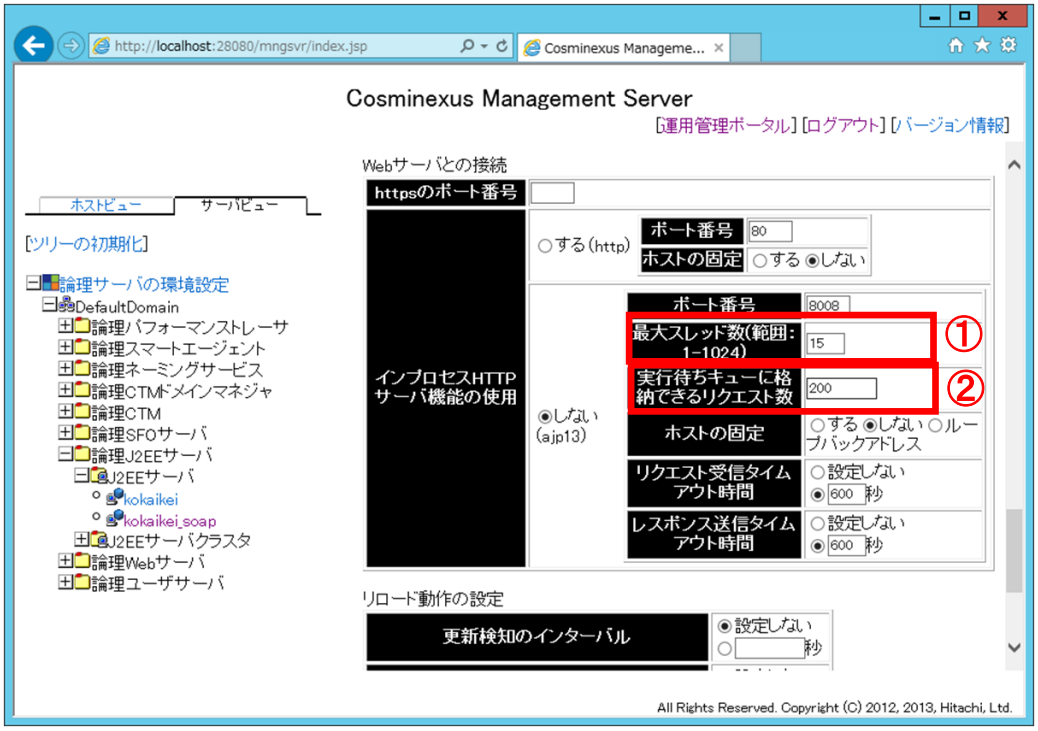
31) ［Web コンテナの設定］画面が表示されます。



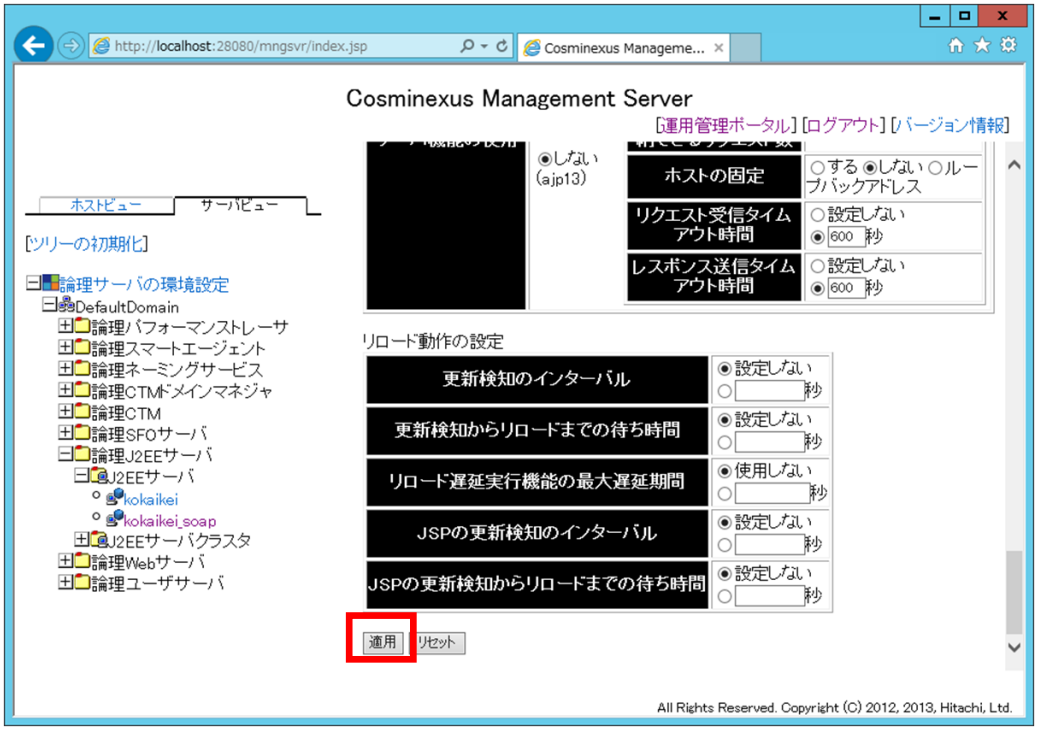
32) 画面をスクロールして［Web サーバとの接続］を表示させます。

① ［最大スレッド数］欄のテキストボックスに「15」を入力します。

② ［実行待ちキューに格納できるリクエスト数］欄のテキストボックスに「200」を入力します。



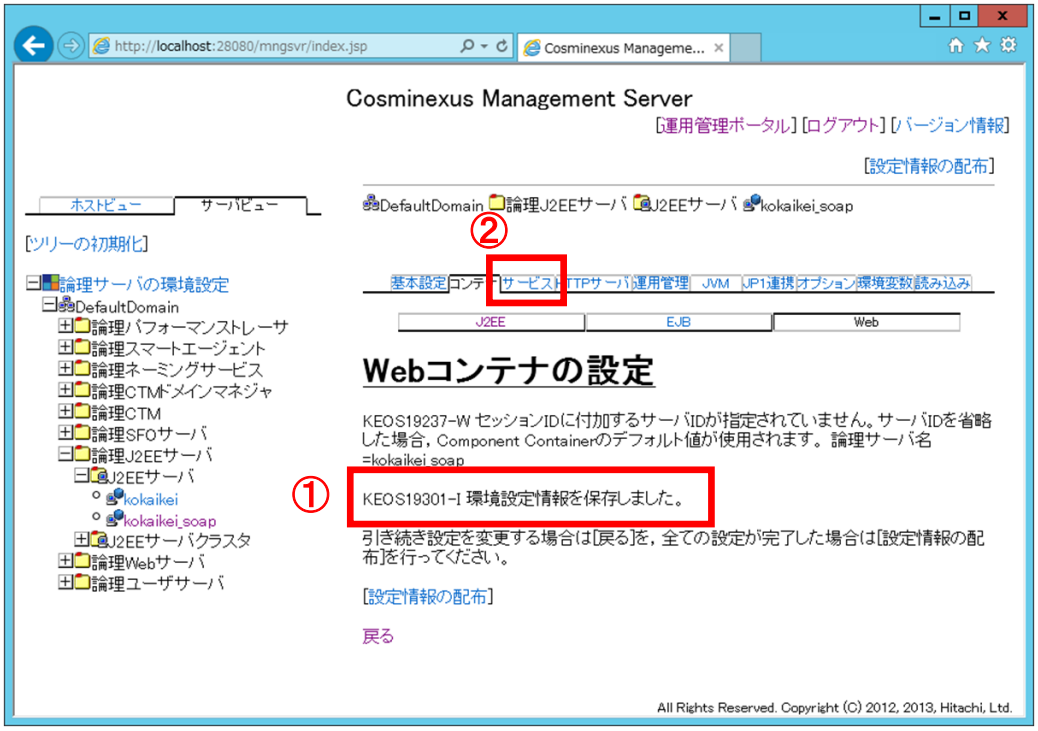
33) 画面を一番下までスクロールして［適用］ボタンをクリックします。



34) ［Web コンテナの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

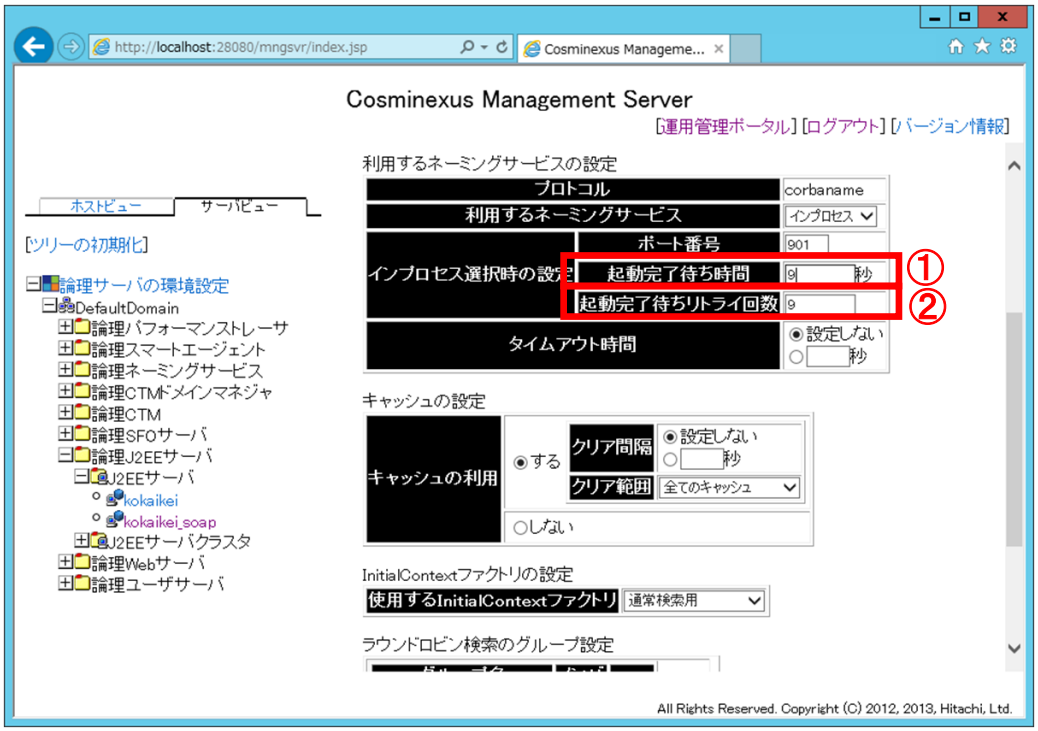
② ［サービス］をクリックします。



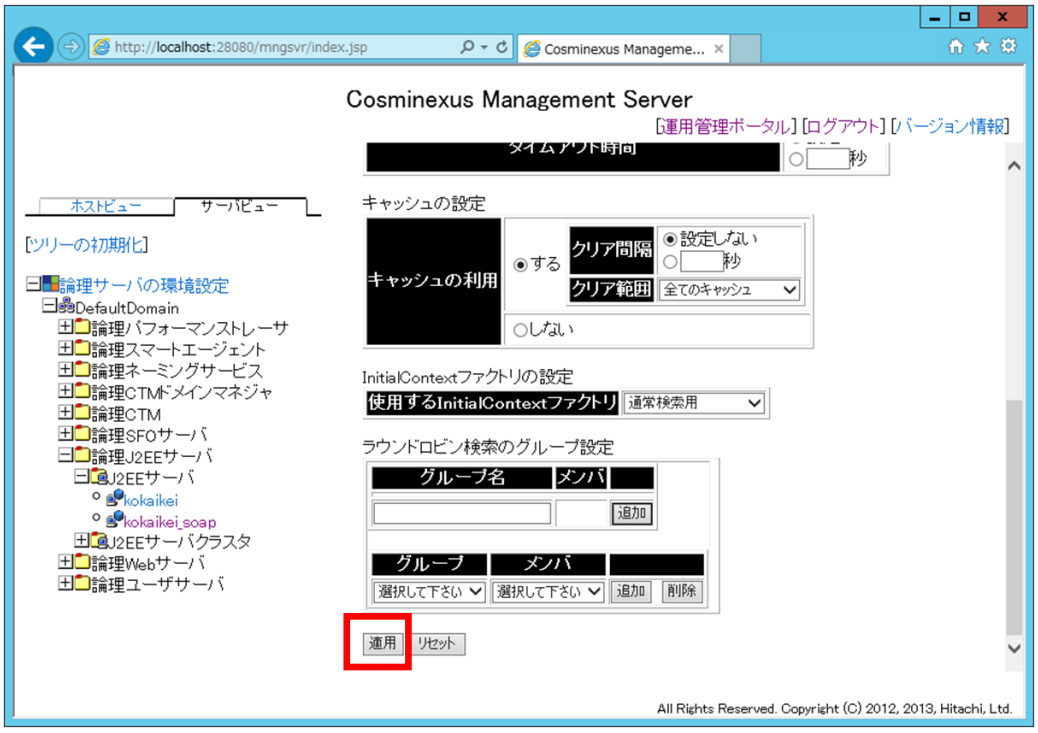
35) ［ネーミングの設定］画面で、［利用するネーミングサービスの設定］を表示させます。

① ［起動完了待ち時間］欄のテキストボックスに「9」を入力します。

② ［起動完了待ちリトライ回数］欄のテキストボックスに「9」を入力します。



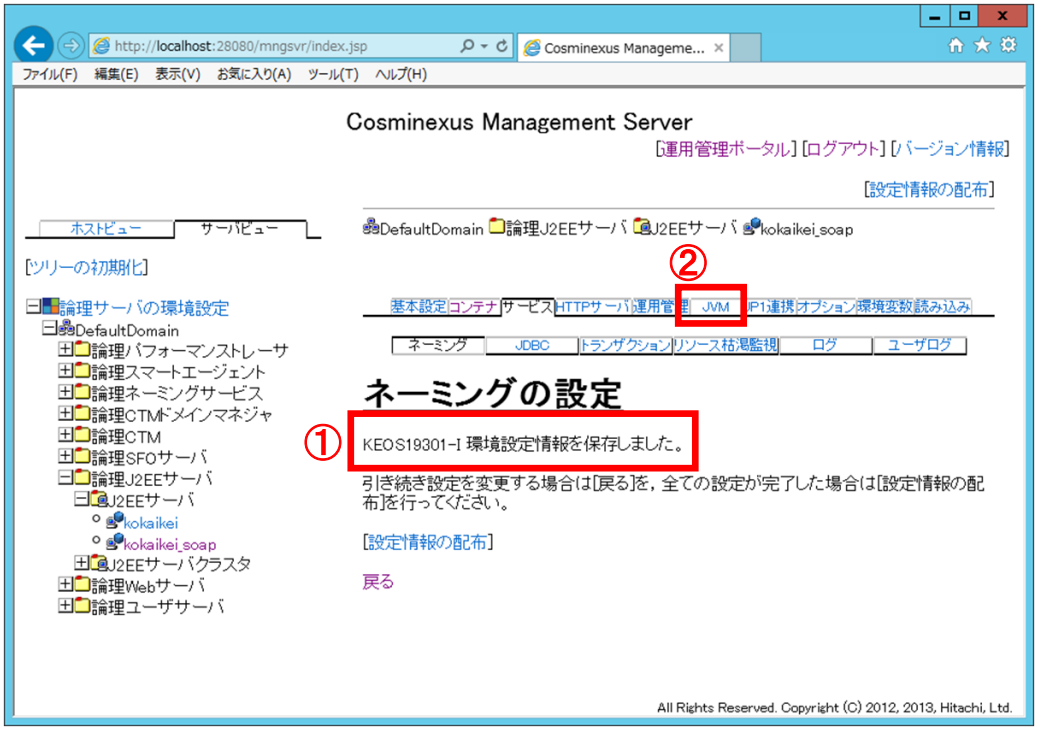
36) 画面を一番下までスクロールして、［適用］をクリックします。



37) ［ネーミングの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

② ［JVM］をクリックします。

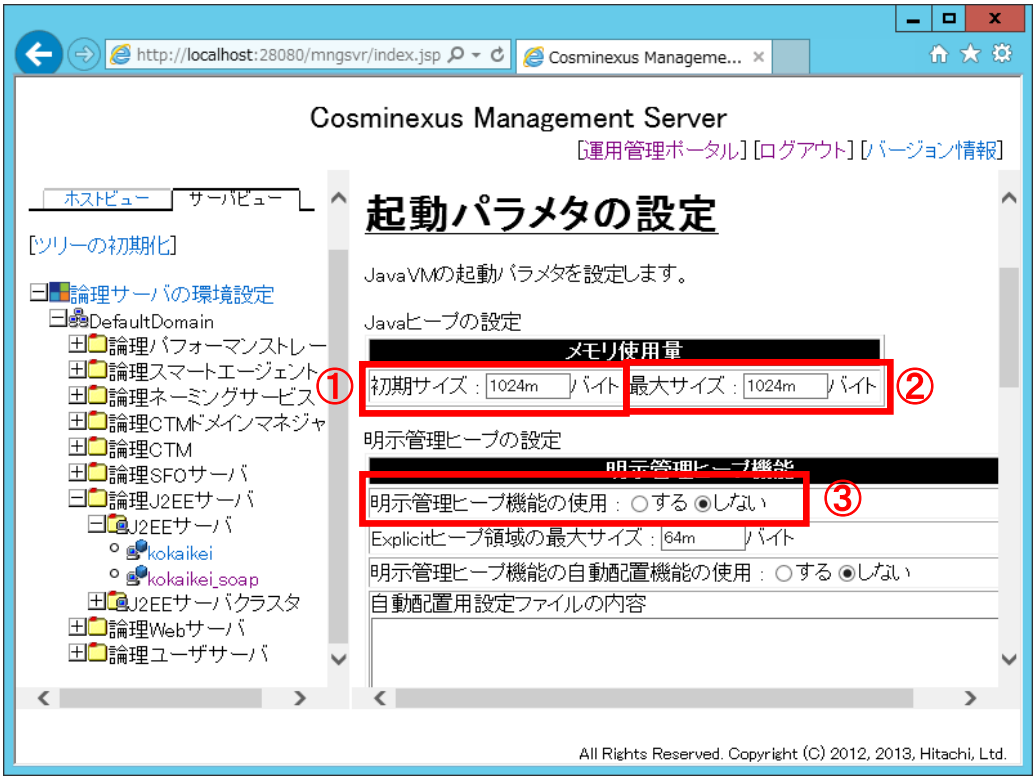


38) ［起動パラメタの設定］画面で、

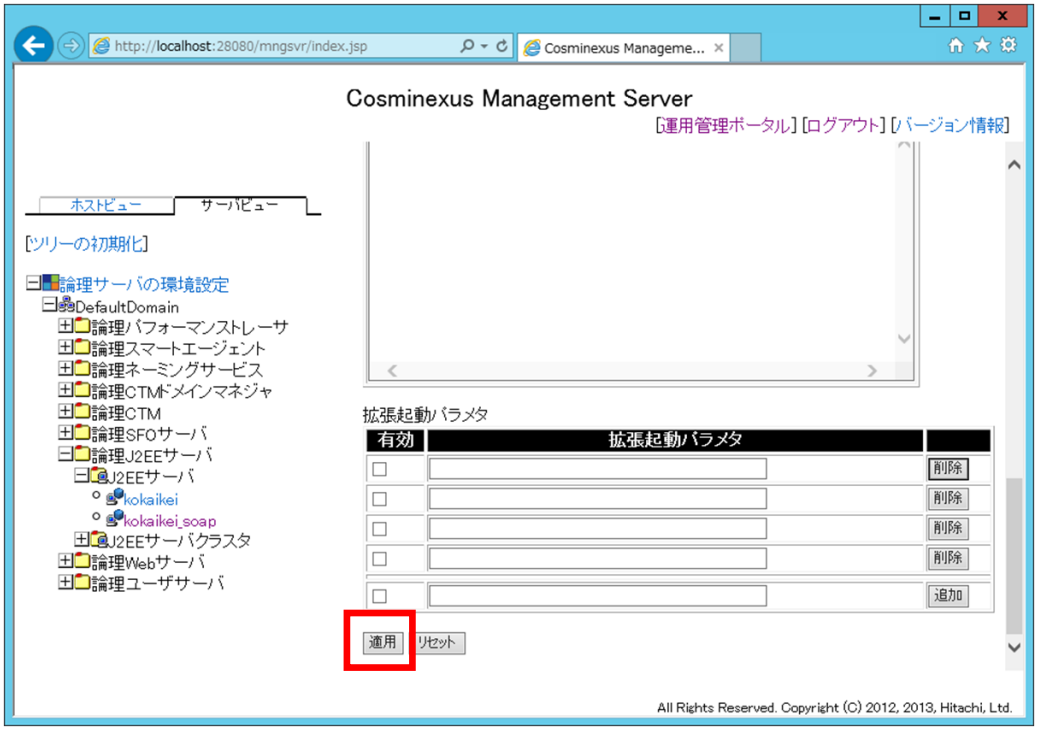
① ［Java ヒープの設定］の［初期サイズ］欄のテキストボックスに「1024m」を入力します。

② ［Java ヒープの設定］の［最大サイズ］欄のテキストボックスに「1024m」を入力します。

③ ［明示管理ヒープ機能の使用］の［しない］欄のラジオボタンを選択します。



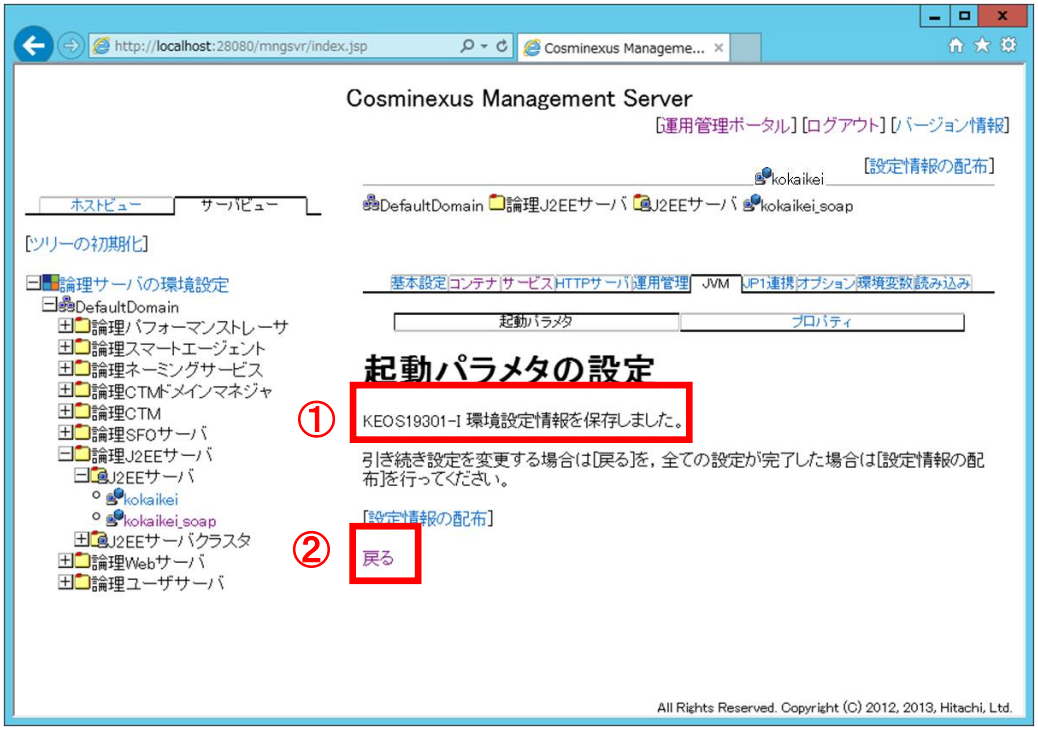
39) 画面を一番下までスクロールして、［適用］をクリックします。



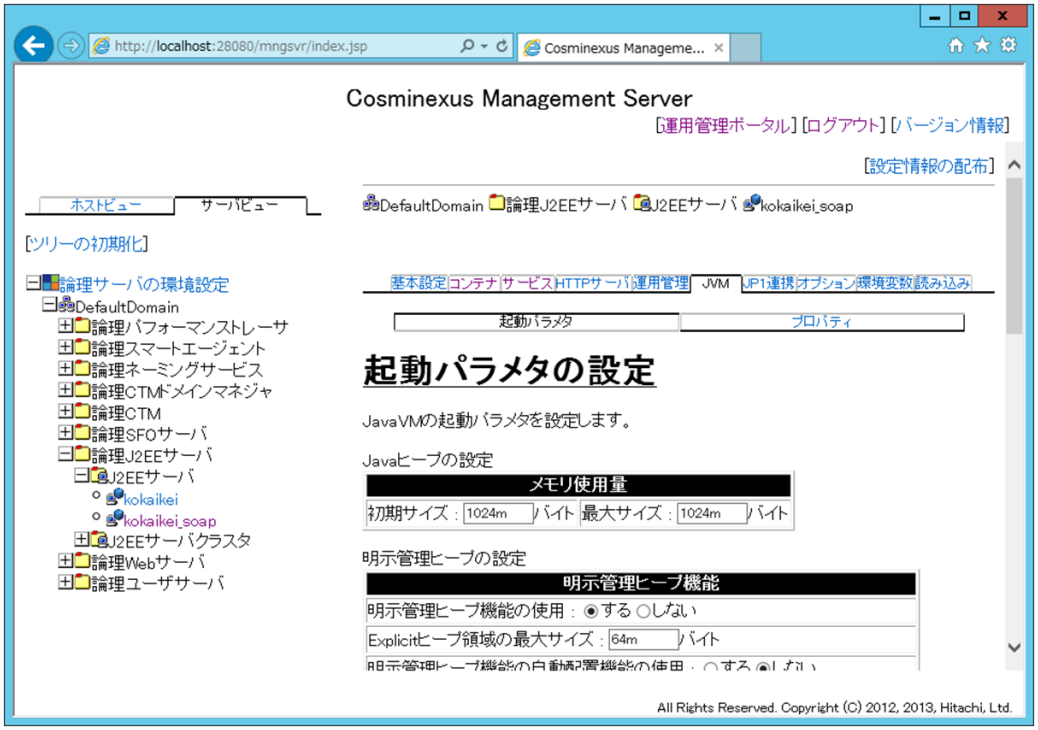
40) ［起動パラメタの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

② ［戻る］をクリックします。



41) ［起動パラメタの設定］画面が表示されます。

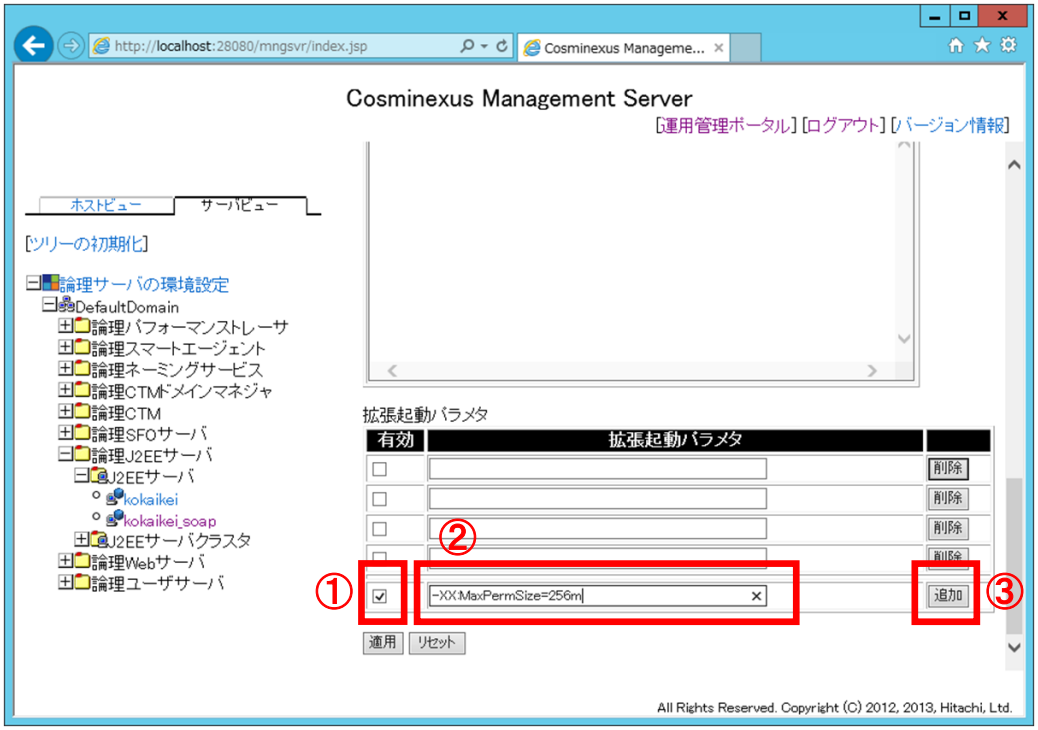


42) 画面を一番下までスクロールして、

① 一番下の［有効］欄チェックボックスをオンにします。

② ［拡張起動パラメタ］欄のテキストボックスに「-XX:MaxPermSize=256m」を入力します。

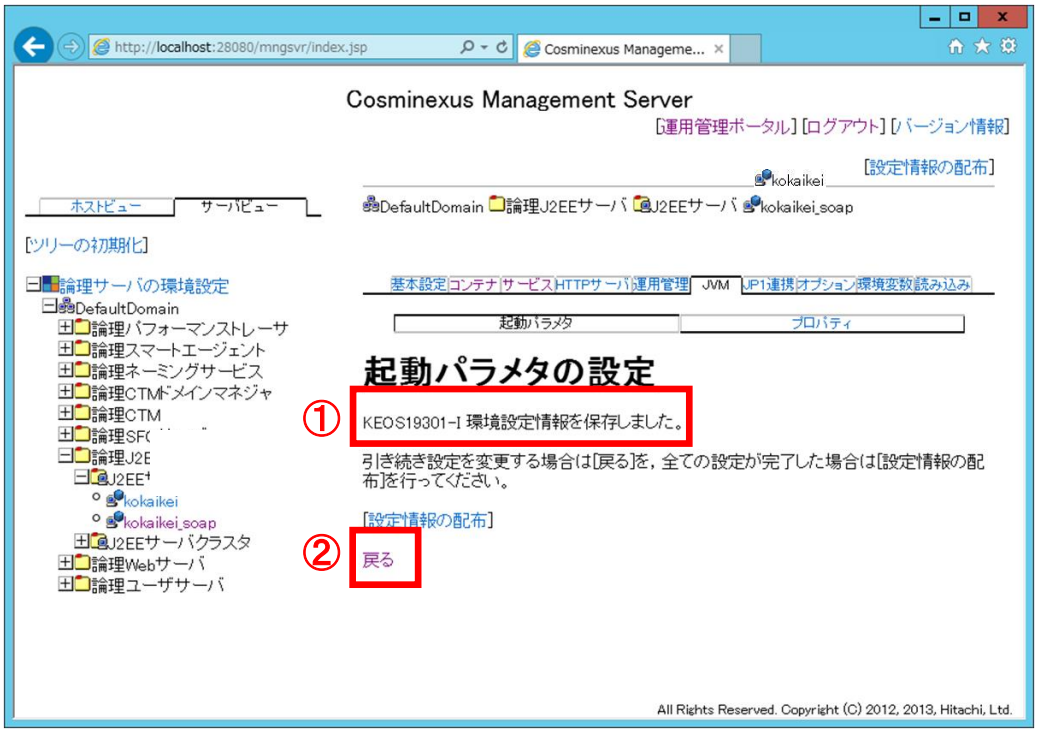
③ ［追加］ボタンをクリックします。



43) ［起動パラメタの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

② ［戻る］をクリックします。



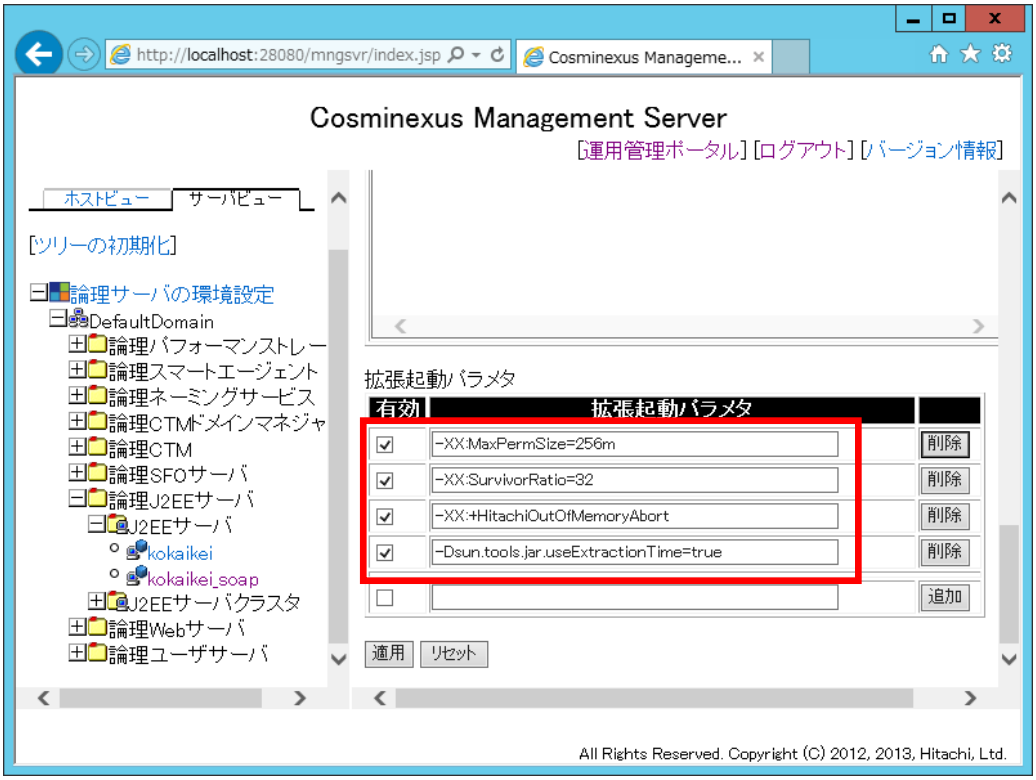
44) ［起動パラメタの設定］画面に戻るので、画面を一番下までスクロールして［拡張起動パラメタ］を表示します。項番 42)、43)の手順同様に次に示すパラメタを［拡張起動パラメタ］に設定していきます。

- 拡張起動パラメタ

「-XX:SurvivorRatio=32」

「-XX:+HitachiOutOfMemoryAbort」

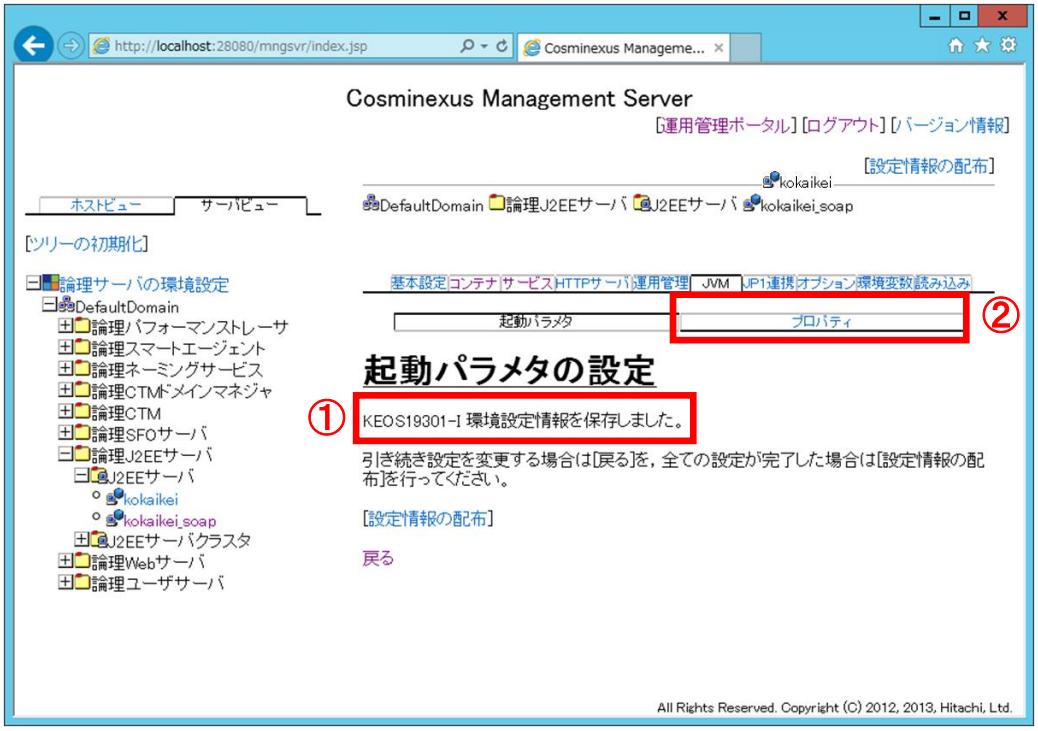
「-Dsun.tools.jar.useExtractionTime=true」



45) 最後の設定をしたら［起動パラメタの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

② ［プロパティ］をクリックします。



46) ［システムプロパティの設定］画面が表示されます。

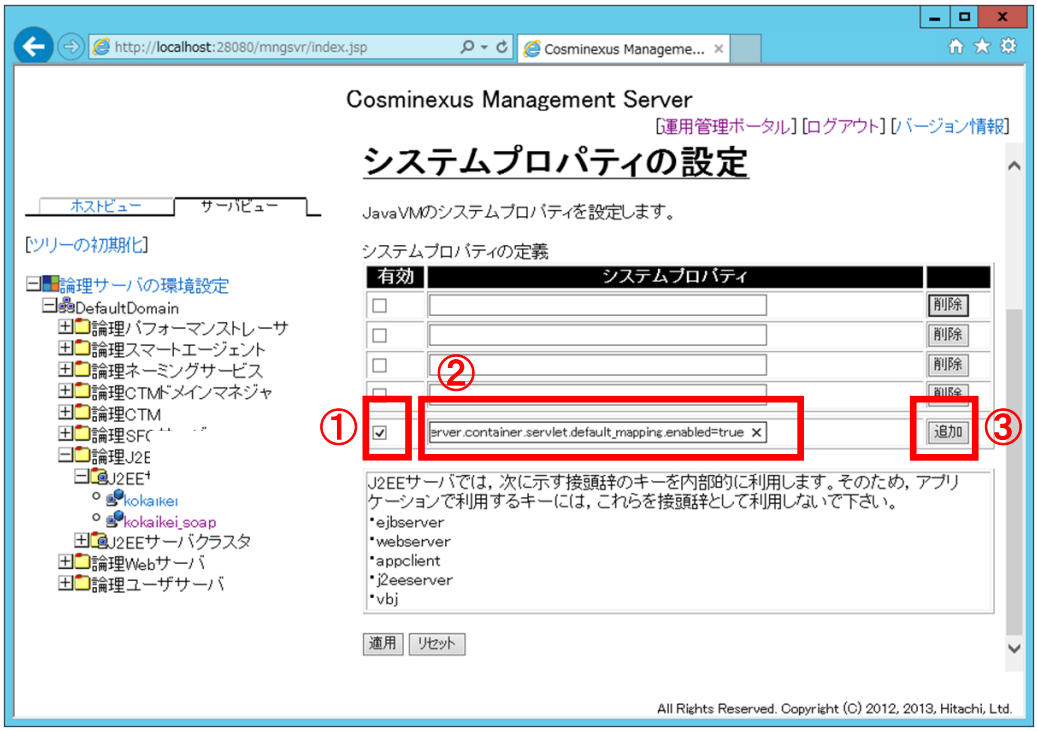
① ［システムプロパティの定義］の一番下の［有効］欄のチェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。

② ［システムプロパティ］欄のテキストボックスに次に示す値を設定します。

- システムプロパティ

  「webserver.container.servlet.default_mapping.enabled=true」

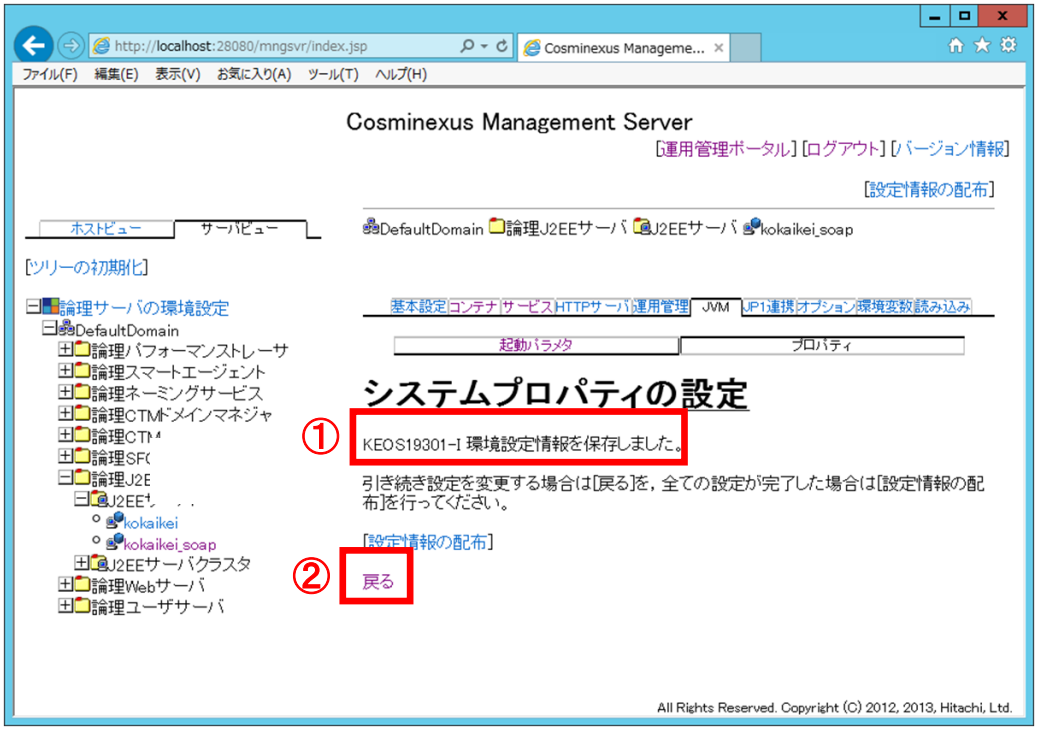
③ ［追加］ボタンをクリックします。



47) ［システムプロパティの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

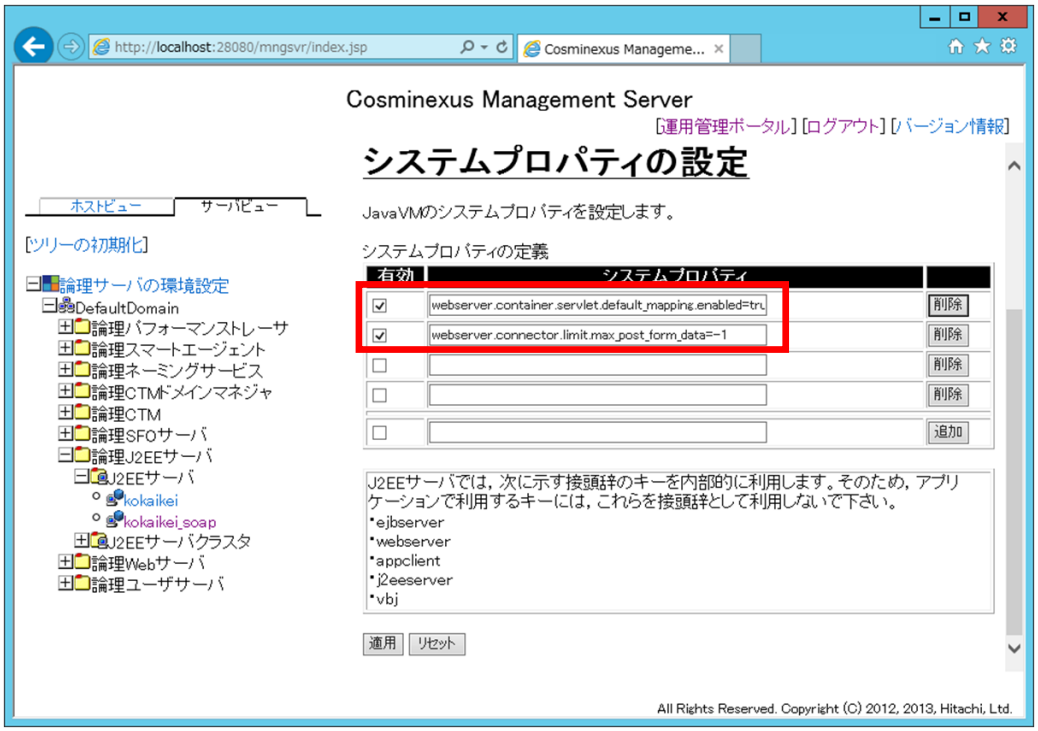
② ［戻る］をクリックします。



48) ［システムプロパティの設定］画面に戻ります。項番 46)の手順同様に次に示す値を［システムプロパティ］に設定します。

- システムプロパティ

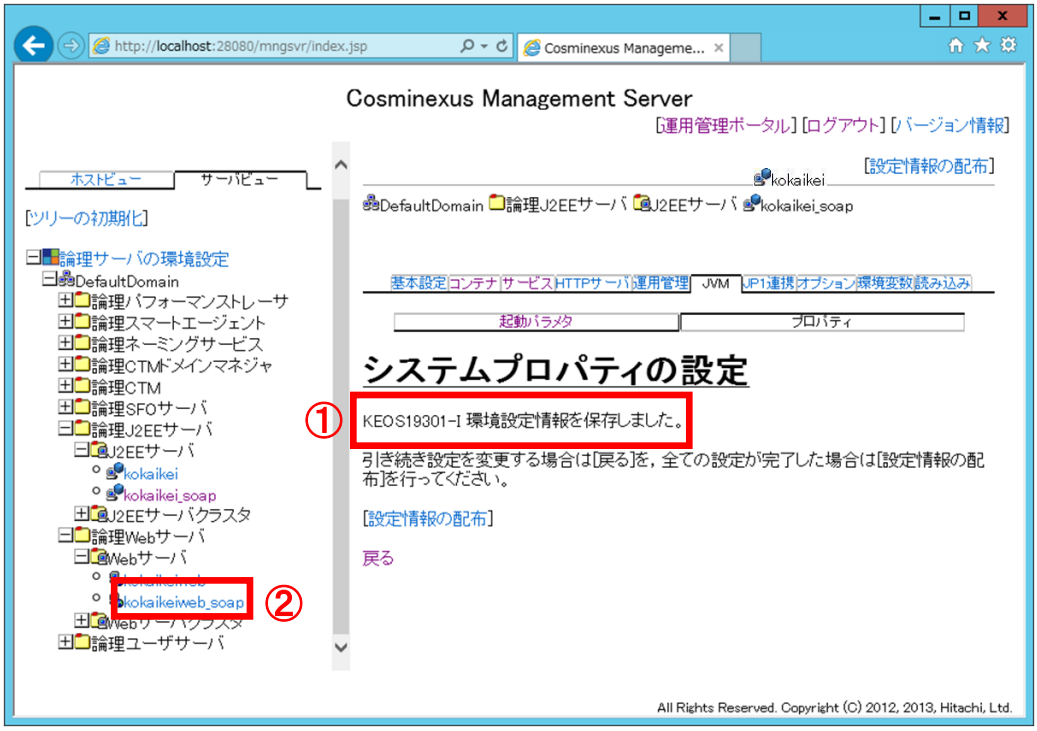
  「webserver.connector.limit.max_post_form_data=-1」



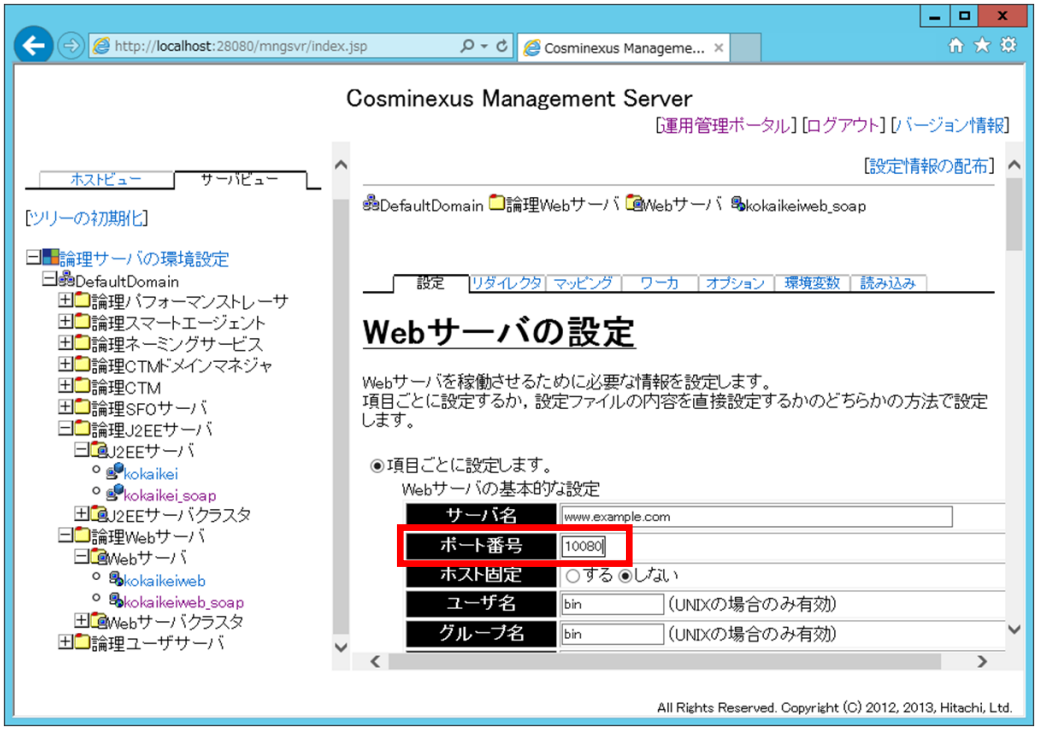
49) 最後の設定をしたら、［システムプロパティの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

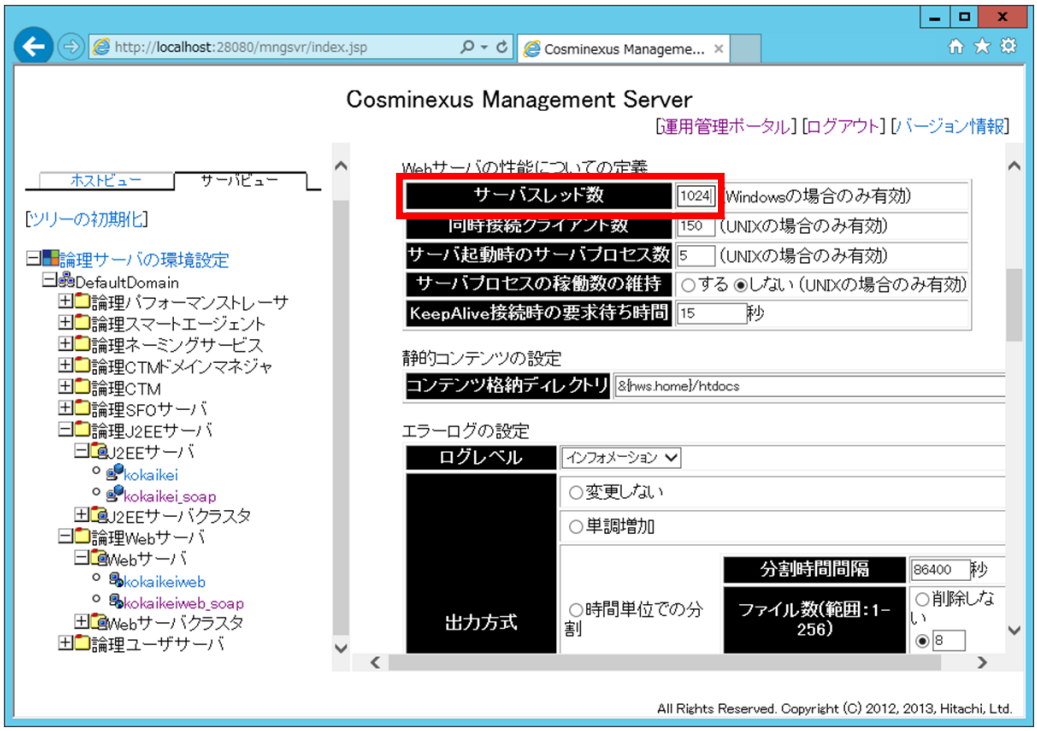
② ［論理サーバの環境設定］－［DefaultDomain］－［論理 Web サーバ］－［Web サーバ］－［kokaikeiweb_soap］をクリックします。



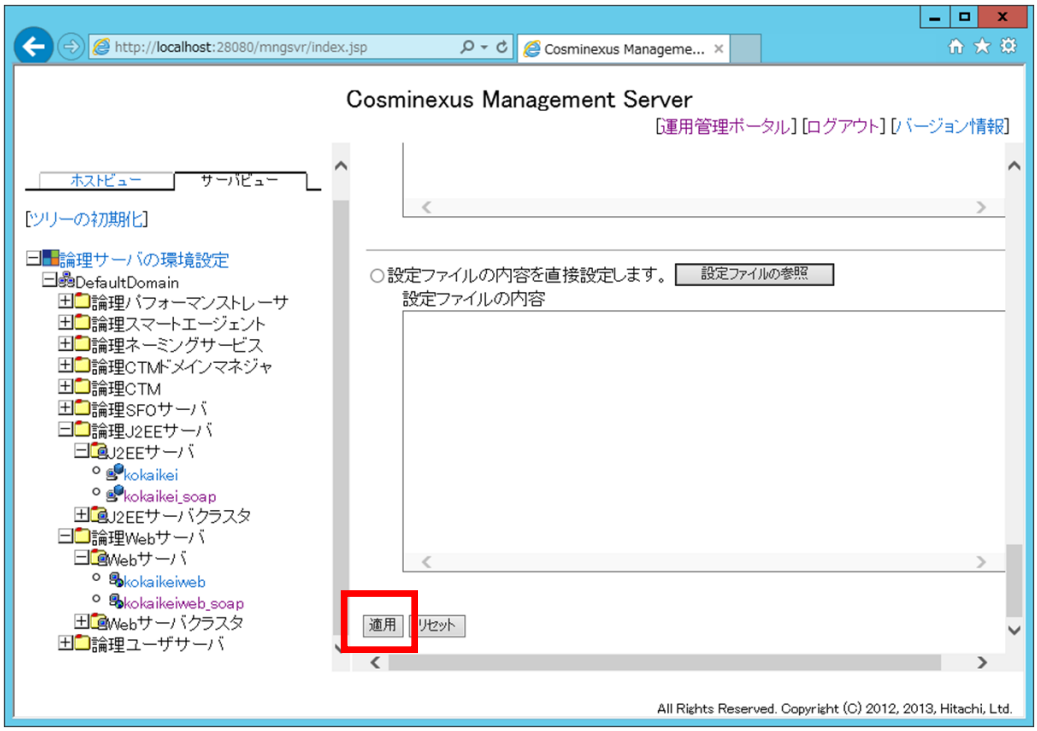
50) ［Web サーバの設定］画面が表示されます。［ポート番号］欄のテキストボックスに「10080」を入力します。



51) 画面をスクロールして［Web サーバの性能についての定義］を表示させます。［サーバスレッド数］欄のテキストボックスに「1024」を入力します。



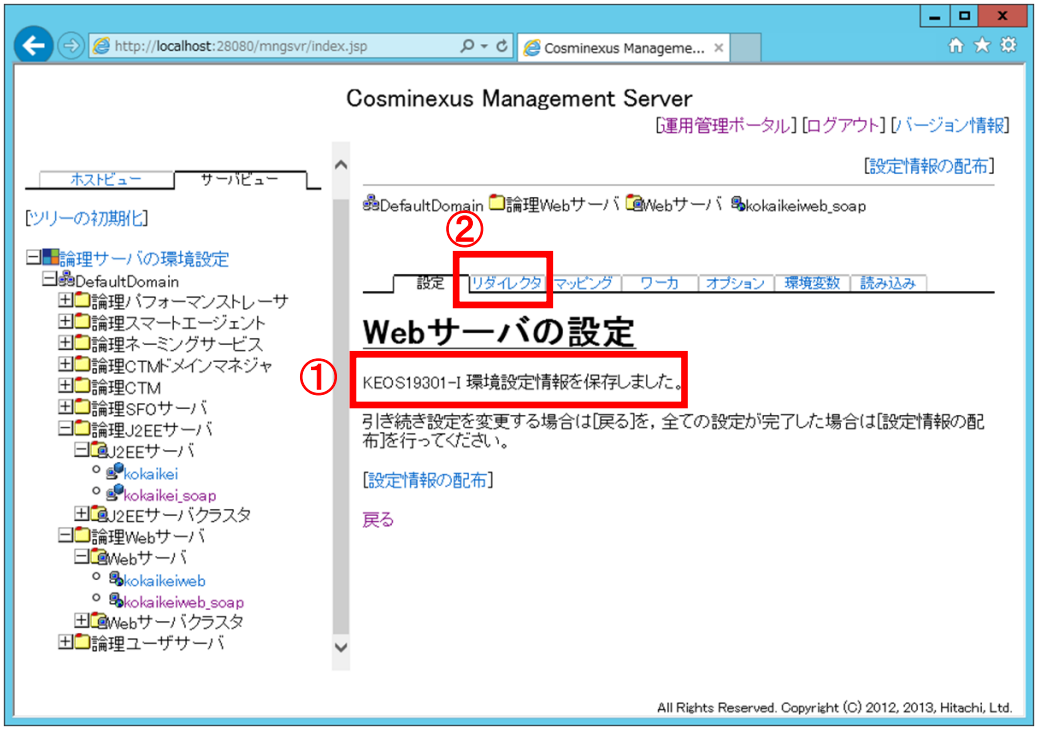
52) 画面を一番下までスクロールして、［適用］をクリックします。



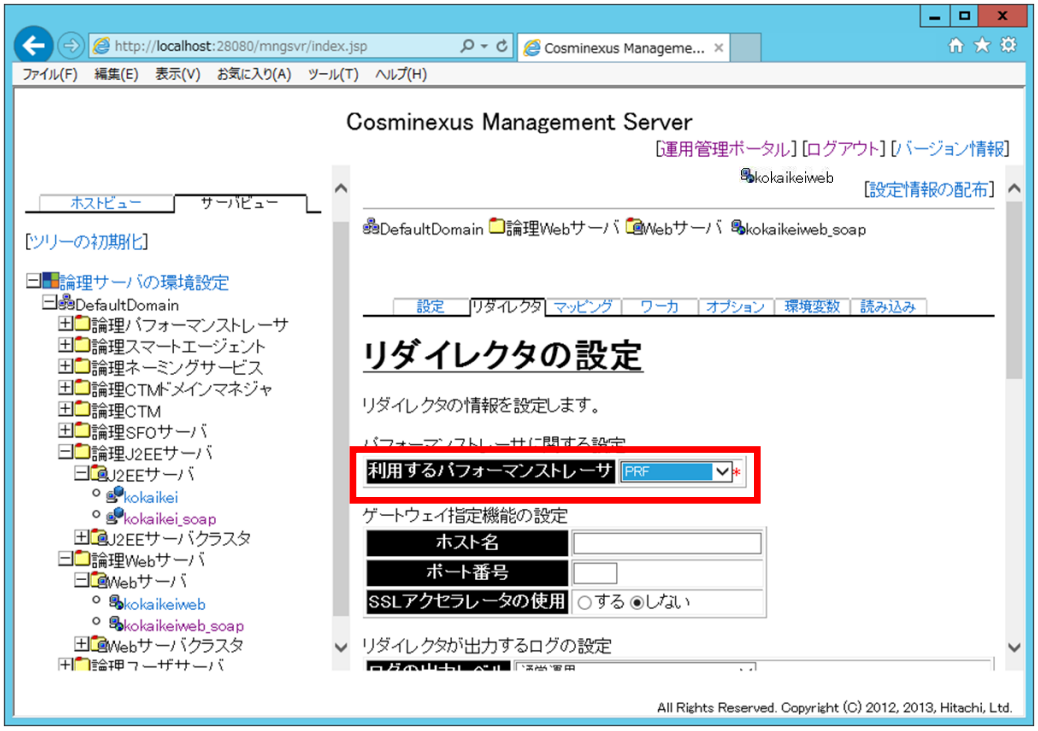
53) ［Web サーバの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

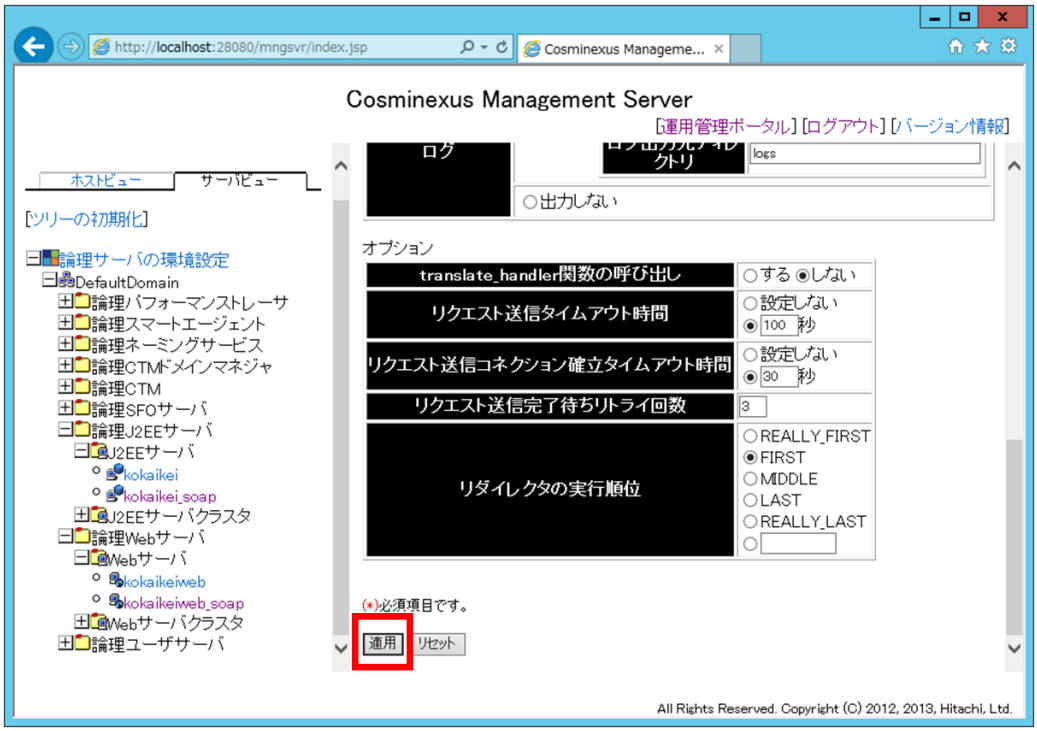
② ［リダイレクタ］をクリックします。



54) ［リダイレクタの設定］画面で、［パフォーマンストレーサに関する設定］の［利用するパフォーマンストレーサ］欄のドロップダウンリストから「PRF」を選択します。



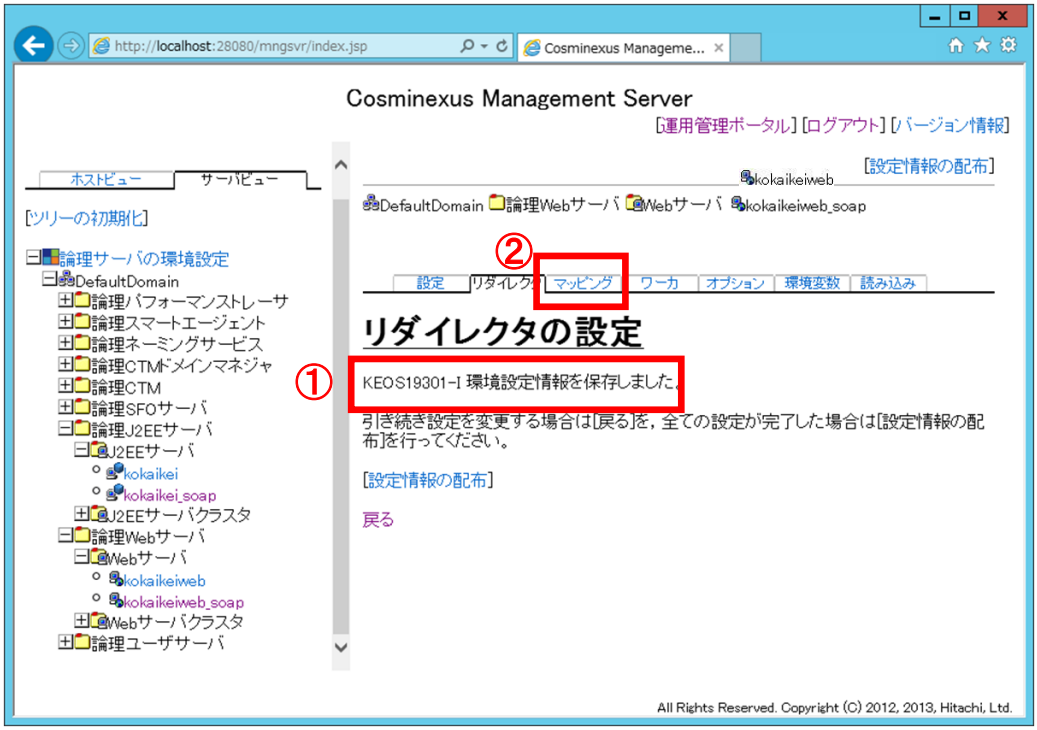
55) 画面を一番下までスクロールして［適用］ボタンをクリックします。



56) ［リダイレクタの設定］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

② ［マッピング］をクリックします。



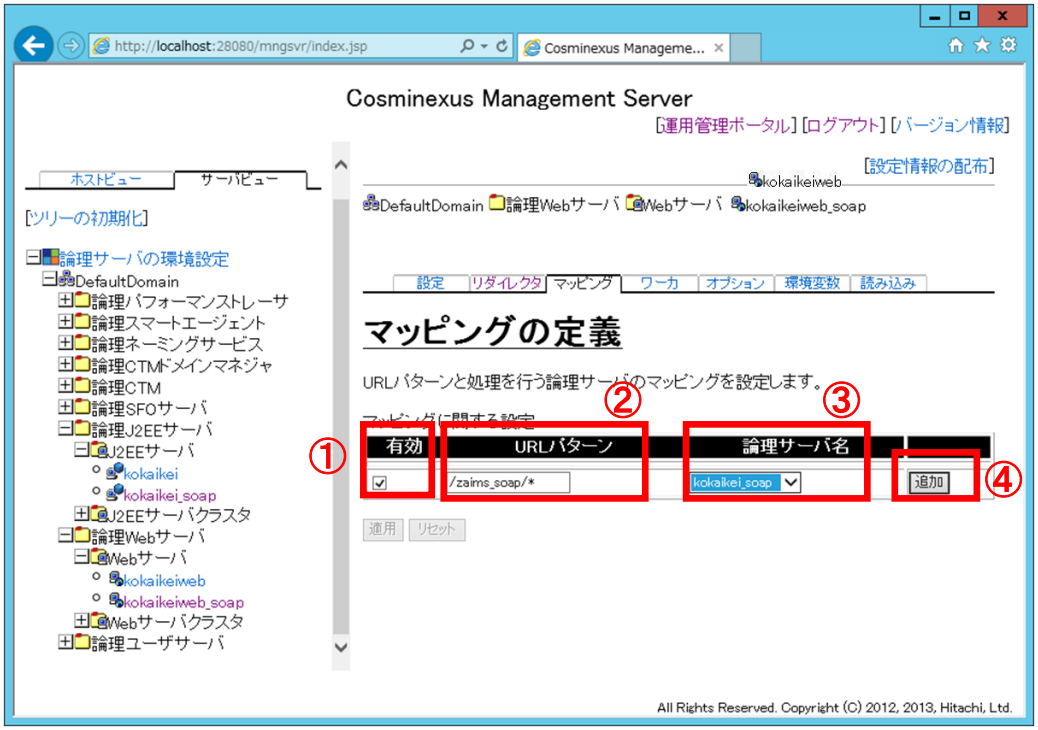
57) ［マッピングの定義］画面で、

① ［マッピングに関する設定］の［有効］欄のチェックボックスをオンにします。

② ［URL パターン］欄のテキストボックスに「/zaims_soap/*」と入力します。

③ ［論理サーバ名］欄のドロップダウンリストから「kokaikei_soap」を選択します。

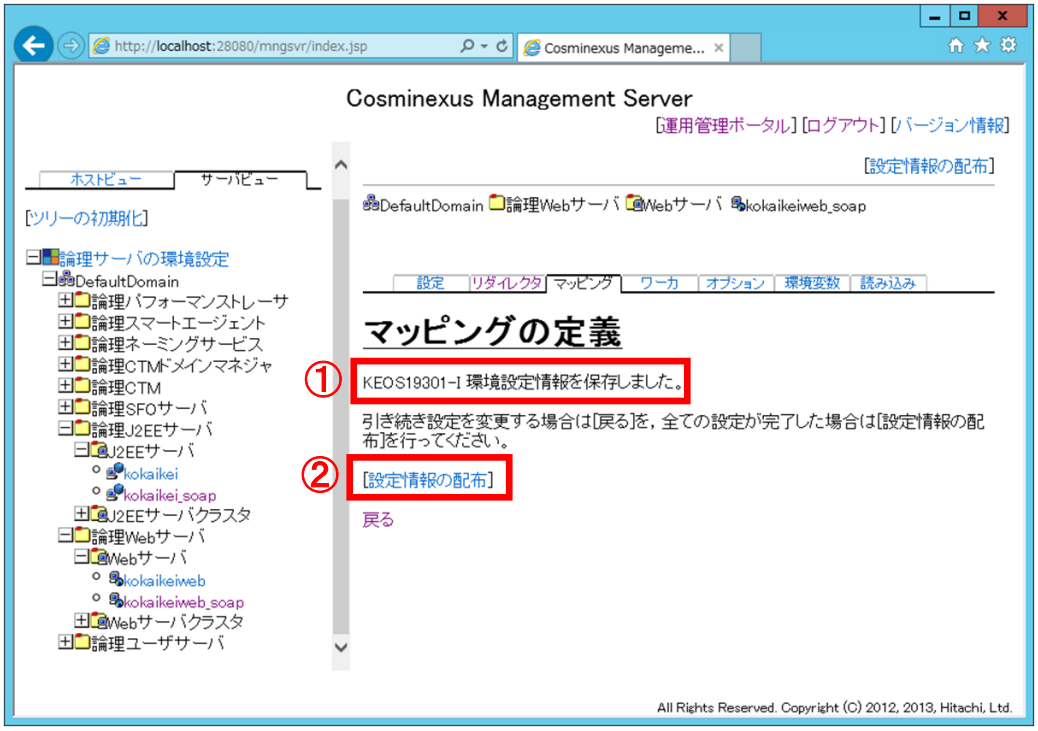
④ ［追加］ボタンをクリックします。



58) ［マッピングの定義］画面で、

① 「KEOS19301-I 環境設定情報を保存しました。」メッセージを確認します。

② ［設定情報の配布］をクリックします。

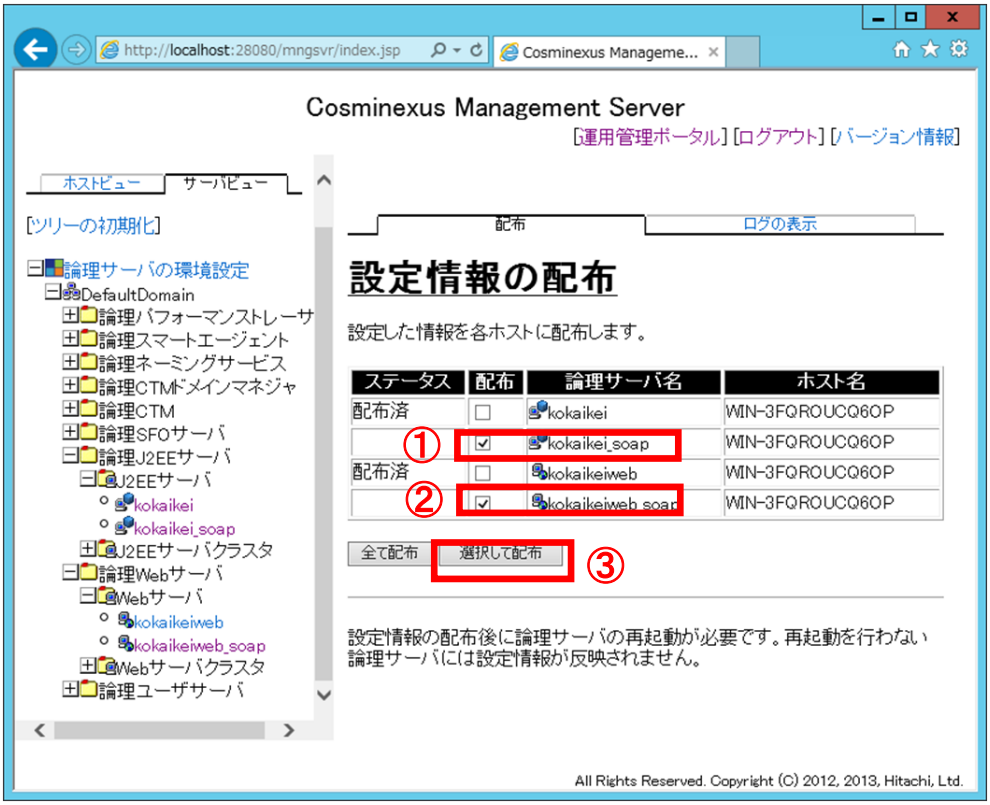


59) ［設定情報の配布］画面で、

① 論理サーバ名「kokaikei_soap」のチェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。

② 論理サーバ名「kokaikeiweb_soap」のチェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。

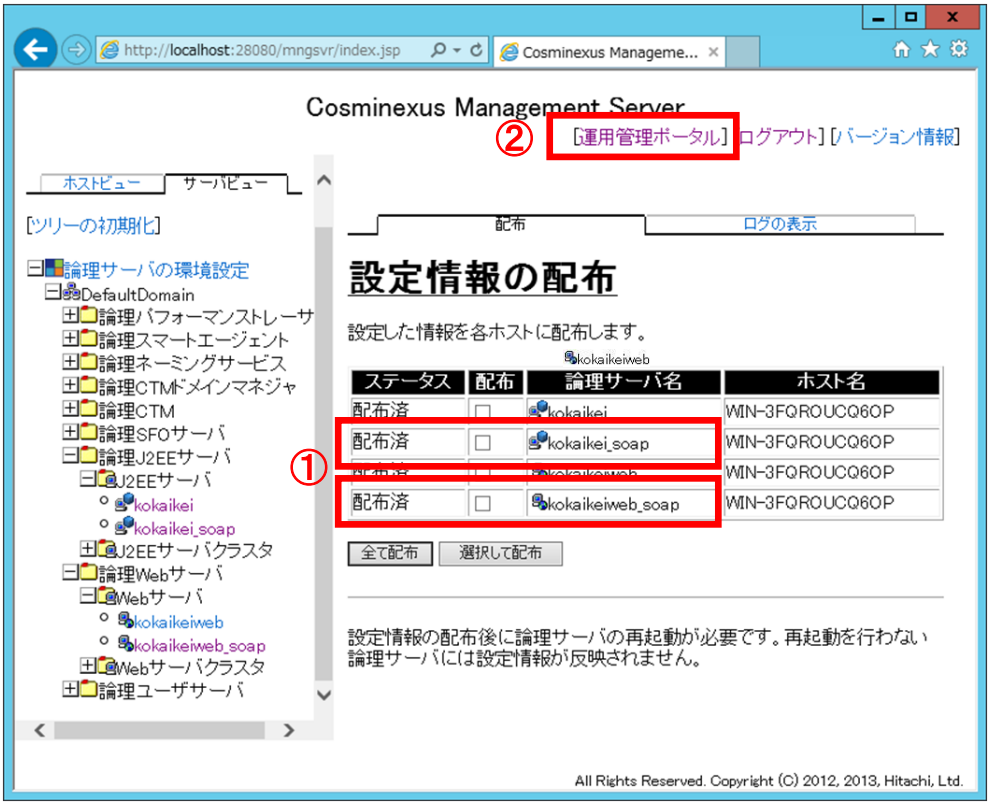
③ ［選択して配布］ボタンをクリックします。



60) ［設定情報の配布］画面で、

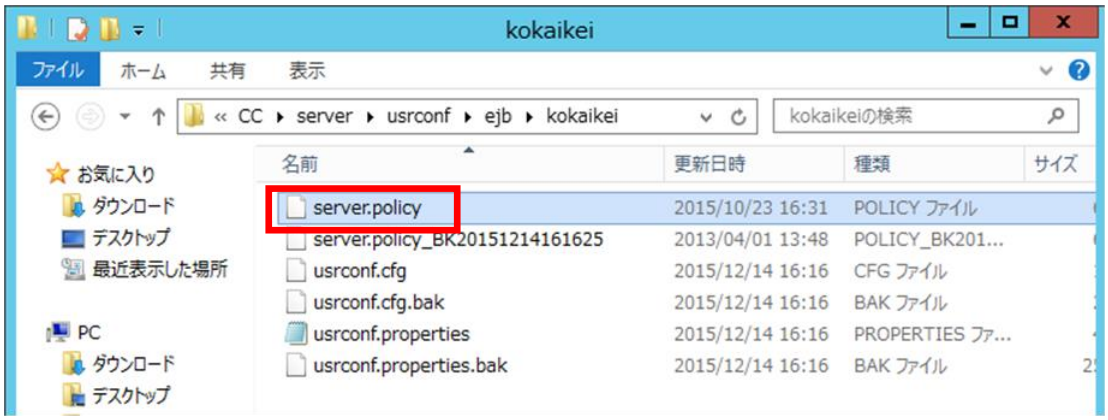
① 「kokaikei_soap」、「kokaikeiweb_soap」の［ステータス］が「配布済」になったことを確認します。

② ［運用管理ポータル］をクリックします。

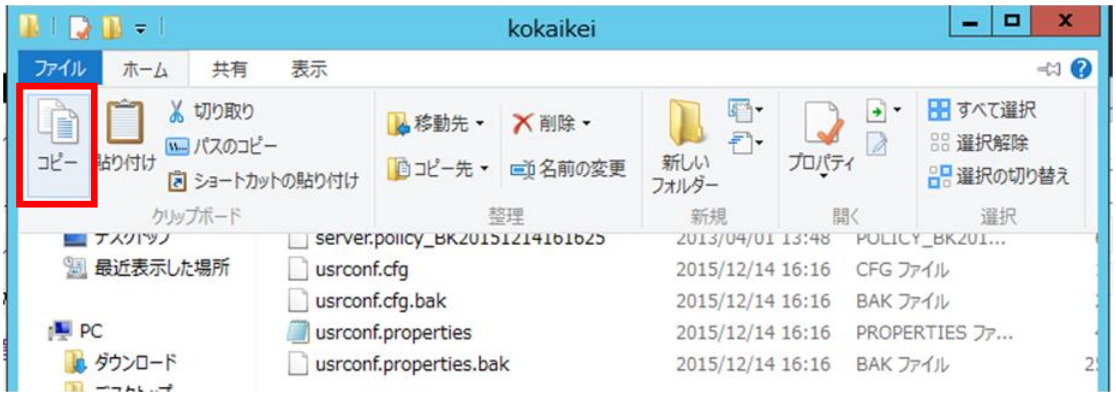


61) 「C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥kokaikei」フォルダ下の「server.policy」ファイルを選択します。

（注）別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で［uCosminexus Application Server のインストールディレクトリ］を推奨値（C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus）以外のディレクトリに設定した場合は、上記拡張パスの該当部分を設定したディレクトリに変更してください。

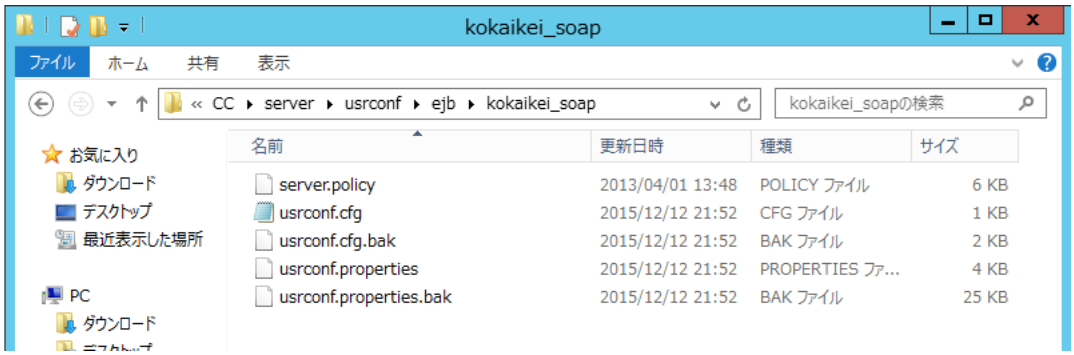


62) 「server.policy」ファイルを選択した状態で、［ホーム］ - ［コピー］を選択します。

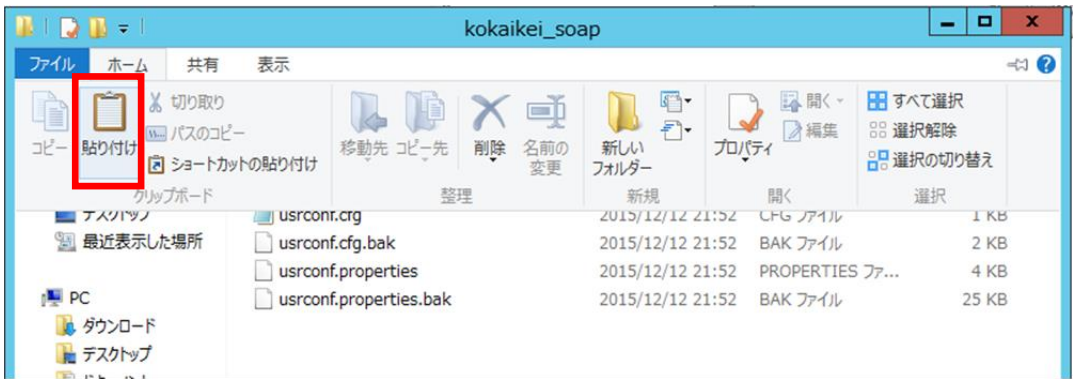


63) エクスプローラーで「C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥kokaikei_soap」フォルダを開きます。

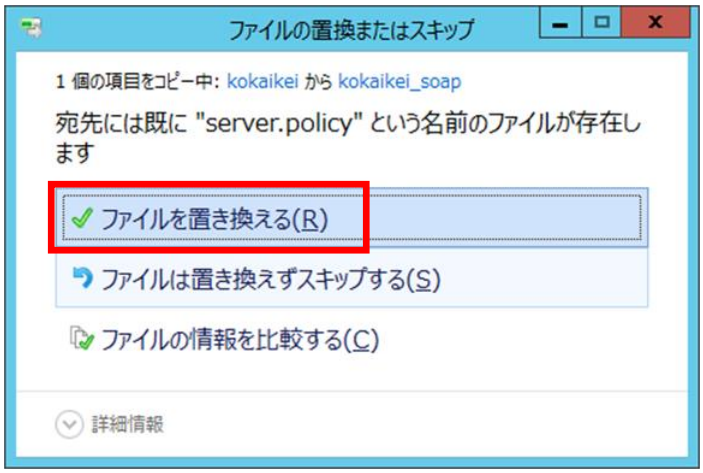
（注）別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で［uCosminexus Application Server のインストールディレクトリ］を推奨値（C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus）以外のディレクトリに設定した場合は、上記拡張パスの該当部分を設定したディレクトリに変更してください。



64) ［ホーム］ - ［貼り付け］を選択します。

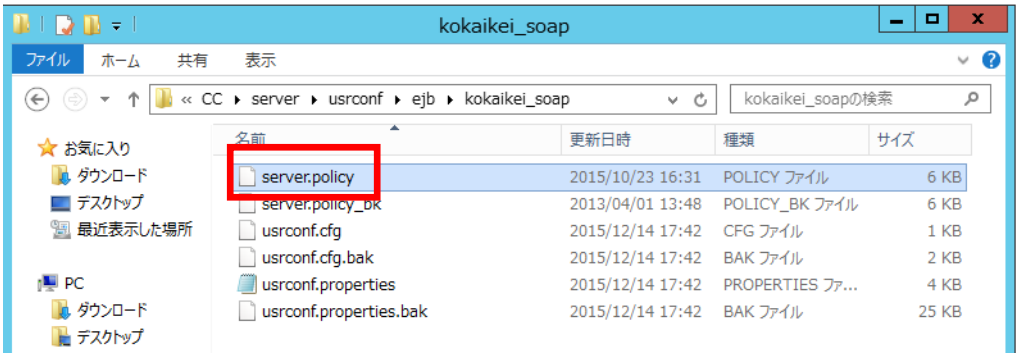


65) ［ファイルの置換またはスキップ］画面で、「宛先には既に”server.policy”という名前のファイルが存在します」のメッセージが表示されたら、［ファイルを置き換える］をクリックします。



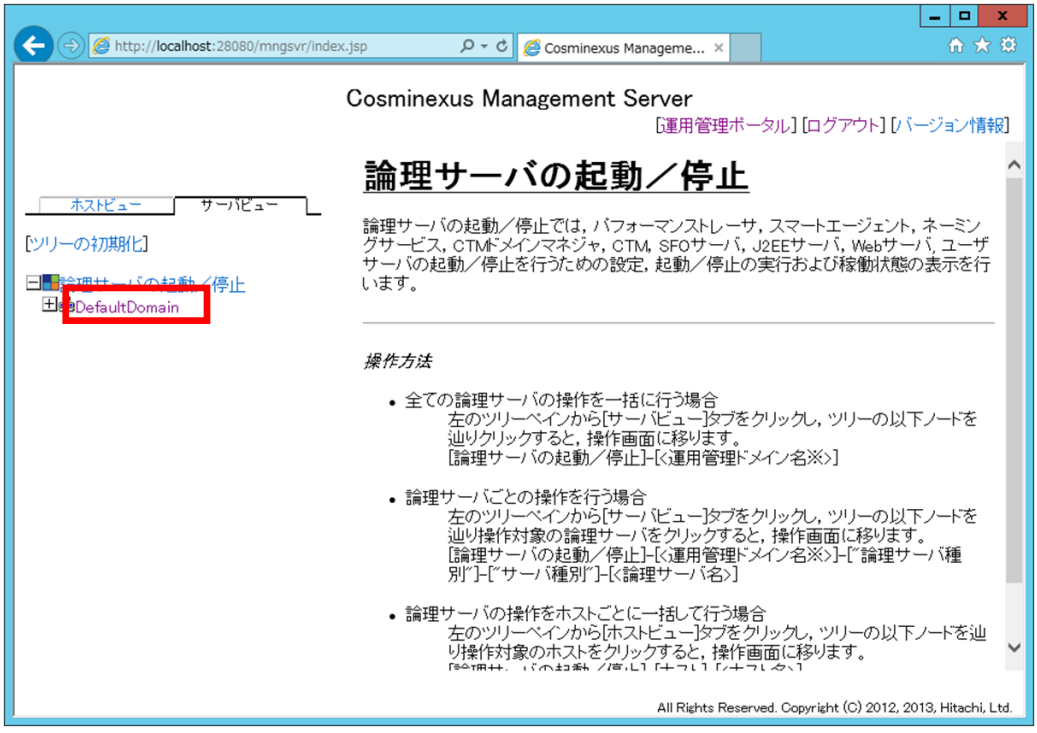
66) 「C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥kokaikei_soap」フォルダ下に「server.policy」ファイルがコピーされたことを確認します。

（注）別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で［uCosminexus Application Server のインストールディレクトリ］を推奨値（C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus）以外のディレクトリに設定した場合は、上記拡張パスの該当部分を設定したディレクトリに変更してください。

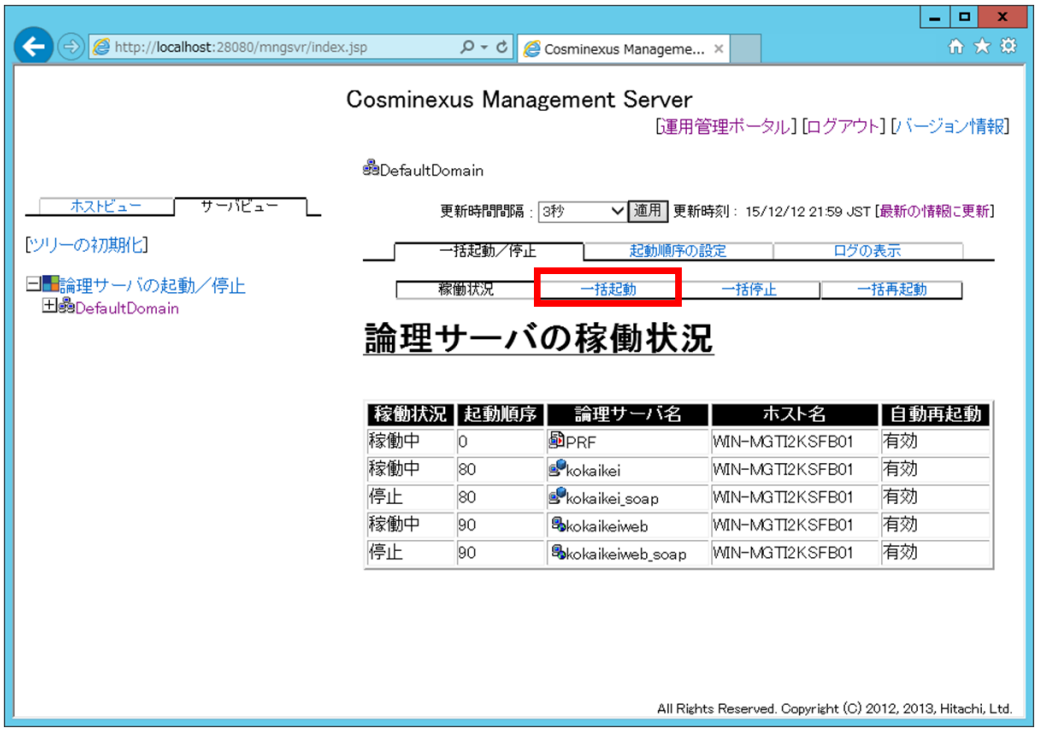


67) ［運用管理ポータル］画面で、［論理サーバの起動／停止］をクリックします。

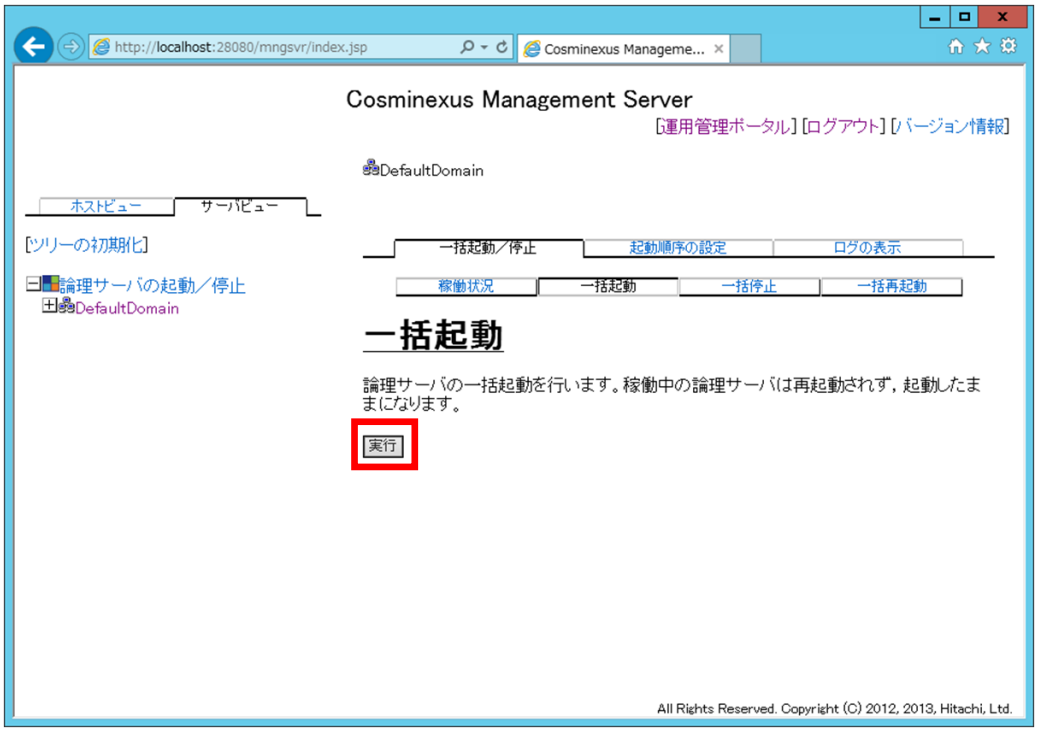
68) ［論理サーバ起動／停止］画面で、［サーバビュー］の［論理サーバの起動／停止］－［DefaultDomain］をクリックします。



69) ［論理サーバの稼働状況］画面で、［一括起動］をクリックします。



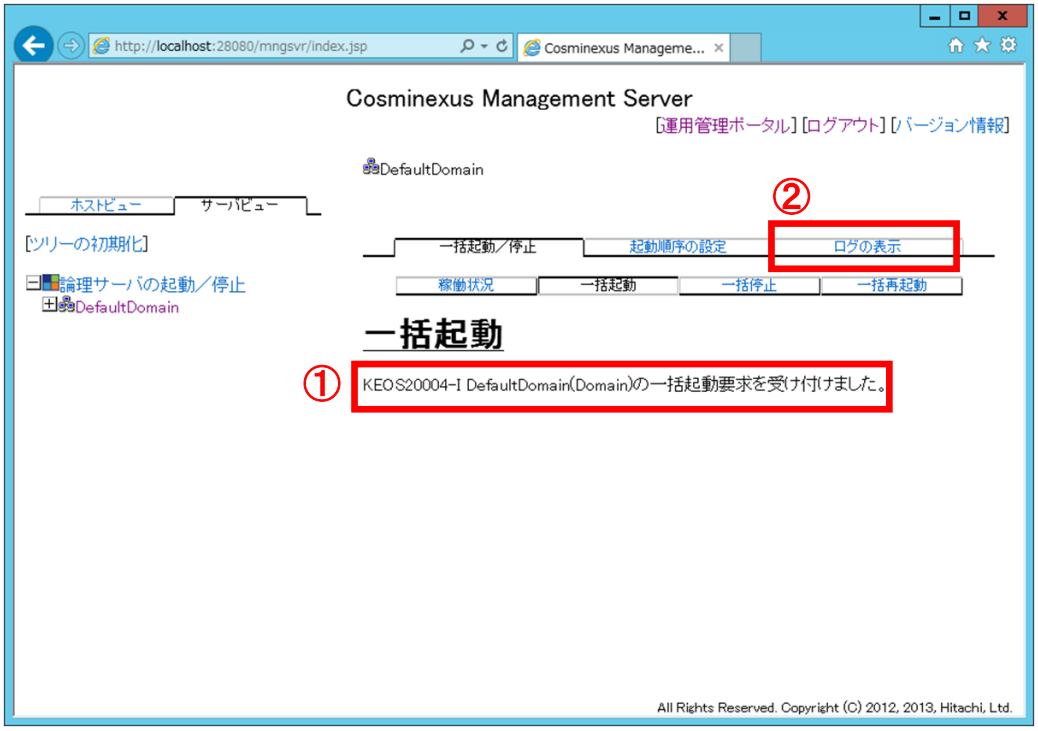
70) ［一括起動］画面で、［実行］ボタンをクリックします。



71) ［一括起動］画面で、

① 「KEOS20004-I DefaultDomain(Domain)の一括起動要求を受け付けました。」メッセージを確認します。

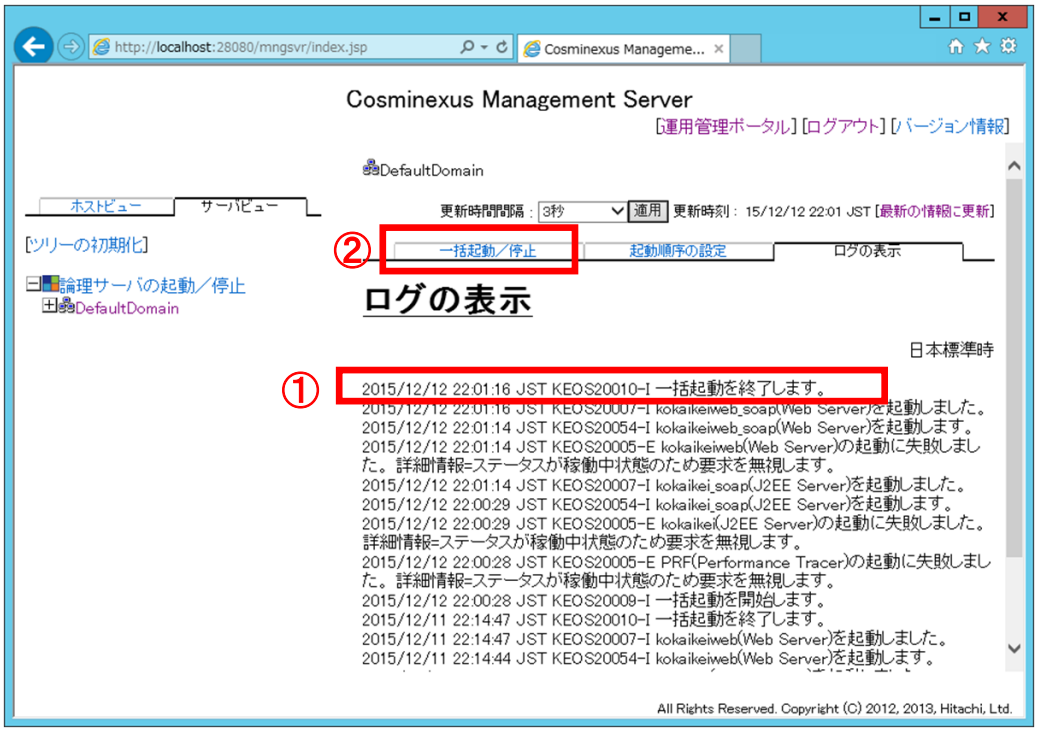
② ［ログの表示］をクリックします



72) ［ログの表示］画面で、

① 「KEOS20010-I 一括起動を終了します。」メッセージを確認します。

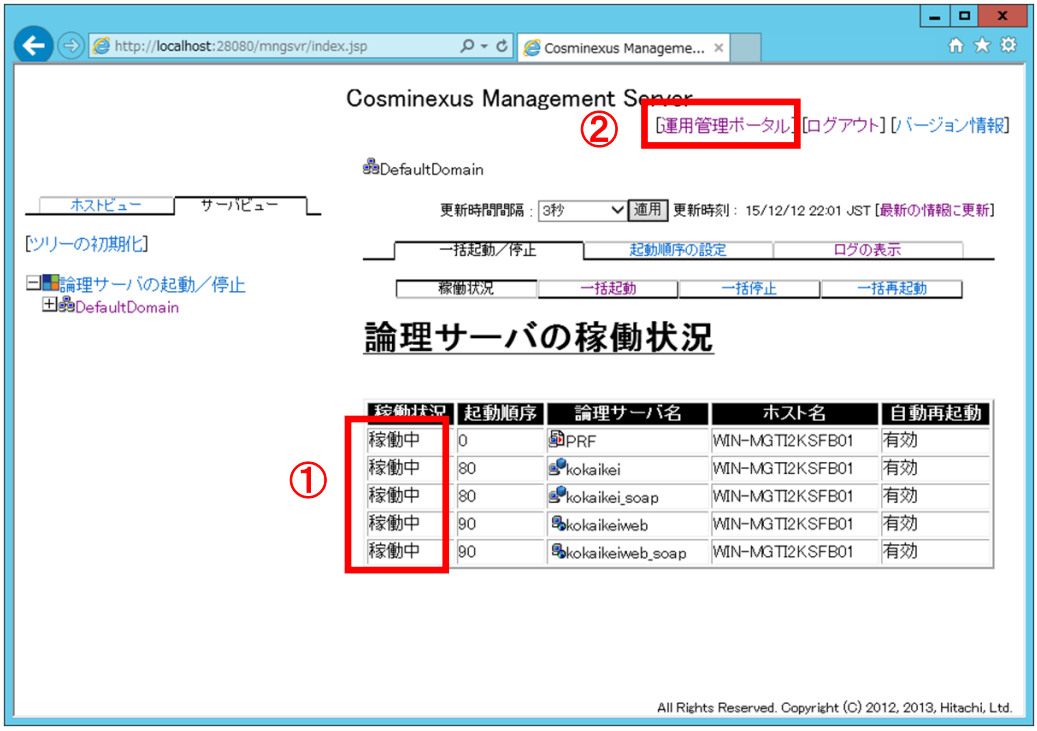
② ［一括起動／停止］をクリックします。



73) ［一括起動／停止］画面で、

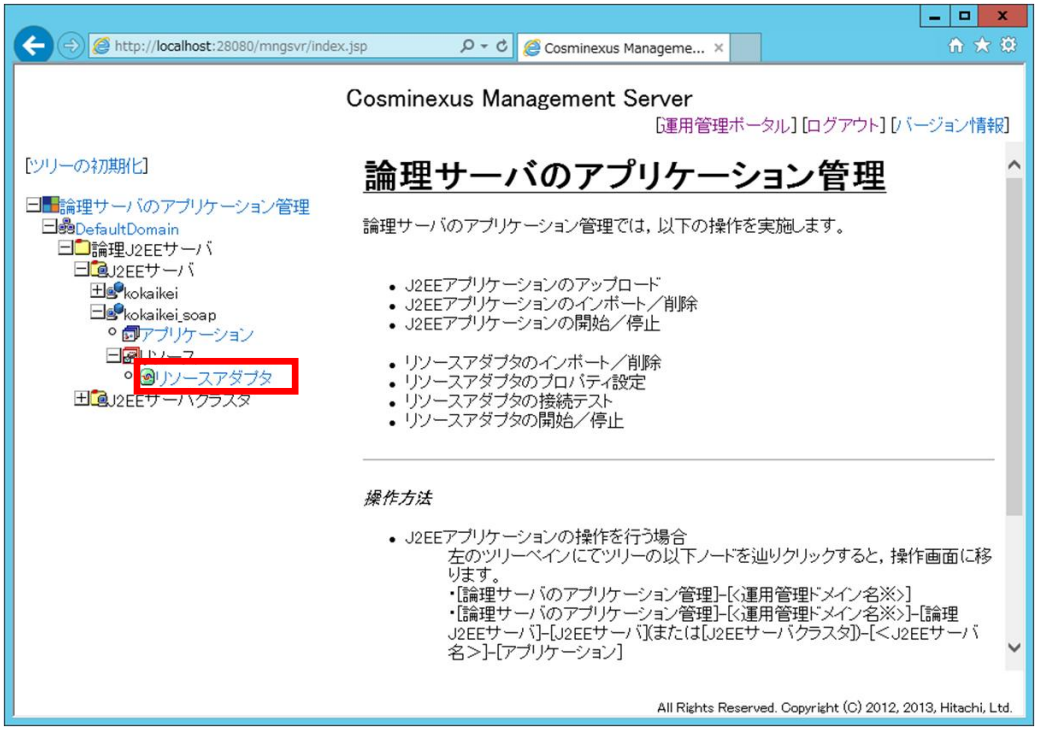
① 「PRF」「kokaikei」「kokaikeiweb」「kokaikei_soap」「kokaikeiweb_soap」の［稼働状況］が「稼働中」であることを確認します。

② ［運用管理ポータル］をクリックします。

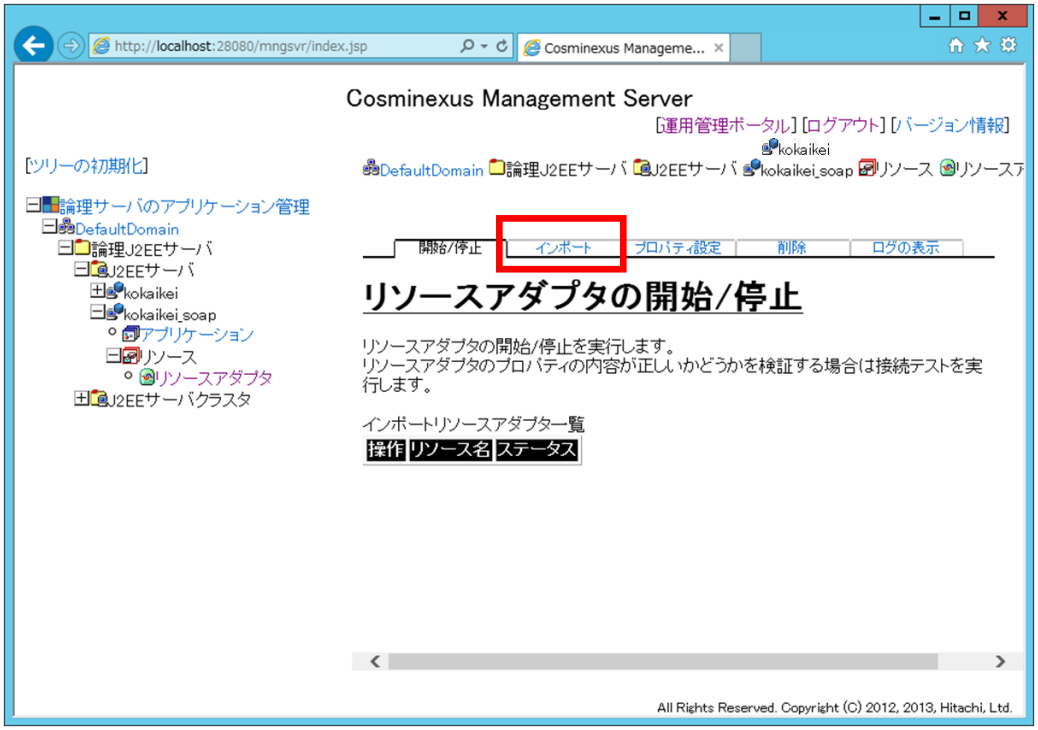


74) ［運用管理ポータル］画面で、［論理サーバのアプリケーション管理］をクリックします。

75) ［論理サーバのアプリケーション管理］画面で、［論理サーバのアプリケーション管理］−［DefaultDomain］−［論理 J2EE サーバ］−［J2EE サーバ］−［kokaikei_soap］−［リソース］−［リソースアダプタ］をクリックします。



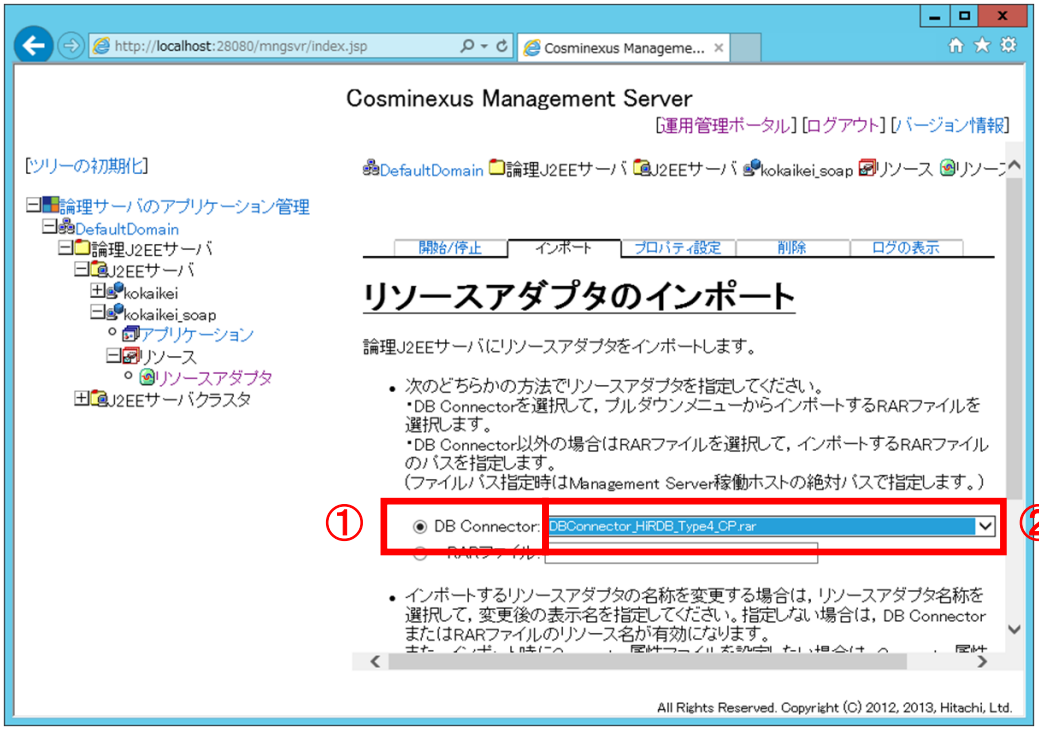
76) ［リソースアダプタの開始/停止］画面で、［インポート］をクリックします。



77) ［リソースアダプタのインポート］画面で、

① ［DB Connector］欄のラジオボタンを選択します。

② ［DB Connector］欄のドロップダウンリストで「DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar」を選択します。

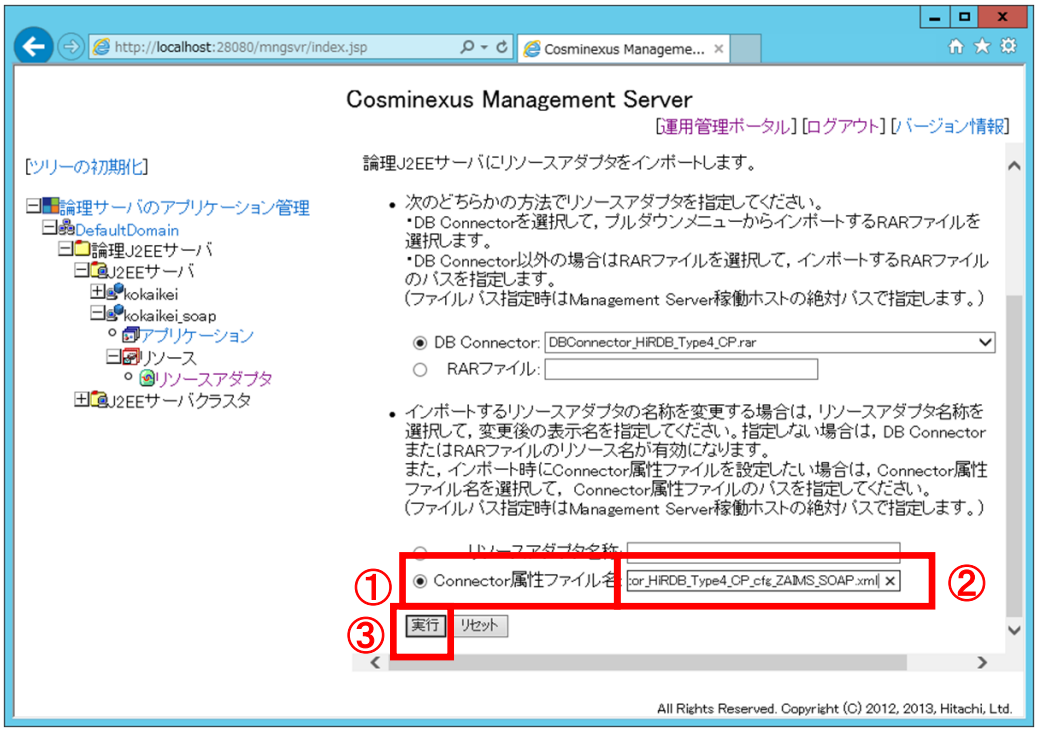


78) 画面を一番下までスクロールして、

① ［Connector 属性ファイル名］欄のラジオボタンを選択します。

② ［Connector 属性ファイル名］欄のテキストボックスに「C:¥kokaikei¥setup_zaims¥DBConnector¥DBConnector_HiRDB_Type4_CP_cfg_ZAIMS_SOAP.xml」と入力します。

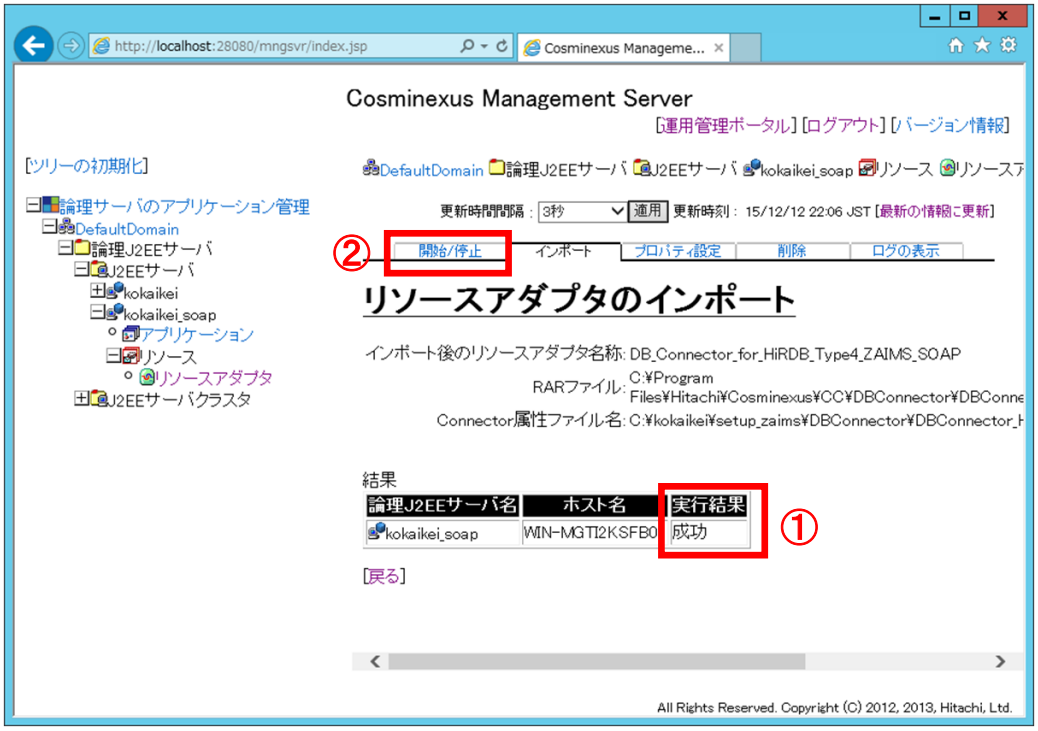
③ ［実行］ボタンをクリックします。



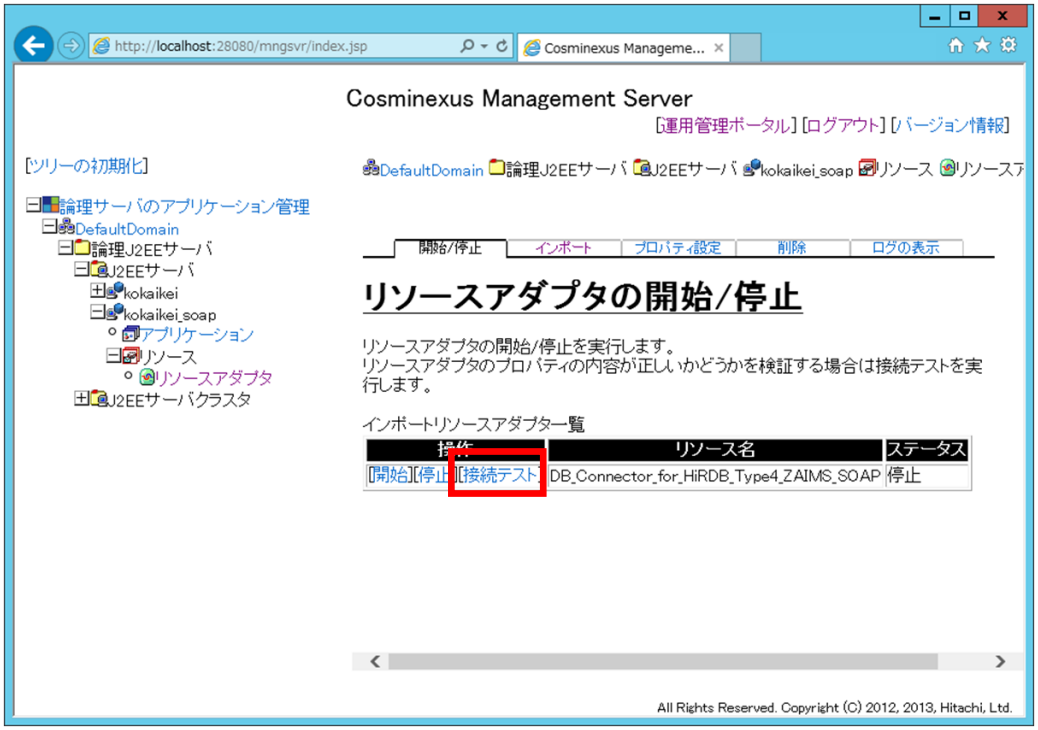
79) ［リソースアダプタのインポート］画面で、

① ［実行結果］が「成功」であることを確認します。

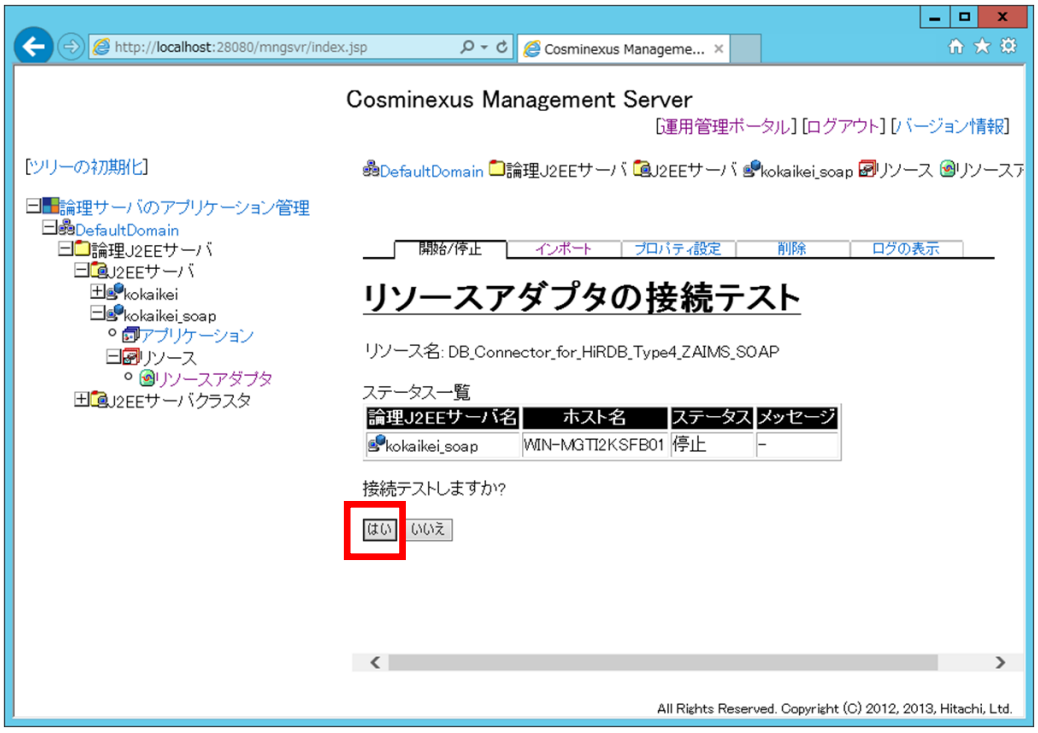
② ［開始/停止］をクリックします。



80) ［リソースアダプタの開始/停止］画面で、［接続テスト］をクリックします。



81) ［リソースアダプタの接続テスト］画面で、［はい］ボタンをクリックします。

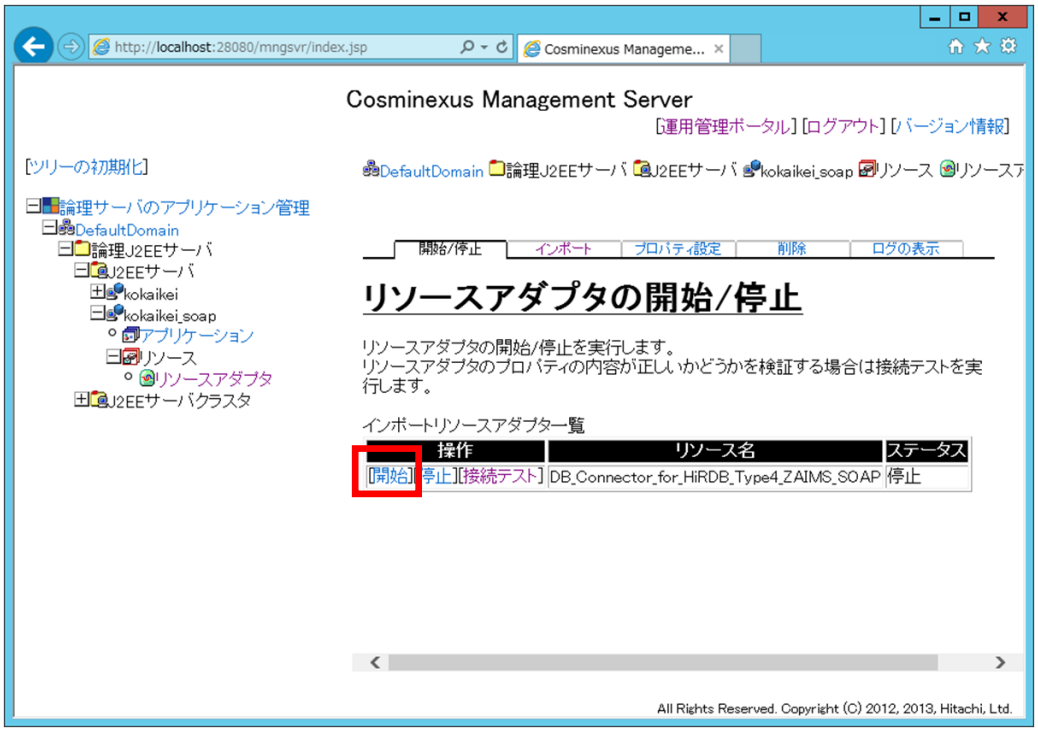


82) ［リソースアダプタの接続テスト］画面で、

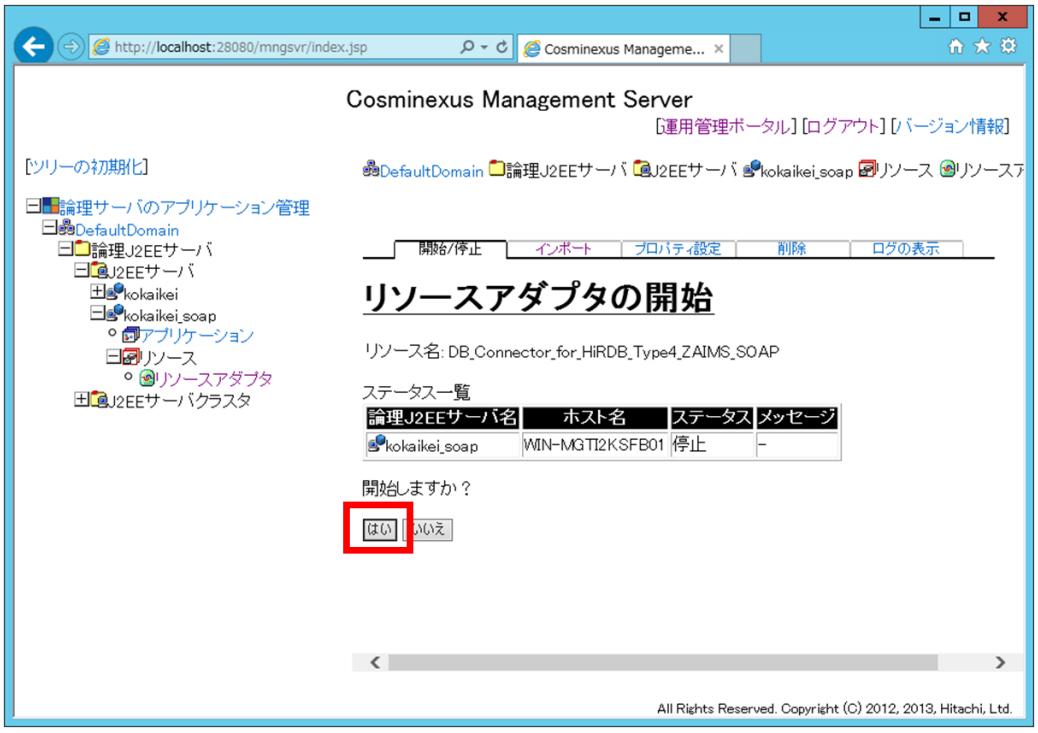
① ［実行結果］が「成功」であることを確認します。

② ［戻る］をクリックします。

83) ［リソースアダプタの開始/停止］画面で、［開始］をクリックします。



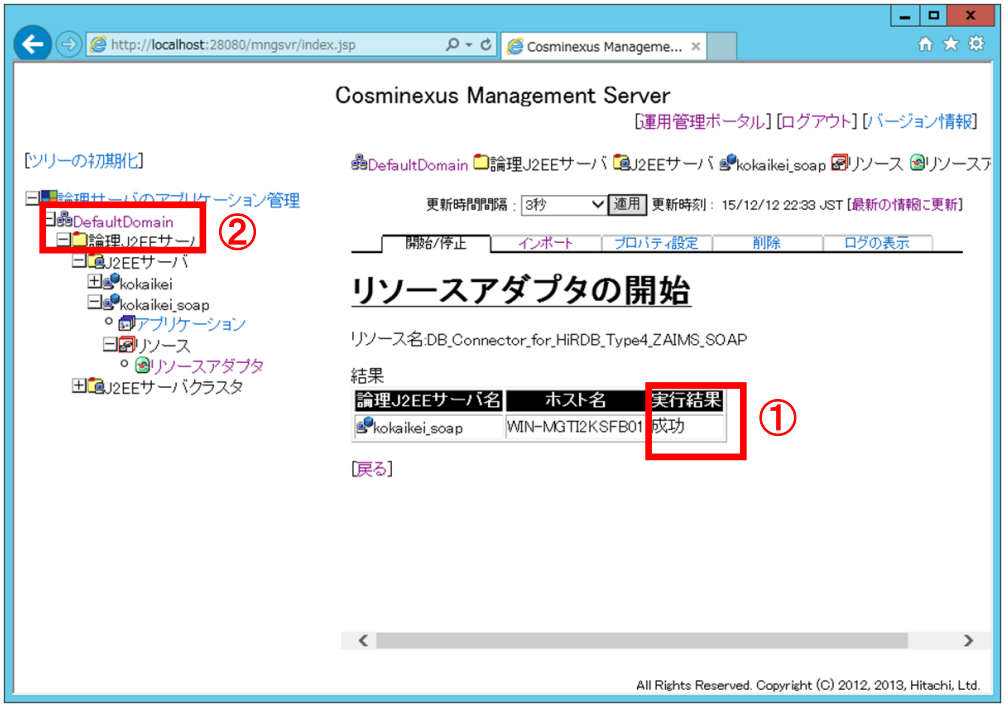
84) ［リソースアダプタの開始］画面で、［はい］ボタンをクリックします。



85) ［リソースアダプタの開始］画面で、

①　［実行結果］が「成功」であることを確認します。

②　［論理サーバのアプリケーション管理］－［DefaultDomain］をクリックします。



86) ［J2EE アプリケーションのアップロード］画面で、

①　［参照］ボタンをクリックします。

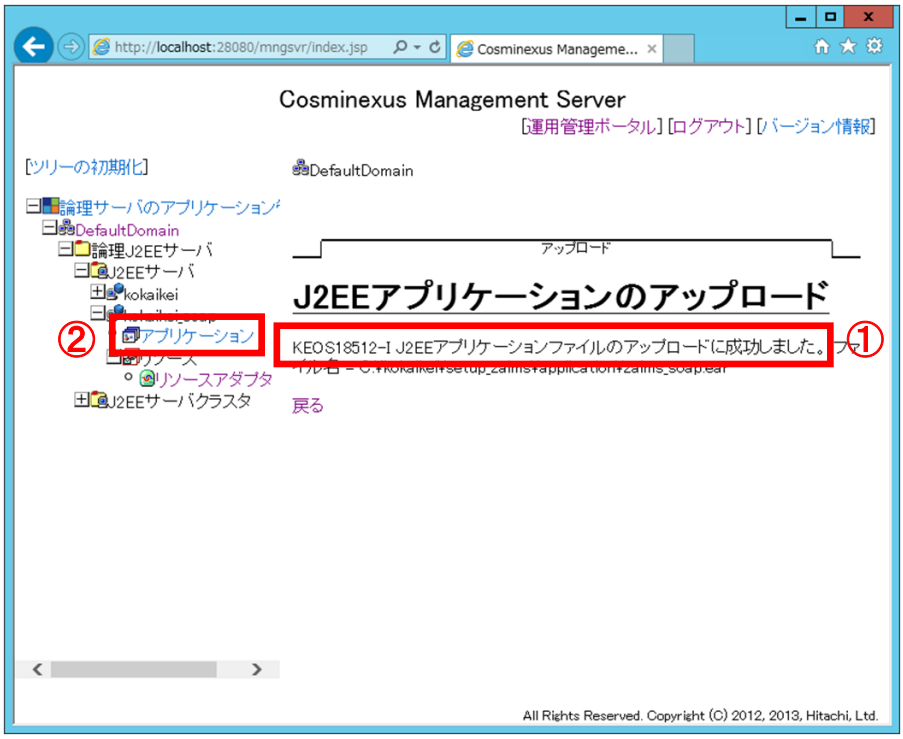
②　「C:¥kokaikei¥setup_zaims¥application¥zaims_soap.ear」ファイルを選択して、［開く］ボタンをクリックします。

③　［アップロード］ボタンをクリックします。

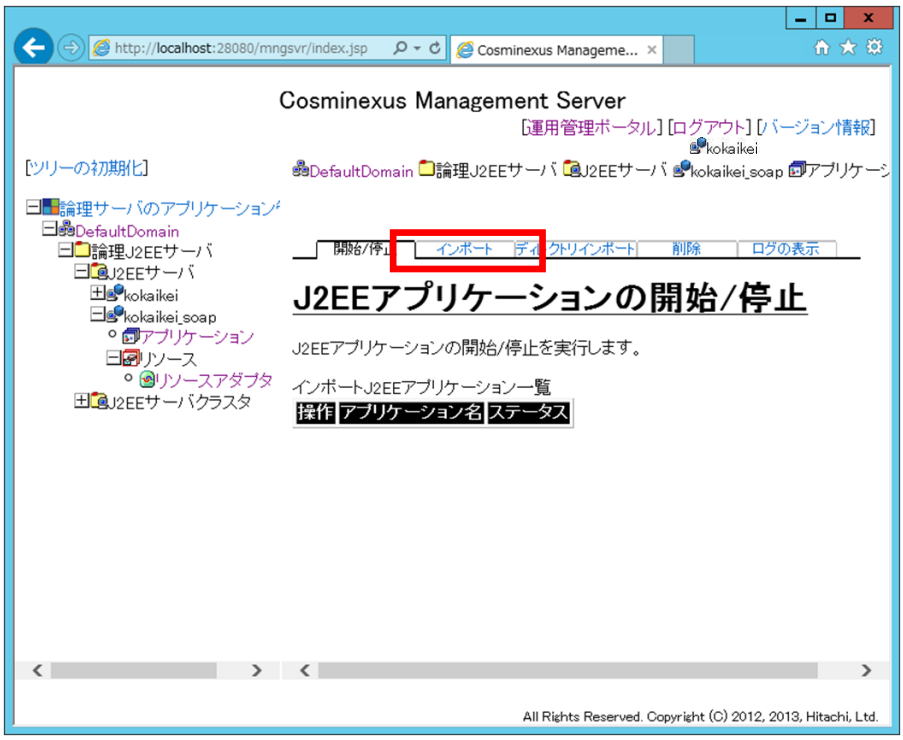
87) ［J2EE アプリケーションのアップロード］画面で、

① 「KEOS18512-I J2EE アプリケーションファイルのアップロードに成功しました。」メッセージを確認します。

② ［論理サーバのアプリケーション管理］－［DefaultDomain］－［論理 J2EE サーバ］－［J2EE サーバ］－［kokaikei_soap］－［アプリケーション］をクリックします。



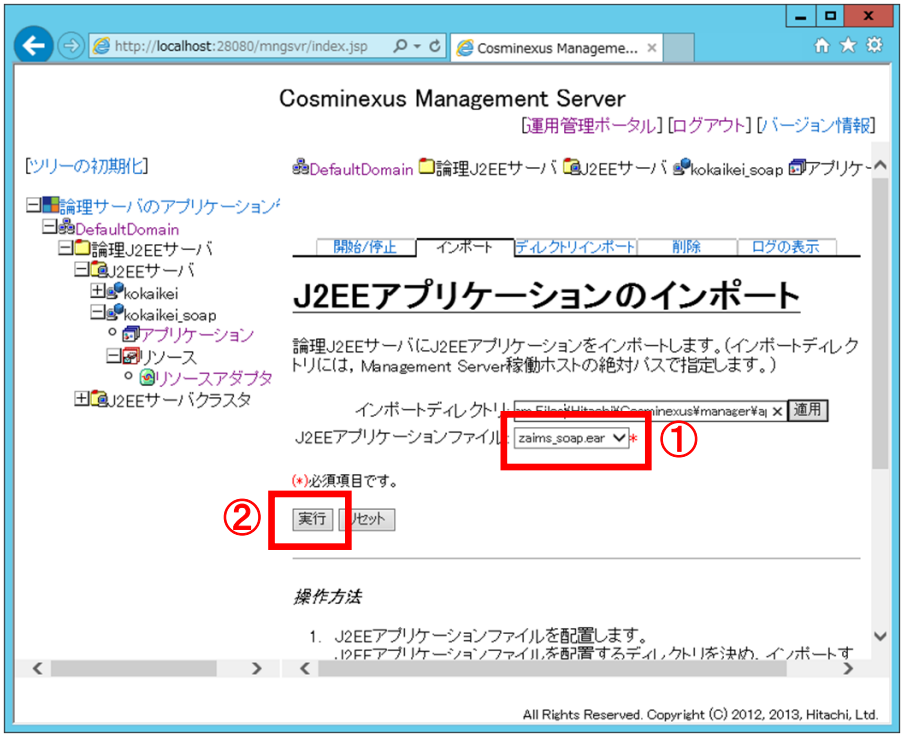
88) ［J2EE アプリケーションの開始/停止］画面で、［インポート］をクリックします。



89) ［J2EE アプリケーションのインポート］画面で、

① ［J2EE アプリケーションファイル］欄のドロップダウンリストからアップロードした J2EE アプリケーションファイル「zaims_soap.ear」を選択します。

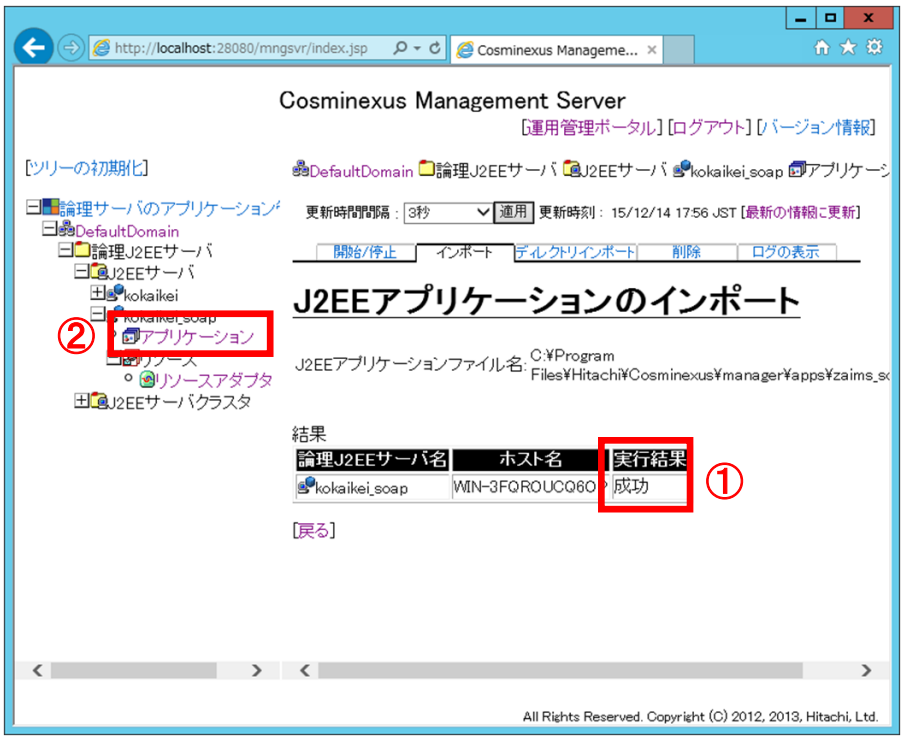
② ［実行］ボタンをクリックします。



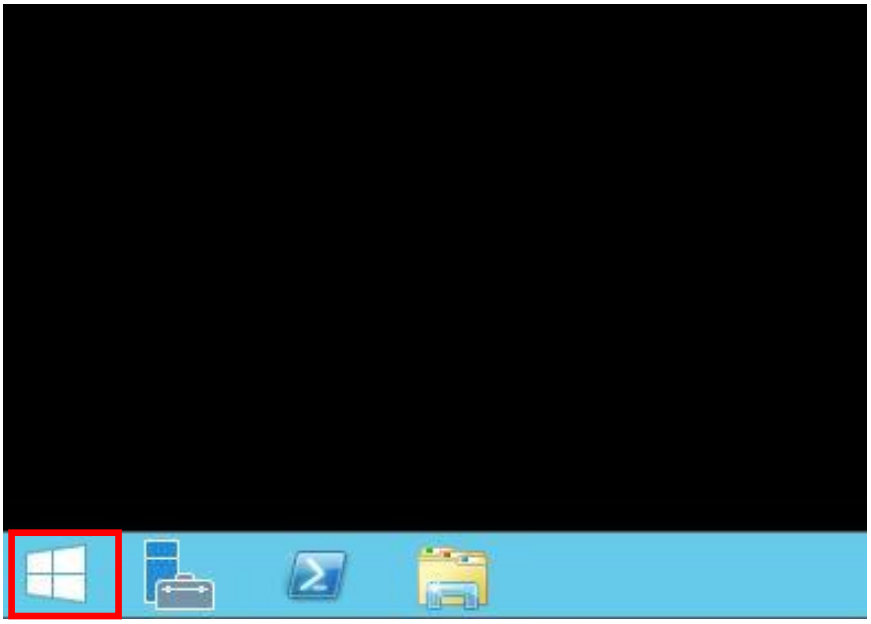
90) ［J2EE アプリケーションのインポート］画面で、

① ［実行結果］が「成功」であることを確認します。

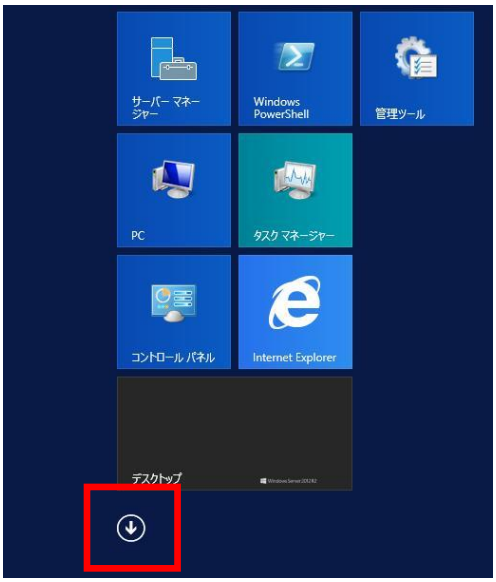
② ［論理サーバのアプリケーション管理］－［DefaultDomain］－［論理 J2EE サーバ］－［J2EE サーバ］－［kokaikei_soap］－［アプリケーション］をクリックします。



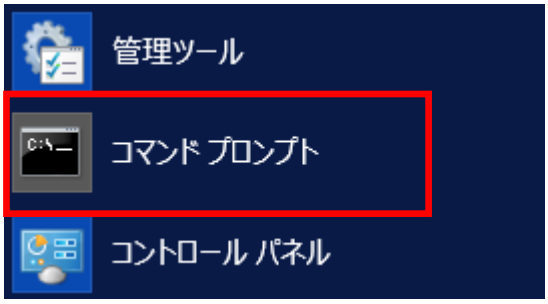
91) ［スタート］ボタンをクリックします。



92) ［下矢印］ボタンをクリックします。



93) ［コマンドプロンプト］をクリックして、コマンドプロンプトを起動します。



94) ［コマンドプロンプト］画面で、「cd /d "C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin"」コマンドを実行します。

（注）別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で［uCosminexus Application Server のインストールディレクトリ］を推奨値（C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus）以外のディレクトリに設定した場合は、上記拡張パスの該当部分を設定したディレクトリに変更してください。※項番 95)の手順も同様。

```
>cd /d "C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin"
```

95) ［コマンドプロンプト］画面で、「>」の前が、「C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin」になっていることを確認します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>
```

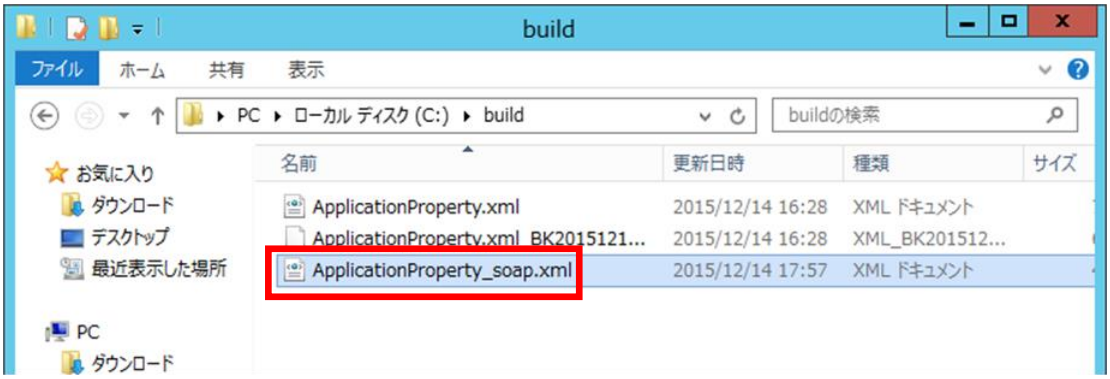
96) 「cjgetappprop kokaikei_soap -nameserver corbaname::localhost:901 -name zaims_soap -type all -encoding Shift_JIS -c C:¥build¥ApplicationProperty_soap.xml」コマンドを実行しま”す。

```
>cjgetappprop kokaikei_soap -nameserver corbaname::localhost:901 -name zaims_soap -type all -encoding Shift_JIS -c
C:¥build¥ApplicationProperty_soap.xml
```

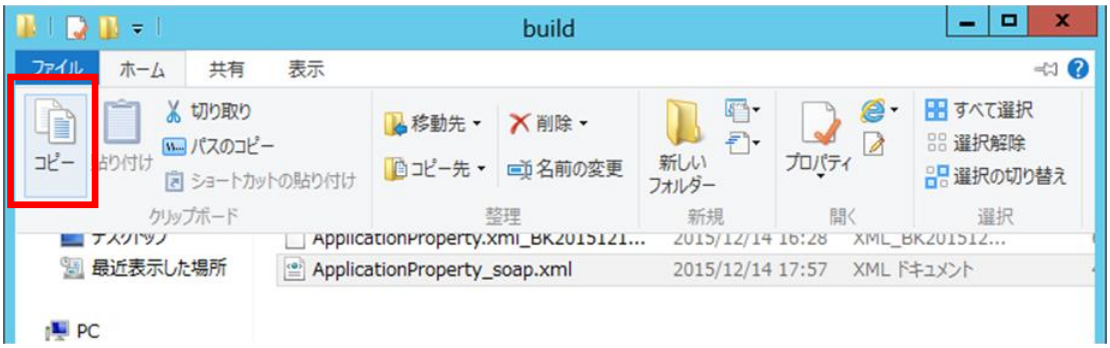
97) 実行結果が「successfully」であることを確認します。

```
KDJE37400-I Connecting to kokaikei_soap...
KDJE37401-I Searching zaims_soap...
KDJE37408-I Acquiring zaims_soap...
KDJE37505-I Application has been obtained successfully. (name = [zaims_soap])
```

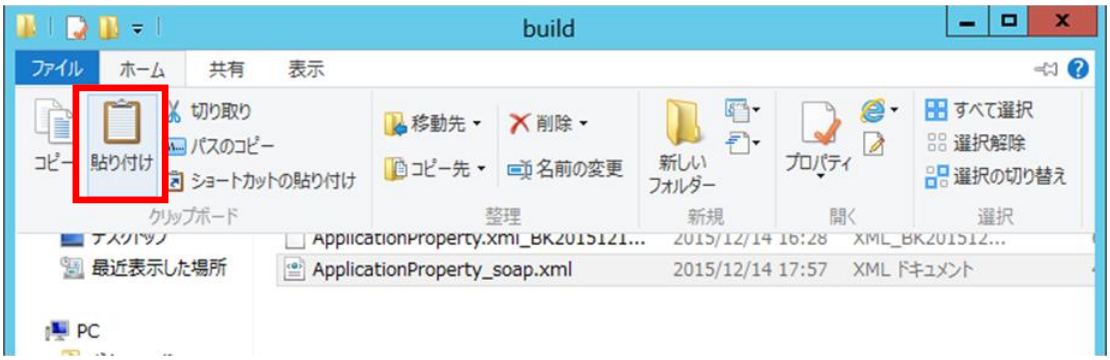
98) エクスプローラーで「C:¥build」フォルダ下の「ApplicationProperty_soap.xml」ファイルを選択します。



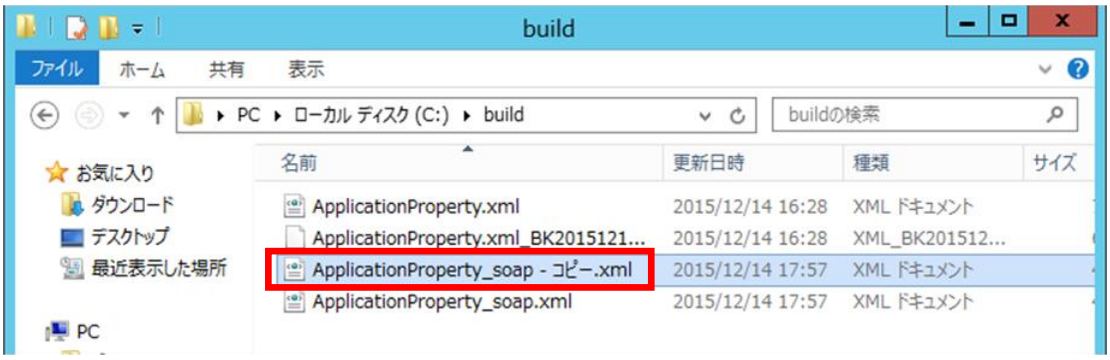
99) 「ApplicationProperty_soap.xml」ファイルを選択した状態で、［ホーム］ - ［コピー］を選択します。



100) ［ホーム］ - ［貼り付け］を選択します。

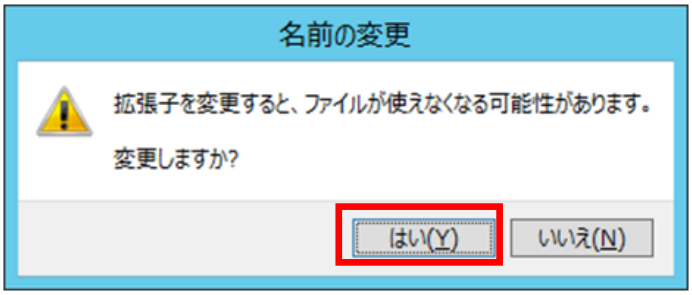


101) 「ApplicationProperty_soap - コピー.xml」ファイルが作成されたことを確認します。

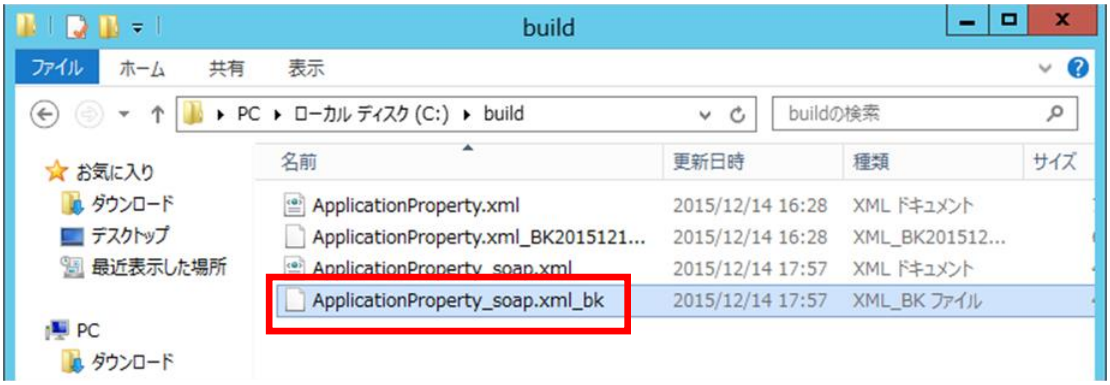


102) バックアップとしてコピーした「ApplicationProperty_soap - コピー.xml」ファイルの名前を「ApplicationProperty_soap.xml_bk」に変更します。

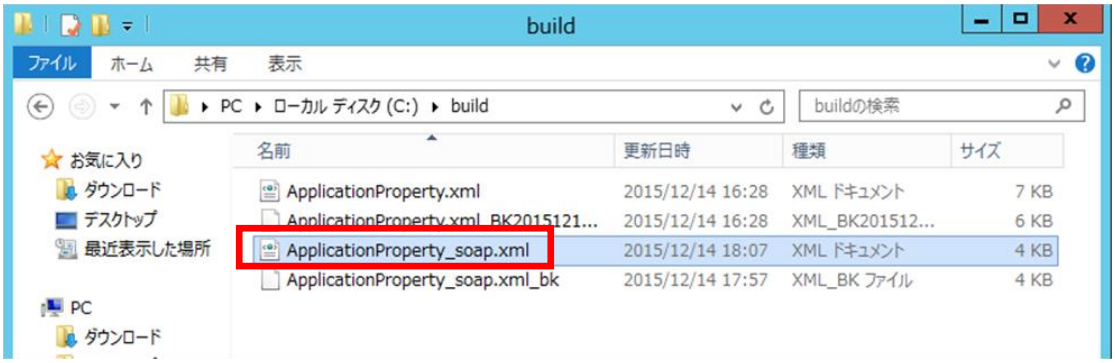
① 「拡張子を変更すると、ファイルが使えなくなる可能性があります。変更しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。



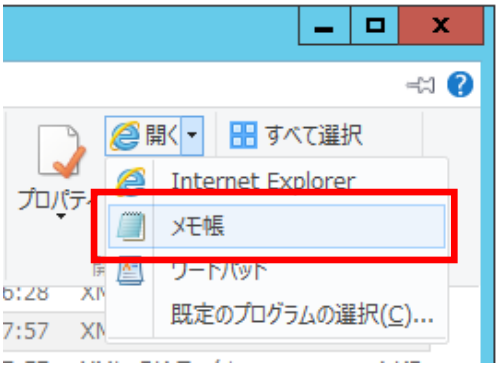
② 「ApplicationProperty_soap - コピー.xml」ファイルの名前が「ApplicationProperty_soap.xml_bk」に変更されていることを確認します。



103) エクスプローラーで「ApplicationProperty_soap.xml」ファイルを選択します。



104) 「ApplicationProperty_soap.xml」ファイルを選択した状態で、［ホーム］メニューをクリックして、［開く］メニューの［開く］欄のドロップダウンリストから「メモ帳」をクリックします。



105) メモ帳で開いた「ApplicationProperty_soap.xml」ファイル画面で、次に示すの赤枠で囲まれている部分の内容を追記します。

＜変更前の「ApplicationProperty_soap.xml」ファイル＞

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
（省略）
<description xml:lang="en"></description>
<res-ref-name>ZAIMS_SOAP</res-ref-name>
<res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
<res-auth>Container</res-auth>
<res-sharing-scope></res-sharing-scope>
<linked-to></linked-to>
</resource-ref>
（省略）
```

< linked-to >と</ linked-to >の間に
「DB Connector for HiRDB Type4 ZAIMS SOAP」と追記します。

＜変更後の「ApplicationProperty_soap.xml」ファイル＞

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
（省略）
<description xml:lang="en"></description>
<res-ref-name>ZAIMS_SOAP</res-ref-name>
<res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
<res-auth>Container</res-auth>
<res-sharing-scope></res-sharing-scope>
<linked-to>DB_Connector_for_HiRDB_Type4_ZAIMS_SOAP</linked-to>
</resource-ref>
（省略）
```

106) メモ帳で開いた「ApplicationProperty_soap.xml」ファイル画面で、［ファイル］-［上書き保存］をクリックします。

107) メモ帳で開いた「ApplicationProperty_soap.xml」ファイル画面で、右上の［×］ボタンをクリックして画面を閉じます。

108) ［コマンドプロンプト］画面で、「cd /d "C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin"」コマンドを実行します。

（注）別冊資料「地方公会計標準ソフトウェア インストール手順書（サーバ／シングル構成編）」の「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で［uCosminexus Application Server のインストールディレクトリ］を推奨値（C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus）以外のディレクトリに設定した場合は、上記拡張パスの該当部分を設定したディレクトリに変更してください。※項番 109)の手順も同様

```
>cd /d "C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin"
```

109) ［コマンドプロンプト］画面で、「>」の前が、「C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin」になっていることを確認します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>
```

110) 「cjsetappprop kokaikei_soap -nameserver corbaname::localhost:901 -name zaims_soap -type all -c C:¥build¥ApplicationProperty_soap.xml」コマンドを実行しま”す。

```
>cjsetappprop kokaikei_soap -nameserver corbaname::localhost:901 -name zaims_soap -type all -c
C:¥build¥ApplicationProperty_soap.xml
```

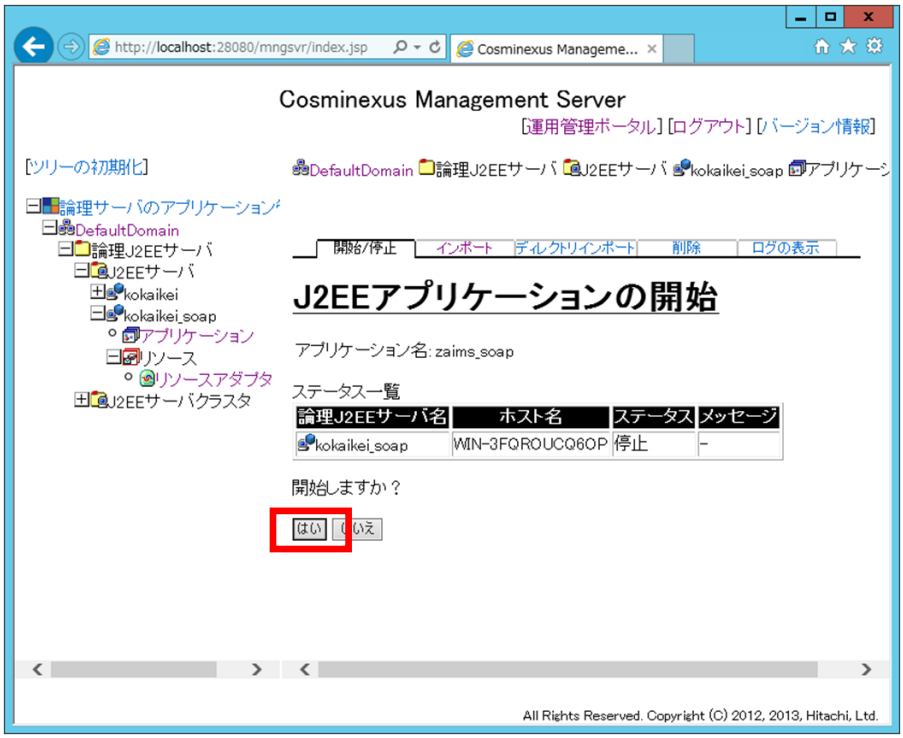
111) 実行結果が「successfully」であることを確認します。

```
KDJE37400-I Connecting to kokaikei_soap...
KDJE37401-I Searching zaims_soap...
KDJE37409-I Setting zaims_soap...
KDJE37506-I Application has been set successfully. (name = [zaims_soap])
```

112) ［コマンドプロンプト］画面で、右上の［×］ボタンをクリックして画面を閉じます。

113) ［J2EE アプリケーションの開始/停止］画面で、［開始］をクリックします。

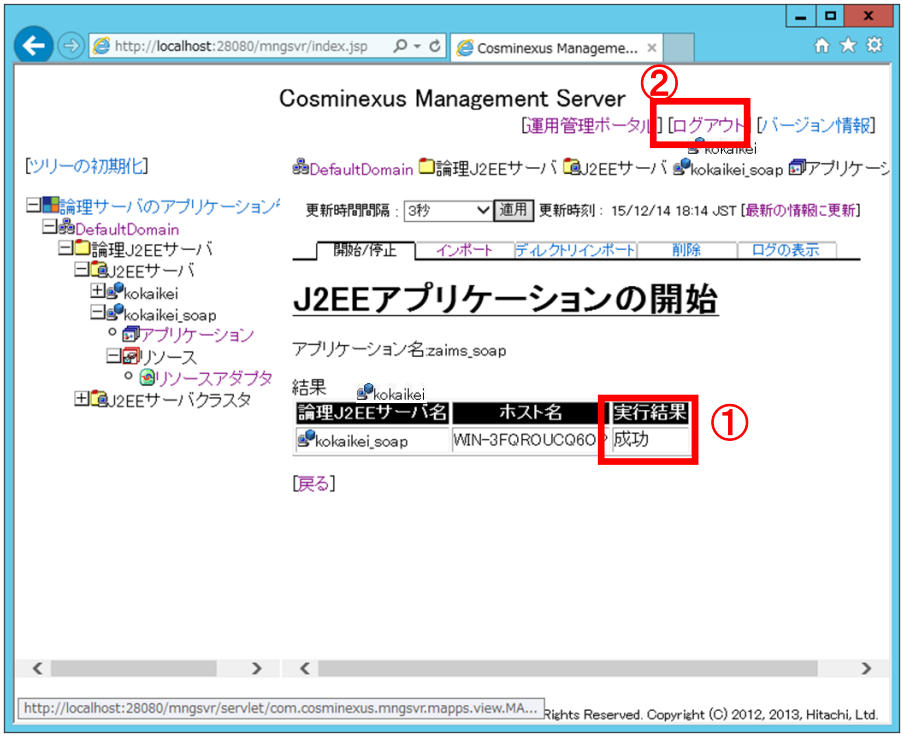
114) ［J2EE アプリケーションの開始/停止］画面で、［はい］ボタンをクリックします。



115) ［J2EE アプリケーションの開始/停止］画面で、

① ［実行結果］が「成功」であることを確認します。

② ［ログアウト］をクリックします。



116) ［ログアウト］画面で、

① 「KEOS10010-I 正常にログアウトされました。」メッセージを確認します。

② 右上の［×］ボタンをクリックします。

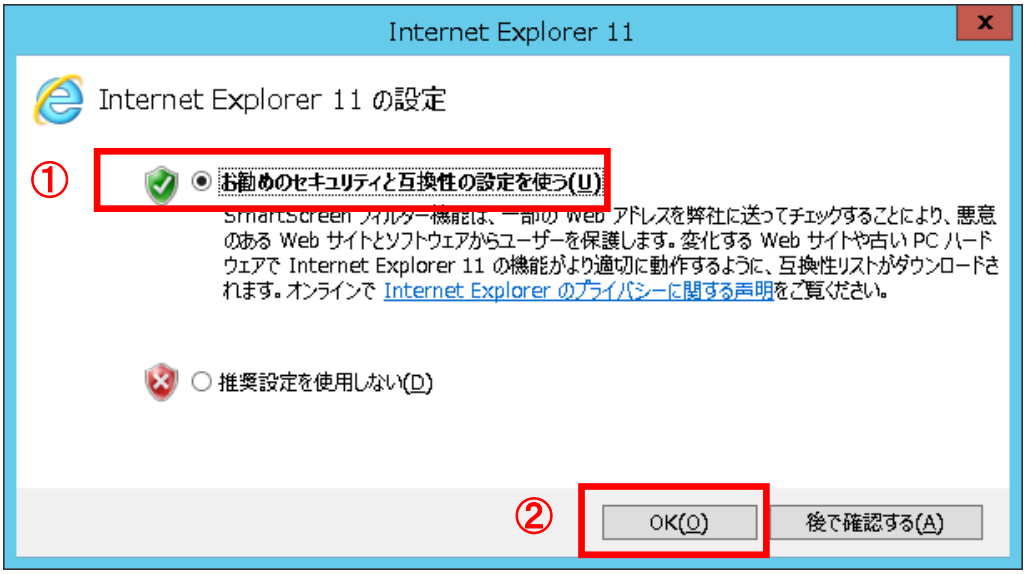
（注）項番 117)～123)は、地方公会計標準ソフトウェアのサーバと SOAP 通信を行う財務会計システムのサーバで実施してください。

117) インターネットエクスプローラを起動します。

118) 以下の［Internet Explorer 11 の設定］画面が表示された場合には、

① ［お勧めのセキュリティと互換性の設定を使う］欄のラジオボタンを選択します。

② ［OK］ ボタンをクリックします。



119) インターネットエクスプローラで、次に示す URL をアドレスバーに入力して、［Enter］キーを押します。

DNS を使用している場合は、

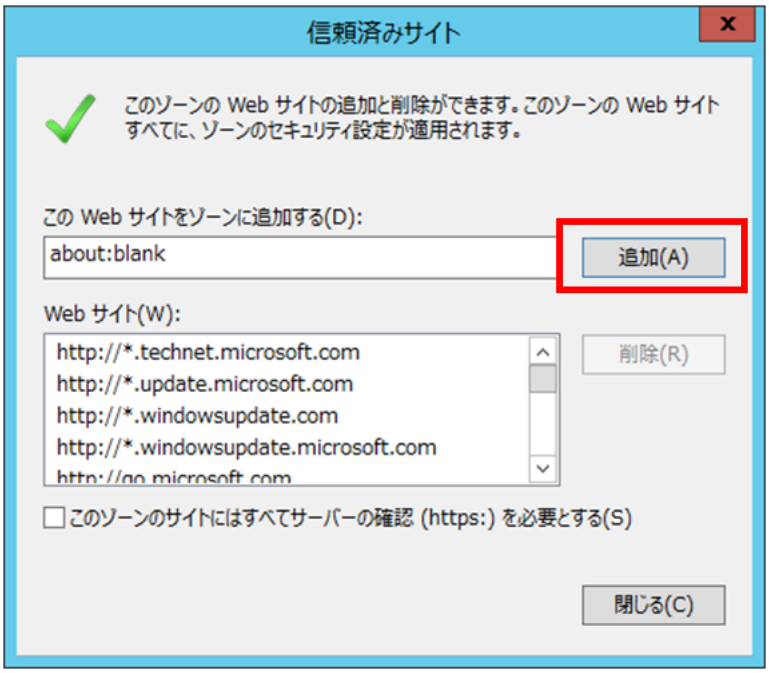
http://<サーバの FQDN>:10080/zaims_soap/ZAIMS_SEARCH_SWKCODE_LIST_PSV?wsdl

DNS を使用していない場合は、

http://<サーバのホスト名>:10080/zaims_soap/ZAIMS_SEARCH_SWKCODE_LIST_PSV?wsdl

120) インターネットエクスプローラ画面に「下に表示されている Web サイトのコンテンツは、Internet Explorer セキュリティ強化の構成によってブロックされています。」のメッセージが表示された場合は、［追加］ボタンをクリックします。

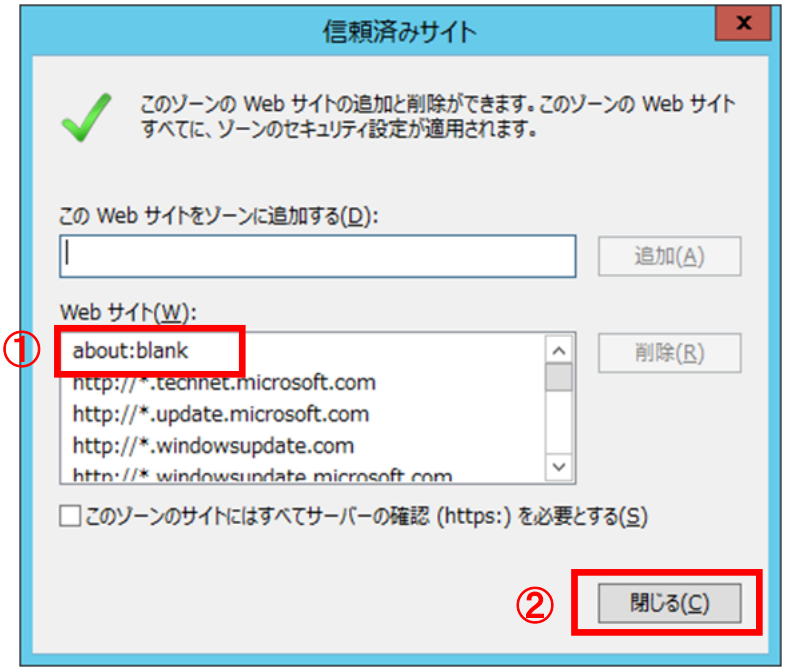
121) ［信頼済み］サイト画面で、［追加］ボタンをクリックします。



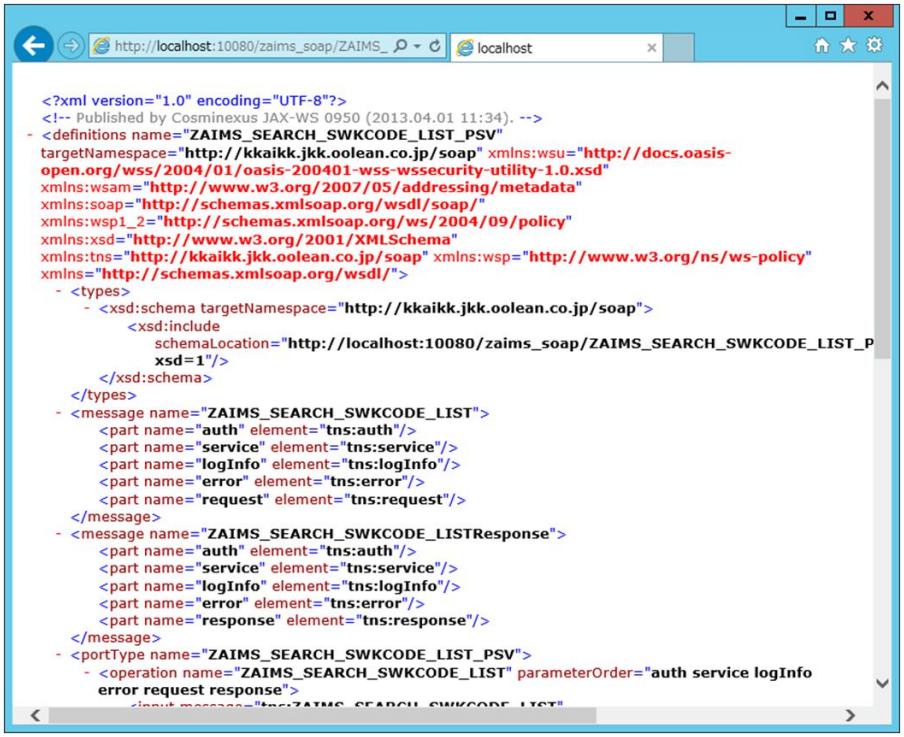
122) ［信頼済みサイト］画面で、

① ［Web サイト］欄に「about:blank」が追加されたことを確認します。

② ［閉じる］ボタンをクリックします。



123) インターネットエクスプローラ画面に以下の内容が表示されることを確認します。



3 OS 再起動後の確認

この章では、OS 再起動後の確認方法について説明します。

3.1　OS 再起動後の確認

3.2　地方公会計標準ソフトウェア（日々仕訳部分）の利用開始にあたって

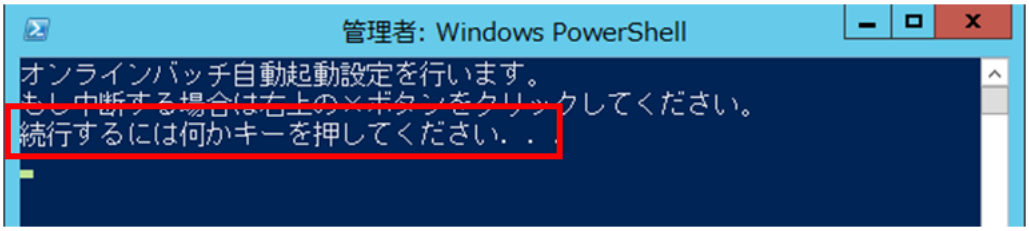
3.1　OS 再起動後の確認

ここでは、OS 再起動後の確認方法について説明します。OS 再起動後の確認は、サーバで実施してください。

1) 「C:¥kokaikei¥setup_zaims¥setup_tools¥ C08_HbswkSetupTools」フォルダ下の「C08-01_オンライン自動起動設定. bat」ファイルをダブルクリックします。

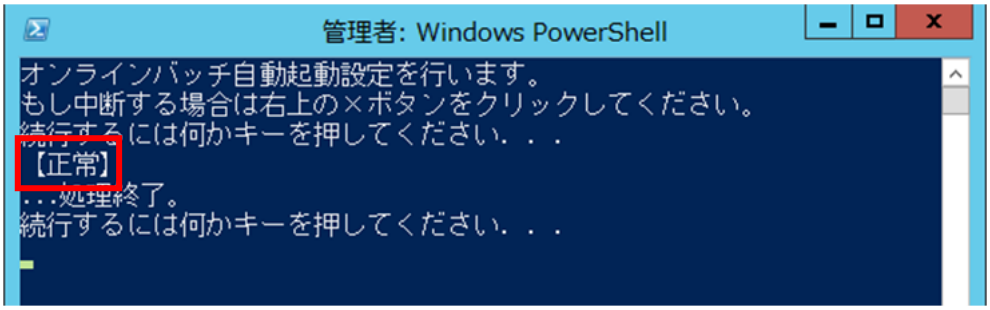
2) 自動的に処理が開始されます。

① 画面に「続行するには何かキーを押してください. . . 」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

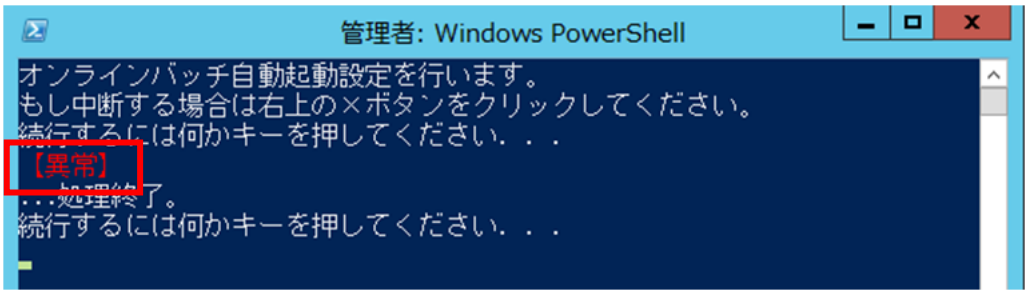


② 以下のように“【正常】”の文字が表示されていることを確認します。なお、処理が正常に終了していない場合は、“【異常】”の文字が表示されます。

＜“【正常】”の文字が表示されている場合＞



＜“【異常】”の文字が表示されている場合＞



③ 画面に「続行するには何かキーを押してください. . . 」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

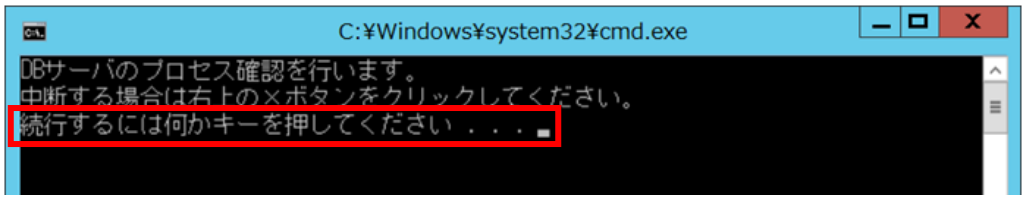
3) **OS を再起動します。**

（注）プロセスが起動するまでに時間がかかる場合があります。そのため、OS 再起動後、5 分程度待ってから、以下の手順を実施してください。

4) 「C:¥kokaikei¥setup_zaims¥unyo_tools」フォルダ下の「DBck01_プロセス確認.bat」ファイルをダブルクリックします。

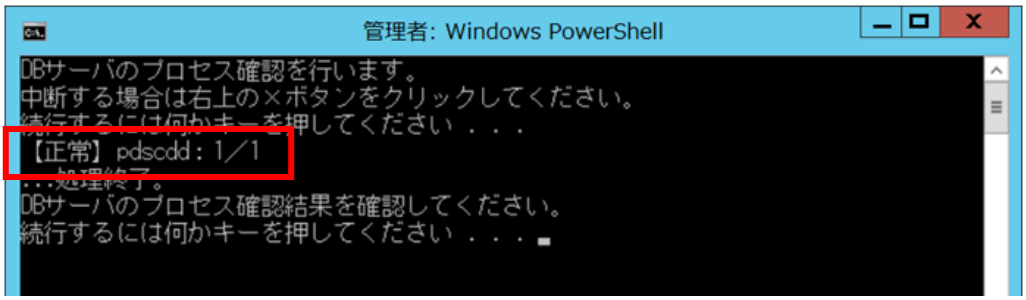
5) 自動的に処理が開始されます。

① 以下のように「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。処理が続行されます。

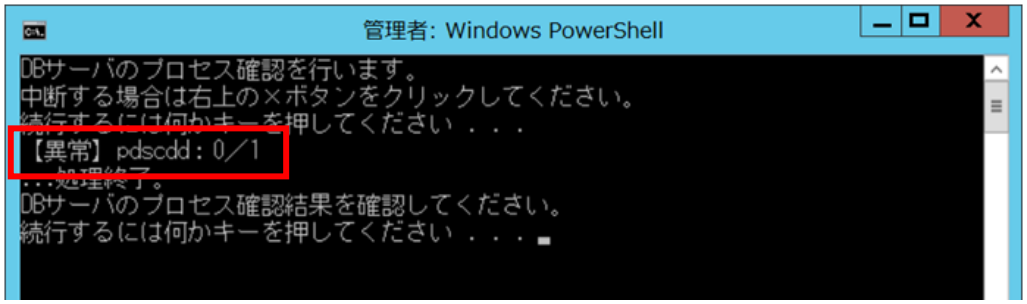


② 以下のように"【正常】"の文字が表示されていることを確認します。なお、DB サーバのプロセスが起動していない場合は、"【異常】"の文字が表示されます。

＜"【正常】"の文字が表示されている場合＞



＜"【異常】"の文字が表示されている場合＞



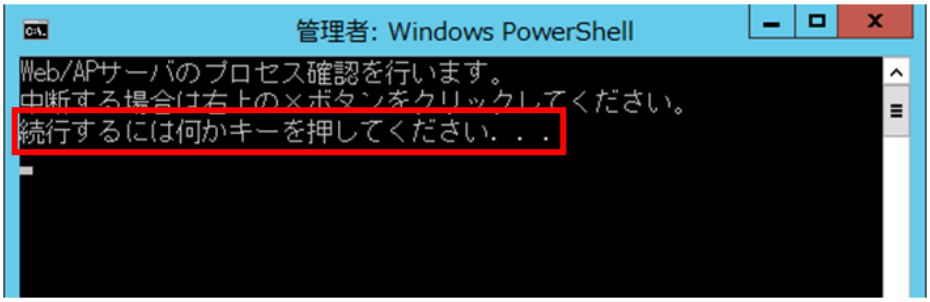
③ 画面に「続行するには何かキーを押してください. . . 」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

6) 3.1 節の項番 5)で"【異常】"の文字が表示されている場合、別冊資料「システム運用マニュアル案」の「4.9 プロセス起動 (1)DB サーバのプロセス起動」に示す手順で DB サーバのプロセスを起動してください。

7) 「C:¥kokaikei¥setup_zaims¥unyo_tools」フォルダ下の「APck01_プロセス確認（日々仕訳）.bat」ファイルをダブルクリックします。

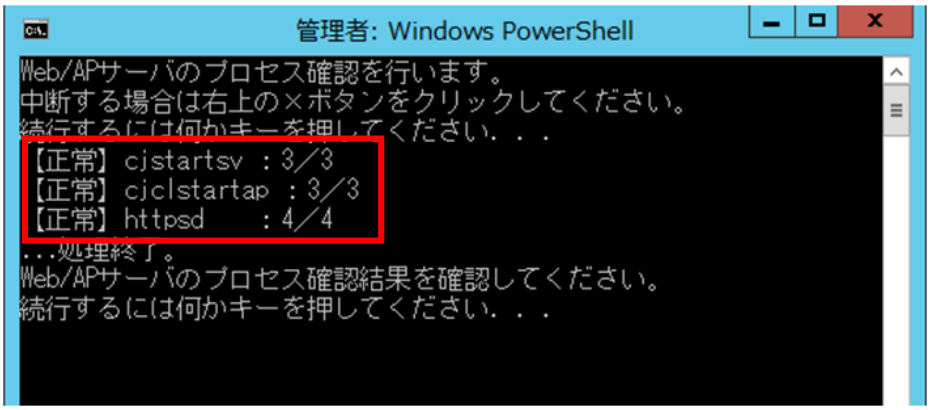
8) 自動的に処理が開始されます。

① 以下のように「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。処理が続行されます。

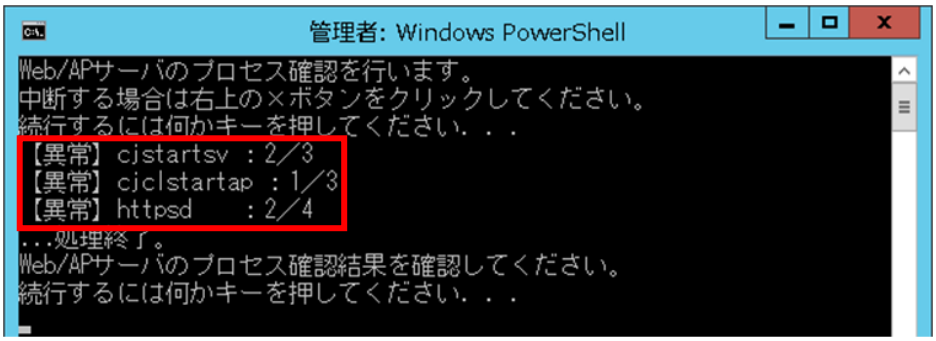


② 以下のように"【正常】"の文字が表示されていることを確認します。なお、Web/AP サーバのプロセスが起動していない場合は、"【異常】"の文字が表示されます。

＜"【正常】"の文字が表示されている場合＞



＜"【異常】"の文字が表示されている場合＞



③ 画面に「続行するには何かキーを押してください. . . 」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

9) 3.1 節の項番 8)で「cjstartsv」または「httpsd」の前に"【異常】"の文字が表示されている場合は、別冊資料「システム運用マニュアル案」の「4.9 プロセス起動 (2) Web/AP サーバのプロセス起動」に示す手順でプロセスを起動します。また、3.1 節の項番 8)で「cjclstartsv」の前に"【異常】"の文字が表示されている場合は、別冊資料「システム運用マニュアル案」の「4.9 プロセス起動 (3) 地方公会計標準ソフトウェアオンラインバッチのプロセス起動」に示す手順でプロセスを起動します。

3.2　地方公会計標準ソフトウェア（日々仕訳部分）の利用開始にあたって

以上で地方公会計標準ソフトウェア（日々仕訳部分）のインストール作業は完了です。尚、本手順でセットアップされる地方公会計標準ソフトウェア（日々仕訳部分）利用に必要な情報を以下に示します。以下の情報を用いて、別冊資料「操作手順書」に沿って利用開始してください。

項番	必要な情報	値	備考
1	Web サービスインターフェース情報(WSDL)	・DNS を使用している場合 http://<サーバの FQDN>:10080/zaims_soap/ZAIMS_SEARCH_SWKCODE_LIST_PSV?wsdl ・DNS を使用していない場合 http://<サーバのホスト名称>:10080/zaims_soap/ZAIMS_SEARCH_SWKCODE_LIST_PSV?wsdl	
2	仕訳勘定科目の照会の要求電文送信 URL	・DNS を使用している場合 http://<サーバの FQDN>:10080/zaims_soap/ZAIMS_SEARCH_SWKCODE_LIST_PSV ・DNS を使用していない場合 http://<サーバのホスト名称>:10080/ zaims_soap/ZAIMS_SEARCH_SWKCODE_LIST_PSV	
3	日々仕訳取込ファイル監視フォルダ	C:¥kokaikei¥batch_hbswk¥hbswk_watch¥watch	利用開始前に連携元の財務会計システムから日々仕訳取込ファイルを左記フォルダに格納できるようサーバの設定を追加する必要がある。※1

※1 日々仕訳では、連携元の財務会計システムから日々仕訳取込ファイルを日々仕訳取込ファイル監視フォルダに格納されることを前提としており、地方公会計標準ソフトウェアの機能により日々仕訳取込ファイル監視フォルダを定期的にチェックし、日々仕訳取込ファイルが存在した場合、日々仕訳取込ファイルを取り込む処理を行います。そのため、日々仕訳の場合は連携元の財務会計システムから日々仕訳取込ファイルを日々仕訳取込ファイル監視フォルダに格納することが可能なようサーバ上での設定を追加してください。（サーバ上で追加する設定の一例としては、日々仕訳取込ファイル監視フォルダに連携元の財務会計システムからファイル共有プロトコル（SMB）を使用して日々仕訳取込ファイルを日々仕訳取込ファイル監視フォルダに保存するような連携方式を想定した場合、日々仕訳取込ファイル監視フォルダをサーバの OS 上で共有フォルダとして設定することが考えられます。サーバの OS 上での共有フォルダの設定方法は、付録 A をご参照ください。）また、財務会計システムから連携される日々仕訳取込ファイルは、別冊資料「インタフェース仕様書」に示すインタフェースに合わせてください。

付録

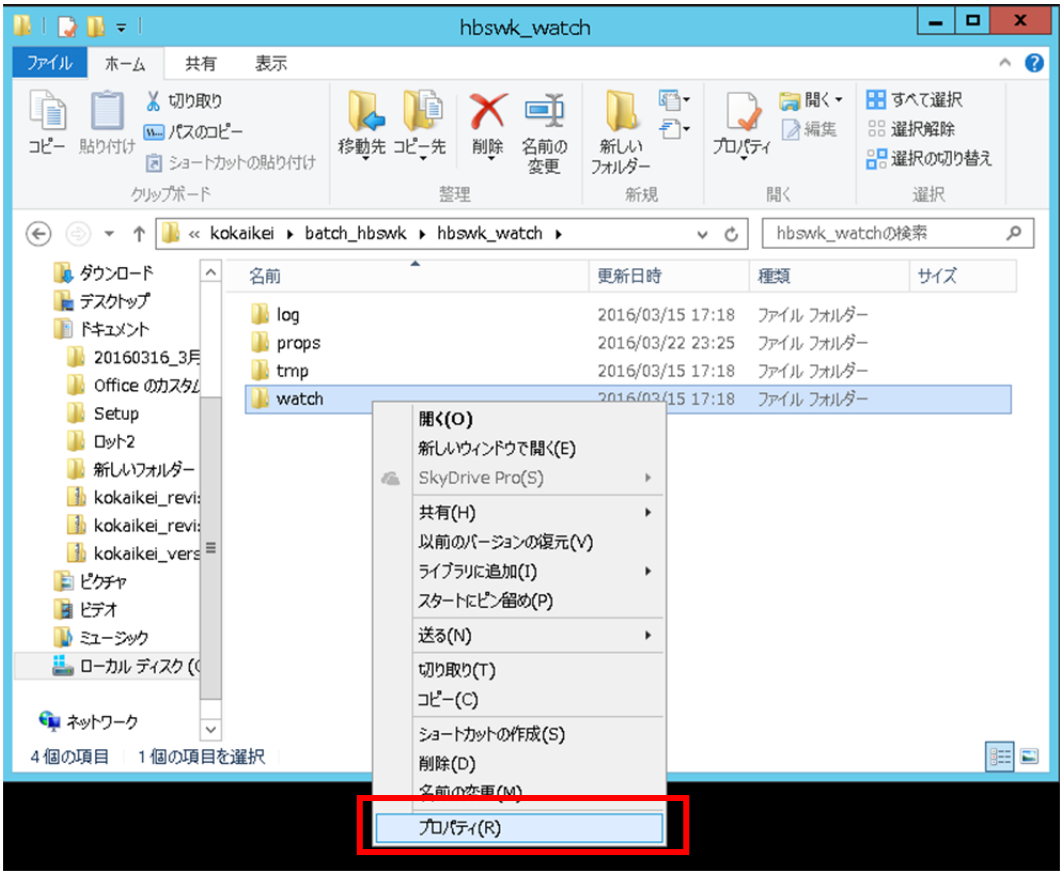
この章では、日々仕訳の場合の追加セットアップ手順において必要な場合に参照して頂きたい項目について説明しています。

付録 A　共有フォルダの設定方法

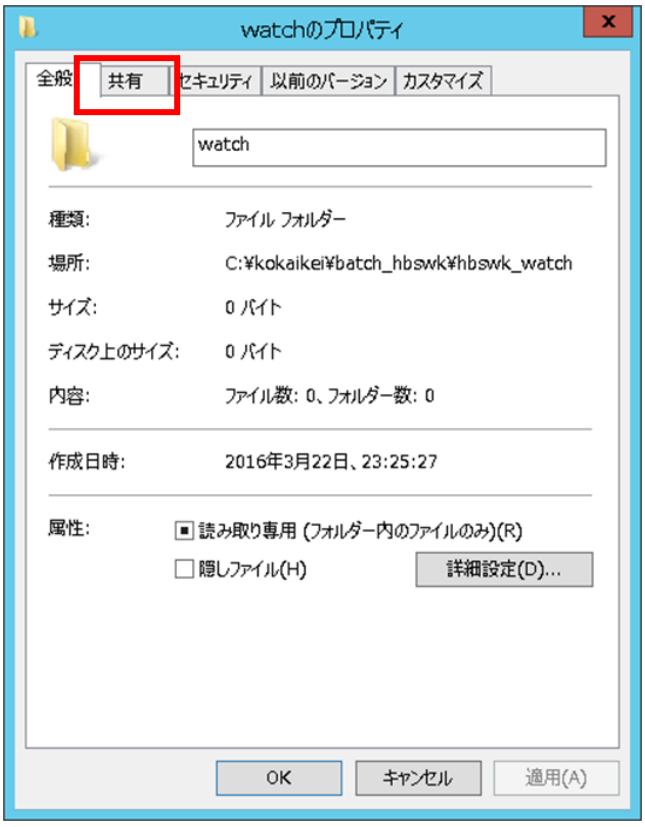
付録 A 共有フォルダの設定方法

共有フォルダの設定方法について、以下に説明します。

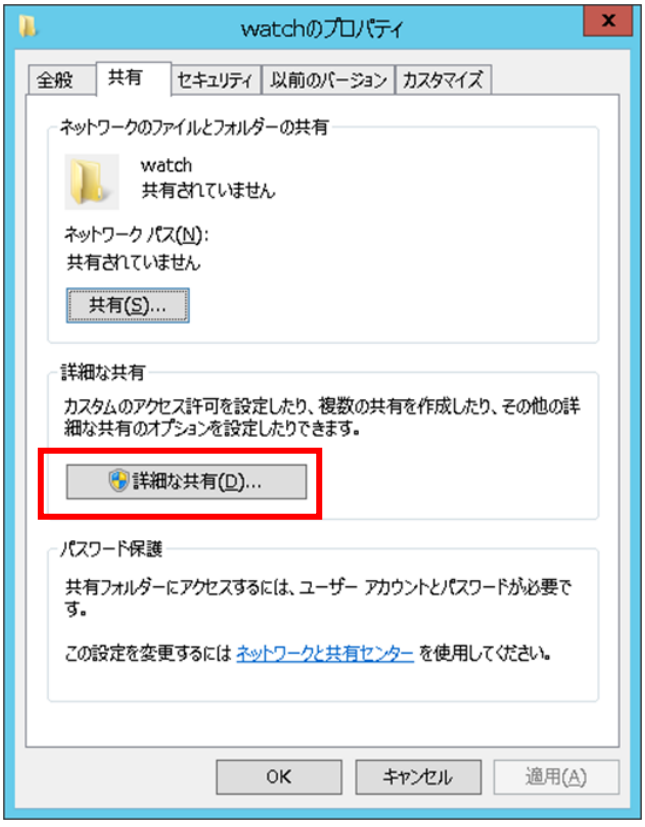
1) 日々仕訳取込ファイル監視フォルダ「C:¥kokaikei¥batch_hbswk¥hbswk_watch¥watch」を選択した状態で**右クリック**して、［プロパティ］をクリックします。



2) ［watch のプロパティ］画面で、［共有］をクリックします。



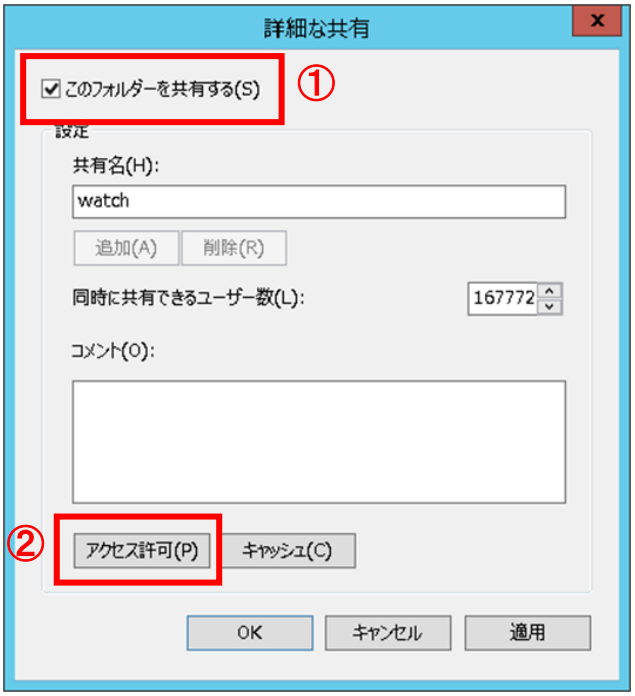
3) ［watch のプロパティ］ - ［共有］画面で、［詳細な共有］ボタンをクリックします。



4) ［詳細な共有］画面で、

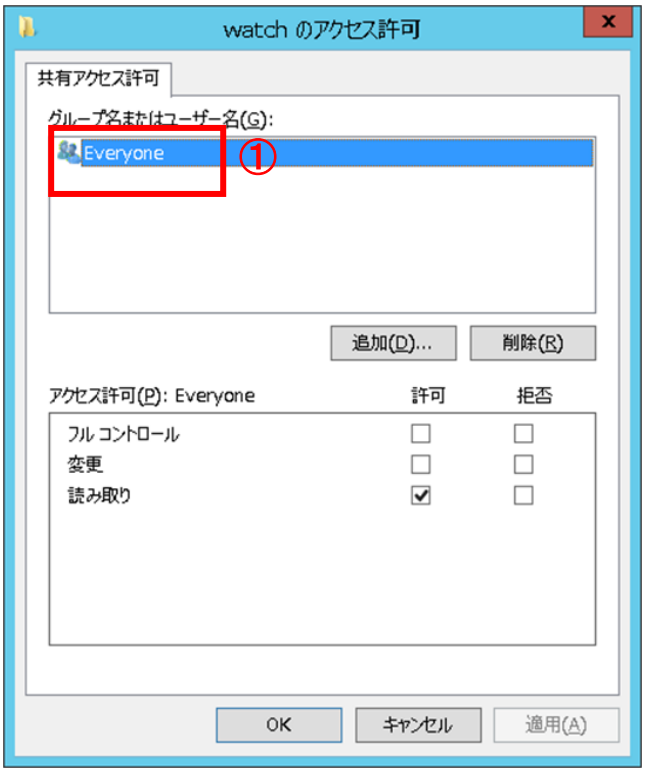
① ［このフォルダーを共有する］のチェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。

② ［アクセス許可］ボタンをクリックします。



5) ［watch のアクセス許可］画面で、

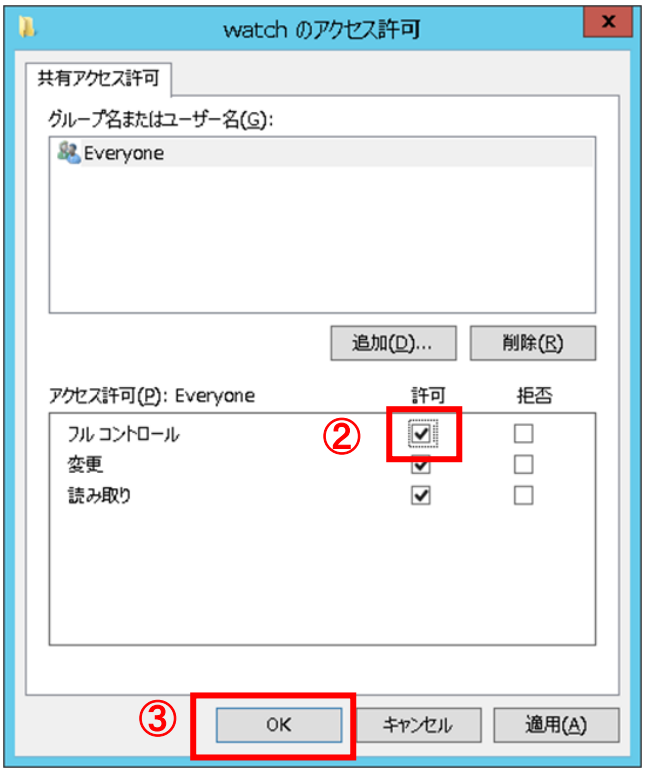
① グループ名またはユーザー名を選択します。以下では例として、「Everyone」を選択します。



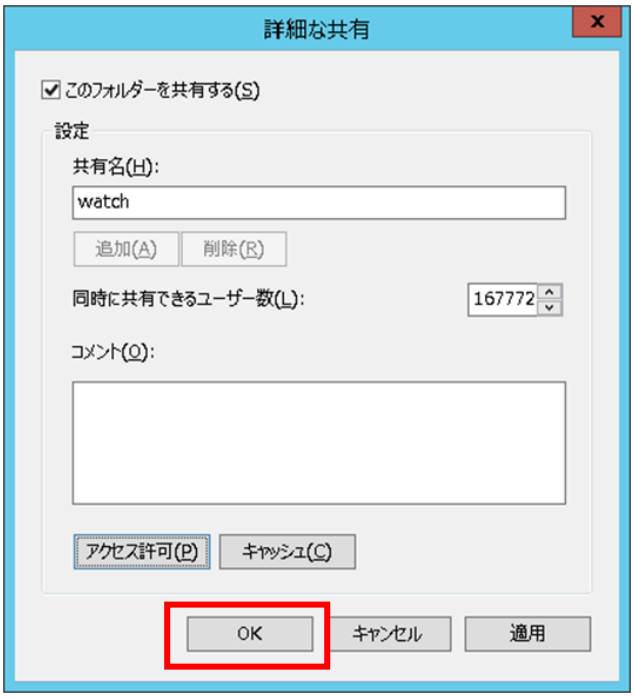
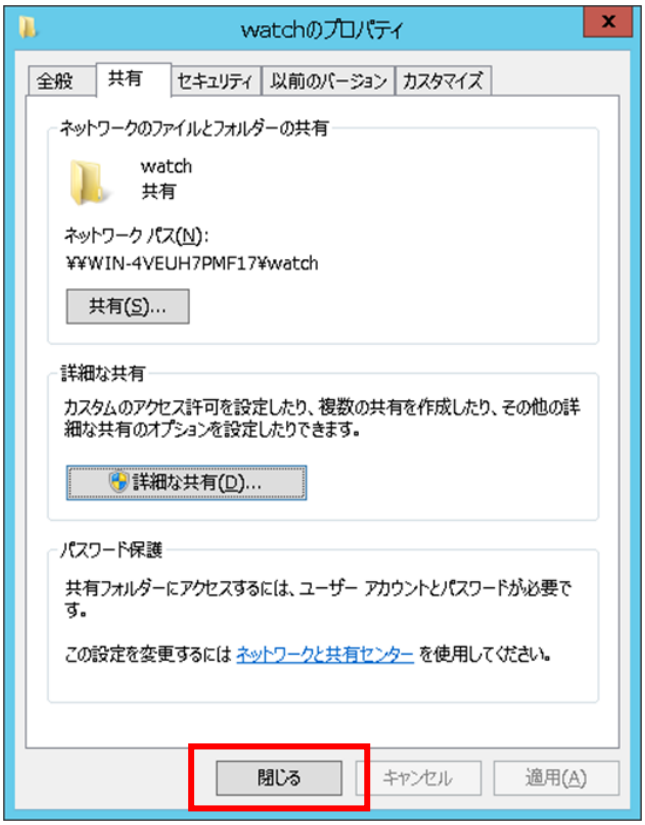
② 「Everyone」を選択した状態で、［アクセス許可］欄の［フルコントロール］のチェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。

（注）［フルコントロール］のチェックボックスをクリックすると、［変更］のチェックボックスにも自動的にチェックが付きます。

③ ［OK］ボタンをクリックします。



6) ［詳細な共有］画面で、［OK］ボタンをクリックします。



7) ［watch のプロパティ］画面で、［閉じる］ボタンをクリックします。